

# 令和2年度入学生用カリキュラムマップ

【教育学科】

【学科演習科目コース共通】

| 科目番号       | 科目名     | 学年  | 科目目的   | 到達目標   | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |   |          |   |           |   |
|------------|---------|-----|--|--|---|-----|----------|---|----------|---|-----------|---|
|            |         |     |  |  | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |   |          |   |           |   |
|            |         |     |  |  | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |   | 3. 思考・判断 |   | 4. 態度・志向性 |   |
| 1-1        | 1-2     | 2-1 | 2-2  | 3-1  | 3-2   | 4-1 | 4-2      |   |          |   |           |   |
| 20UEDS1101 | 初期演習 I  | 1   | 初年次学生が、学院の教育理念と歴史について学び、本学学生としての誇りと自覚を持ち、大学生にふさわしい主体性・論理性・実行力を培い、学部・学科の教育目標を達成するように導くことである。  | (1) 歴史について理解する。<br>(2) 主体的に学び、実践する姿勢を身につけ、積極的に意見を発表・伝達するために、本を読み、自ら考え、文章に表現するなどの基礎的な能力を養う。<br>(3) 学生相互や担任教員との豊かで円滑な人間関係の基礎を築く。<br>(4) 女性として社会で活躍するための、キャリア形成の基礎を身につける。 |   |     |          | ◎ |          |   |           | ○ |
| 20UEDS1102 | 初期演習 II | 1   | 初期演習 I で学んだことを踏まえて、2 年次以降の専門領域の学習のための準備として、大学での学び方を演習形式で実践することにより研究のための基礎・基本を身につけることを目的とする。  | (1) 教育学・保育学に関する問題について、文献の正確な読み方および課題発見、資料検索、データ収集の方法について理解する。<br>(2) 収集したデータの分類整理、論理的な言説の展開、説得力のある提示や発表の仕方などを行うことができる。   |   |     |          | ◎ |          | ○ | ○         |   |
| 20UEDS2201 | 2 年次演習  | 2   | 初期演習での学習をふまえて、現代社会における教育に関する課題を主体的に見つけ、それらについて議論、検討し、得られた知見をプレゼンテーションやレポート発表によって表現する力量を形成する。それにより、教師・保育者として必要な、課題を発見し、解決する力、論理的に思考する力、創造的に表現する力を身につける。 | (1) 子どもと教育に関して、グループでテーマを設定して調査し、まとめ、プレゼンテーションを行うことができる。<br>(2) 子どもと教育の問題に関して、データの収集、整理、分析を通して新しい知見を生み出し、それをレポートにまとめることができる。  |   |     |          | ○ |          | ◎ |           |   |
| 20UEDS3201 | 教育演習    | 3   | 卒業研究に繋がる科目である。少人数の演習形式の授業を通して、教育・保育に対する深い理解と、論文を作成するなどの教育・保育に必要な技能、ディスカッションする力、教育・保育に関する課題を自ら探究する力を身につける。また、担当者によっては、専門的なスキルの習得とプレゼンテーション能力を重視する。      | (1) 次年度に卒業研究に取り組むために必要なさまざまな知識とスキルを身につける。<br>(2) 教育・保育に関する問題を深く考え、他の人と議論し、論理的な結論を導き出すことができる。<br>(3) 身につけたスキルをもとに、説得力あるプレゼンテーションができる。                                   |   |     |          |   |          | ◎ |           | ○ |
| 20UEDS4201 | 卒業研究    | 4   | 自分で選択したテーマについての理解を深めるとともに、論文の形にまとめていくことを目的とする。教育演習で身につけた、教育・保育に関する課題を自ら探究する力を一層高める。また、担当者によっては、作品公開や技能実演を目的とする。  | (1) 研究に必要な幅広く深い知識と、研究を進めるためのスキルを身につける。<br>(2) 教育・保育に関する多様な考えを批判的に理解し、自分の見解をもつことができる。<br>(3) 身につけたスキルをもとに、説得力あるプレゼンテーションができる。   |   |     |          |   |          | ○ |           | ◎ |

# 令和2年度入学生用カリキュラムマップ

【教育学科】

【初年次コース共通科目】

| 科目番号       | 科目名    | 学年   | 科目目的   | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |  |          |  |           |   |  |
|------------|--------|------|--|---|---|-----|----------|--|----------|--|-----------|---|--|
|            |        |      |  |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |  |          |  |           |   |  |
|            |        |      |  |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |  | 3. 思考・判断 |  | 4. 態度・志向性 |   |  |
| 1-1        | 1-2    | 2-1  | 2-2  | 3-1   | 3-2   | 4-1 | 4-2      |  |          |  |           |   |  |
| 20UEDC1101 | 日本国憲法  | 1    | 教職を目指す人の基礎的な素養として、日本国憲法の基本的な理念とその表現である主な条文について理解を深める。  | (1) 憲法と法律の違いを説明できる。<br>(2) 日本国憲法についての基本的知識をもつ。<br>(3) 社会の諸事象を日本国憲法に照らして考えることができる。   | ◎   |     |          |  |          |  |           |   |  |
| 20UEDC1181 | 英語     | I 1  | 中学校外国語科（英語）の指導に対応するだけでなく、広く社会で英語が使われることに鑑み、英語の4つの技能（話す、聞く、書く、読む）を有機的に関連づけて、発音や文法も含めた総合的英語運用能力を身につける。   | (1) 基礎的な文法事項を再確認して、話したり書いたり読んだりするときに活用できる。<br>(2) 基礎的な語彙を確認しながら、英文の内容を正しく読み取ることができる。<br>(3) 日常会話のレベルで英語を聞いて理解し、正しい発音で受け答えができる。  | ◎   |     | ○        |  |          |  |           |   |  |
| 20UEDC1182 | 英語     | II 1 | 中学校外国語科（英語）の指導に対応するだけでなく、広く社会で英語が使われることに鑑み、英語の4つの技能（話す、聞く、書く、読む）を有機的に関連づけて、英語の発声のしくみや文法も含めた総合的英語運用能力を高める。  | (1) 話したり書いたり読んだりすることを正確な文法で行うことができる。<br>(2) 語彙を増やしながら、英文の内容を正しく読み取ることができる。<br>(3) 英語を聞いて理解し、受け答えや自分の意見を述べるができる。   | ◎   |     | ○        |  |          |  |           |   |  |
| 20UEDC1103 | 教育とICT | 1    | 大学教育に適応し、安全で適切な情報活用ができるための基礎的な情報リテラシーを身につける。コンピュータやネットワークの知識、情報モラルの知識と実践力を育成するとともにオフィスソフトの活用をもとにしたレポート作成の基礎的な技能を確実に習得する。さらに、教員・保育士の仕事を援助する道具としてコンピュータを使いこなす能力と、教職に必要な情報教育についての高度な情報処理能力を獲得し、情報化社会に対応した教育を実践できる能力を育成する。 | (1) 本学のシステムやオンラインサービスを知り、使いこなすことができる。<br>(2) 基礎的なコンピュータやネットワークに関する知識、情報モラルに関する知識を持ち、場面に応じて、安全にコンピュータやネットワークを活用することができる。<br>(3) レポートを作成するために必要なソフトの活用技能を習得し、課題に応じた簡単なレポート作成ができる。<br>(4) 教育・保育に利用できるマルチメディア技術を習得するとともに、教育・保育現場で必要な情報モラルの基本を身につける。 | ○   |     | ◎        |  |          |  |           |   |  |
| 20UEDC1105 | 体育     | I 1  | 体育・スポーツについての講義と体験的活動を通して、教育者・保育者に求められる健康と安全についての知識と技能を身につける。   | (1) 安全対策の理論的背景について理解する。<br>(2) 水泳を安全に実践することができる。<br>(3) 教職に対応できる技能の習熟と安全で効果的な指導法を習得する。  | ◎   |     | ○        |  |          |  |           |   |  |
| 20UEDC1106 | 体育     | II 1 | 体育・スポーツについての体験的活動と講義を通して、教育者・保育者に求められる健康と安全についての知識と技能を身につける。   | (1) 陸上運動とリズムダンスの理論的背景について理解する。<br>(2) 陸上運動とリズムダンスを安全に実践することができる。  | ○   |     | ◎        |  |          |  |           |   |  |
| 20UEDC1202 | 国語科内容論 | 1    | 国語表現の特徴の理解と国語表現の体験的活動を通して、初等教育に携わる教師としての資質・能力の基礎を養う。   | (1) 国語による表現の特質や技法について理解する。<br>(2) 目的に応じて的確に話したり文章に表現することができる。   |   | ◎   |          |  |          |  |           |   |  |
| 20UEDC1206 | 算数科内容論 | 1    | 算数科の基礎的な概念の理解と数学的な思考活動を通して、初等教育に携わる教師としての資質・能力の基礎を養う。  | (1) 「数と計算」「測定」「図形」「変化と関係」「データの活用」の基礎的な知識について理解する。<br>(2) 「数と計算」「測定」「図形」「変化と関係」「データの活用」の内容の系統性を理解する。   |   | ◎   |          |  |          |  |           | ○ |  |





| 科目番号       | 科目名          | 学年  | 科目目的  | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |   |          |  |           |  |
|------------|--------------|-----|---|---|---|-----|----------|---|----------|--|-----------|--|
|            |              |     |   |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |   |          |  |           |  |
|            |              |     |   |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |   | 3. 思考・判断 |  | 4. 態度・志向性 |  |
| 1-1        | 1-2          | 2-1 | 2-2   | 3-1   | 3-2   | 4-1 | 4-2      |   |          |  |           |  |
| 20UEDC1244 | 器 楽 基 礎      | 1   | 読譜力とリズム感の涵養およびピアノの演奏技術の基礎練習を通して、初等教育に携わる教師・保育者としての資質・能力の基礎を養う。  | (1) 基礎的な読譜をするための知識を理解する。<br>(2) 初歩的なピアノ曲の演奏ができる。  |   | ◎   | ○        | ○ |          |  |           |  |
| 20UEDC1260 | 子 ども 家 庭 福 祉 | 1   | 子どもとその家族の社会的背景やその変遷を学び、子どもの権利、関連する児童福祉の理念および知識の理解を深める。また、現代社会における子どもやその家庭に関わる課題についての理解を深め、子どもと家族への支援のあり方を考えることを目的とする。 | (1) 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。<br>(2) 子どもの人権擁護について理解する。<br>(3) 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。<br>(4) 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。<br>(5) 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。 | ◎   |     |          |   |          |  |           |  |



# 令和2年度入学生用カリキュラムマップ

【教育学科】

【小学校教育コース】

| 科目番号       | 科目名           | 学年  | 科目目的  | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |   |          |   |           |   |
|------------|---------------|-----|---|---|---|-----|----------|---|----------|---|-----------|---|
|            |               |     |   |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |   |          |   |           |   |
|            |               |     |   |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |   | 3. 思考・判断 |   | 4. 態度・志向性 |   |
| 1-1        | 1-2           | 2-1 | 2-2   | 3-1   | 3-2   | 4-1 | 4-2      |   |          |   |           |   |
| 20UEDE2181 | 外国語コミュニケーションⅠ | 2   | 「英語Ⅰ・Ⅱ」で身につけた4技能の総合的な力を基礎にして、社会で使えるオーラル・コミュニケーション能力をさらに発展させる。また、多様な題材や教材を用いて、教育現場で使える英語を学習し、幼児・児童英語教育のための実践的英語能力を身につける。 | (1) 日常的话题について英語で会話することができる。<br>(2) 教室英語の様々な表現を学習する。<br>(3) 英語の発音、リズムやイントネーションに慣れる。  |   |     | ◎        | ○ |          |   |           |   |
| 20UEDE2182 | 外国語コミュニケーションⅡ | 2   | 「英語Ⅰ・Ⅱ」で身につけた4技能の総合的な力を基礎にして、社会で使えるオーラル・コミュニケーション能力をさらに発展させる。また、多様な題材や教材を用いて、教育現場で使える英語を学習し、幼児・児童英語教育のための実践的英語能力を身につける。 | (1) 日常的话题について英語でプレゼンテーションやディスカッションができるようになる。<br>(2) 教室英語表現を場面に応じて使えるようになる。<br>(3) 幼児・児童向けの英語の歌を歌ったり、物語を朗読したりできるようになる。   |   |     | ◎        | ○ |          |   |           |   |
| 20UEDE2101 | 理科内容論         | 2   | 小学校理科における領域「A物質・エネルギー」および「B生命・地球」の理論的内容の理解と実験等の体験的活動を通して、初等教育に携わる教師としての資質・能力の基礎を養う。                                     | (1) 「A物質・エネルギー」および「B生命・地球」領域の教材について理解する。<br>(2) 「A物質・エネルギー」および「B生命・地球」領域の実験や観察を行うことができる。  |   |     | ◎        |   |          |   |           | ○ |
| 20UEDE2102 | 音楽科内容論        | 2   | ソルフェージュ（リズム・音程関連）と音楽理論（楽典）の理解と歌唱の基礎的な技術や表現方法の練習を通して、初等教育に携わる教師・保育者としての資質・能力の基礎を養う。                                      | (1) 基礎的なソルフェージュと音楽理論の知識を理解する。<br>(2) 基本的な発声を行うことができる。<br>(3) 基本的な譜読ができる。  |   |     | ◎        | ○ |          | ○ |           |   |
| 20UEDE2103 | 体育科内容論        | 2   | 運動の特性の理解と各種運動の体験的活動を通して、初等教育に携わる教師としての資質・能力の基礎を養う。  | (1) 各種運動の特性を理解している。<br>(2) 体育科の教材研究を行うことができる。   |   |     | ◎        |   |          |   |           |   |
| 20UEDE2183 | 外国語科内容論       | 2   | 小学校における外国語活動・外国語科の授業実践に必要な実践的な英語運用力と、英語に関する背景的な知識を身につける。  | (1) 日本における小学校外国語教育の意義や現状を理解している。<br>(2) 小学校における外国語活動・外国語の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力が身につけている。<br>(3) 小・中学校の接続も踏まえながら、小学校における外国語活動・外国語の授業を担当するために必要な背景的な知識が身につけている。 |   |     | ◎        | ○ |          |   |           |   |

| 科目番号       | 科目名    | 学年  | 科目目的   | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |  |          |  |           |  |  |
|------------|--------|-----|--|---|---|-----|----------|--|----------|--|-----------|--|--|
|            |        |     |  |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |  |          |  |           |  |  |
|            |        |     |  |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |  | 3. 思考・判断 |  | 4. 態度・志向性 |  |  |
| 1-1        | 1-2    | 2-1 | 2-2  | 3-1   | 3-2   | 4-1 | 4-2      |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDE3121 | 国語科教育法 | 3   | 小学校国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、基礎的な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。 | (1) 学習指導要領における小学校国語科の目標、内容および教育方法と評価について理解している。<br>(2) 背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できる。<br>(3) 児童の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。<br>(4) 小学校国語科の特性に応じた情報機器および教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できる。<br>(5) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。<br>(6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して授業改善の視点を身につけている。  |   |     | ◎        |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDE3125 | 算数科教育法 | 3   | 小学校算数科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、基礎的な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。 | (1) 学習指導要領における小学校算数科の目標・内容および教育方法と評価について理解している。<br>(2) 背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できる。<br>(3) 児童の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。<br>(4) 小学校算数科の特性に応じた情報機器および教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できる。<br>(5) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。<br>(6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。 |   |     | ◎        |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDE3123 | 社会科教育法 | 3   | 小学校社会科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、基礎的な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。 | (1) 学習指導要領における小学校社会科の目標・内容および教育方法と評価について理解している。<br>(2) 背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できる。<br>(3) 児童の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。<br>(4) 小学校社会科の特性に応じた情報機器および教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できる。<br>(5) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。<br>(6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。 |   | ○   | ◎        |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDE3127 | 理科教育法  | 3   | 小学校理科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、基礎的な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。  | (1) 学習指導要領における小学校理科の目標・内容および教育方法と評価について理解している。<br>(2) 背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できる。<br>(3) 児童の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。<br>(4) 小学校理科の特性に応じた情報機器および教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できる。<br>(5) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。<br>(6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。   |   |     | ◎        |  |          |  |           |  |  |

| 科目番号       | 科目名      | 学年  | 科目目的   | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |  |          |   |           |   |  |
|------------|----------|-----|--|---|---|-----|----------|--|----------|---|-----------|---|--|
|            |          |     |  |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |  |          |   |           |   |  |
|            |          |     |  |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |  | 3. 思考・判断 |   | 4. 態度・志向性 |   |  |
| 1-1        | 1-2      | 2-1 | 2-2  | 3-1   | 3-2   | 4-1 | 4-2      |  |          |   |           |   |  |
| 20UEDE3129 | 生活科教育法   | 3   | 小学校生活科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、基礎的な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。   | (1) 学習指導要領における小学校生活科の目標・内容および教育方法と評価について理解している。<br>(2) 背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できる。<br>(3) 児童の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。<br>(4) 小学校生活科の特性に応じた情報機器および教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できる。<br>(5) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。<br>(6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。     |   |     | ◎        |  |          |   |           |   |  |
| 20UEDE3122 | 音楽科教育法   | 3   | 小学校音楽科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、基礎的な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。   | (1) 学習指導要領における小学校音楽科の目標・内容および教育方法と評価について理解している。<br>(2) 背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できる。<br>(3) 児童の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。<br>(4) 小学校音楽科の特性に応じた情報機器および教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できる。<br>(5) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。<br>(6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。     |   |     | ◎        |  |          | ○ | ○         |   |  |
| 20UEDE3124 | 図画工作科教育法 | 3   | 小学校図画工作科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、基礎的な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。 | (1) 学習指導要領における小学校図画工作科の目標・内容および教育方法と評価について理解している。<br>(2) 背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できる。<br>(3) 児童の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。<br>(4) 小学校図画工作科の特性に応じた情報機器および教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できる。<br>(5) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。<br>(6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。 |   |     | ◎        |  |          | ○ |           | ○ |  |
| 20UEDE3126 | 家庭科教育法   | 3   | 小学校家庭科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、基礎的な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。   | (1) 学習指導要領における小学校体育科の目標・内容および教育方法と評価について理解している。<br>(2) 背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できる。<br>(3) 児童の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。<br>(4) 小学校家庭科の特性に応じた情報機器および教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できる。<br>(5) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。<br>(6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。     |   | ○   | ◎        |  |          | ○ |           |   |  |



| 科目番号       | 科目名        | 学年  | 科目目的   | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |  |          |  |           |  |  |
|------------|------------|-----|--|---|---|-----|----------|--|----------|--|-----------|--|--|
|            |            |     |  |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |  |          |  |           |  |  |
|            |            |     |  |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |  | 3. 思考・判断 |  | 4. 態度・志向性 |  |  |
| 1-1        | 1-2        | 2-1 | 2-2  | 3-1   | 3-2   | 4-1 | 4-2      |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDE2122 | 体育科教育法     | 2   | 小学校体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、基礎的な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。   | (1) 学習指導要領における小学校体育科の目標・内容および教育方法と評価について理解している。<br>(2) 背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できる。<br>(3) 児童の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。<br>(4) 小学校体育科の特性に応じた情報機器および教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できる。<br>(5) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。<br>(6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。                           |   |     | ◎        |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDE3181 | 外国語科教育法    | 3   | 小学校における外国語活動（中学年）・外国語（高学年）の教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、基礎的な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。  | (1) 学習指導要領における外国語活動および外国語科の目標・内容および教育方法と評価について理解している。<br>(2) 背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できる。<br>(3) 児童期の第二言語習得の特徴について理解し、実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。<br>(4) 小学校における外国語活動および外国語科の特性に応じた情報機器および教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できる。<br>(5) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。<br>(6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。 |   | ○   | ◎        |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDE2131 | 教育課程論      | 2   | 教育課程の意義・編成・実施・評価について知識と理解を得ることにより、教職を担うために必要とされる基礎的な素養を養う。また、教育課程の基準として定められている学習指導要領の変遷や、現行学習指導要領の特徴について学ぶとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。  | (1) 現代日本の学校における教育課程について、それを支える考え方や法制、実際の編成・実施・評価の方法を、歴史と国際比較の二つの視点から説明できる。<br>(2) カリキュラムおよび教育課程という概念の成立と発展について理解している。<br>(3) 我が国の教育課程をめぐる制度について歴史的に概観できる。<br>(4) 現在の教育課程の基準（学習指導要領など）とそれに基づくカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解している。<br>(5) カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解している。  |   |     | ◎        |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDE2133 | 道徳教育の理論と実践 | 2   | 道徳教育と「特別の教科道徳」の重要性と特質を理解し、社会的課題や子どもたちの課題に向き合いながら、主体的・創造的に取り組むことができる力量を身につける。   | (1) 我が国における道徳教育の改革動向について、基礎的な知識を有している。<br>(2) 「特別の教科道徳」の基本理念を理解し、小学校における道徳の授業方法について、他の活動領域と関連づけながら具体的に計画し、実践できる力を身につける。   |   | ○   | ◎        |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDE2135 | 教育方法の理論と実践 | 2   | 1. 教育方法学の概要を学び、教授・学習に焦点をあて理論と実践の乖離を克服し、理論を教育実践に活用するための「方法・技術」に関する基礎的な知識を習得する。<br>2. 「教育方法学」の領域は、授業の技術的原理に関する問題だけではなく、教室における子どもの学習の経験の問題、カリキュラム構成と評価に関する問題、教室における教師と子どものコミュニケーションの問題、教師と教師教育に関する問題などを包摂して成立していることを学ぶ。 | (1) 教育方法学の歴史や日本の授業と授業研究の概観などに関する基礎的な知識を修得することを通して、より豊かな教育観、授業観をもつことができる。<br>(2) 授業づくりの諸理論に関する基礎的な知識を修得し、それらの理論を学習指導法と関連付けて説明することができる。   |   | ◎   | ○        |  |          |  |           |  |  |

| 科目番号       | 科目名             | 学年 | 科目目的   | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |     |          |     |           |     |  |  |  |  |
|------------|-----------------|----|--|---|---|-----|----------|-----|----------|-----|-----------|-----|--|--|--|--|
|            |                 |    |  |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |     |          |     |           |     |  |  |  |  |
|            |                 |    |  |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |     | 3. 思考・判断 |     | 4. 態度・志向性 |     |  |  |  |  |
|            |                 |    |  |   | 1-1   | 1-2 | 2-1      | 2-2 | 3-1      | 3-2 | 4-1       | 4-2 |  |  |  |  |
| 20UEDE3132 | 生徒指導・進路指導の理論と実践 | 3  | 1. 児童生徒の「生きる」力の育成を視点として、教師として必要とするこれからの学校における生徒指導・進路指導実践の理論と具体的な実践のあり方を学ぶ。<br>2. 他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技術や素養を身につけるとともに、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身につける。 | (1) 生徒指導の意義や原理を理解している。<br>(2) すべての児童生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解している。<br>(3) 児童生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応のあり方を理解している。<br>(4) 進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解している。<br>(5) すべての児童生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方や指導の在り方を理解している。<br>(6) 児童生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方やあり方を理解している。               |   |     | ◎        | ○   |          |     |           |     |  |  |  |  |
| 20UEDE3130 | 教育相談の理論と実践      | 3  | 子どもの発達に関する心理学知識をもとに、幼児児童生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）および技術を身につける。   | (1) 学校園における教育相談の意義とそれに関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解している。<br>(2) 教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解している。<br>(3) 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解している。<br>(4) いじめ、不登校・不登園、虐待、非行等の課題に対する、幼児、児童および生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解している。<br>(5) 教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備など、組織的な取組みの必要性および地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解している。 |   |     | ◎        | ○   |          |     |           |     |  |  |  |  |
| 20UEDE2130 | 特別活動の指導法        | 2  | 学習指導要領に示された「特別活動」について、内容や、その趣旨、指導法について理解する。  | (1) 学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事といった特別活動の各分野の意味づけを理解する。<br>(2) 実際の指導にどう生かしていくか、具体的に探究することができる。   |   | ○   | ◎        |     |          |     |           |     |  |  |  |  |
| 20UEDE4131 | 総合的な学習の時間の指導法   | 4  | 総合的な学習の時間における横断的・総合的な学習や児童の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動の展開に必要な基礎的知識を学習し、総合的な学習の展開に必要な資質を身につける。  | (1) 総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標および内容を定める際の考え方を理解している。<br>(2) 総合的な学習の時間の指導計画を立案することができる。<br>(3) 各教科等との関連性を図りながら総合的な学習の時間の年間指導計画を作成することの重要性を理解している。<br>(4) PBLの進め方を理解し、主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元構成ができる。<br>(5) 総合的な学習の時間の指導と評価の考え方や実践上の留意点を理解している。  |   | ○   | ◎        |     |          |     |           |     |  |  |  |  |
| 20UEDE2292 | 学校教育参加実習        | 2  | 幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校教育に関わる理論的知識と実践的な知識を関連させながら理解することにより、教職についての理解を深め、教育活動を客観的にとらえる能力を身につける。  | (1) 専門教育科目の講義や演習で学んだ知識を踏まえて、教育現場の状況を解釈できる。<br>(2) 教育現場の観察と体験的活動を踏まえて、自身の課題を設定することができる。  |   |     |          |     |          |     |           | ◎   |  |  |  |  |

| 科目番号       | 科目名             | 学年  | 科目目的  | 到達目標   | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |   |          |   |           |   |
|------------|-----------------|-----|---|--|---|-----|----------|---|----------|---|-----------|---|
|            |                 |     |   |  | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |   |          |   |           |   |
|            |                 |     |   |  | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |   | 3. 思考・判断 |   | 4. 態度・志向性 |   |
| 1-1        | 1-2             | 2-1 | 2-2   | 3-1  | 3-2   | 4-1 | 4-2      |   |          |   |           |   |
| 20UEDE3131 | 教育実習事前事後指導Ⅰ（小幼） | 3   | 小学校教育に関わる実践的な知識と教育実習の意義の理解を通して、教師としての自覚を持ち、実践的指導力の基礎を養う。「教育実習Ⅰ（小）」に向けて、教育実習を行う上で必要となる学校教育全般にわたる基本的理解を図る。教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を修得し、教育者としての自覚を高める。教育実習を振り返り、教職への認識を確かなものとする。 | (1) 小学校教育に関わる教師の活動と、教育実習の意義について理解する。<br>(2) 理論の理解を通して得た様々な情報を踏まえて、自身の課題を設定することができる。<br>(3) 学校教育全般に関する基本的な知識を理解する。<br>(4) 教職と自己に対する認識を深める。<br>(5) 小学校教諭としての自覚を高め、態度・技能を修得する。  |   |     | ◎        | ○ |          |   |           | ○ |
| 20UEDE3192 | 教育実習Ⅰ（小幼）       | 3   | 小学校教育に関わる体験的活動を通して、教師としての自覚を持ち、実践的指導力の基礎を養う。教育実習は教職課程の総括的、実践的意義を持つ教育経験の場である。講義を通して得た専門的知識を活かし、実習に取り組むことにより、教育者としての資質の向上を図る。   | (1) 小学校教育に関わる教師の活動について理解する。<br>(2) 授業およびその他の活動中に、現職教師の援助を受けながら、適切に子どもを指導することができる。<br>(3) 実践を通して得た様々な情報を踏まえて、自身の課題を設定することができる。<br>(4) 小学校教諭を目指すものとして必要な、知識・技能、意欲・態度、問題解決能力等の指導力を身につける。  |   |     | ◎        | ○ |          |   |           | ○ |
| 20UEDE4132 | 教職実践演習          | 4   | 立学の精神に立脚した教職実践力を支える人格を陶冶する。また、教職課程科目の全履修履歴や様々な学外活動とその振り返りを通して、教員として必要な資質能力が実践力としての程度有機的に統合され形成されているかを最終的に確認する。さらに、実践的課題を把握し改善に努める意識を高め、主体的に探求する力量を形成する。                       | (1) 教員としての実践力について、これまでの修得状況を総合的に自己診断し、自らの実践的課題を把握し、その実践的課題を自覚している。<br>(2) 教員としての使命感・責任感・教育的愛情を具体的に修得している。<br>(3) 教員および社会人として、具体的実践場面でその社会性・対人関係能力を発揮できる。<br>(4) 教員として児童・生徒を人間的に理解し、その理解に基づく生徒指導力と学級経営力を具体的に構想し、実践できる。<br>(5) 教科を教授するに足る教科専門学力を確実に修得し、この教科専門学力に基づく当該教科内容を授業やその他の教育場面において適切に指導できる。 |   |     |          | ○ |          | ○ | ○         | ◎ |
| 20UEDE2240 | 教育社会学           | 2   | 教育社会学の観点から、「近代教育」や「学校」の歴史的位置づけを確認した上で、今日における問題や課題を捉え、教員の役割や職務内容の理解を深め、小学校・幼稚園教員として必要な資質・能力を修得する。  | (1) 我が国および諸外国における近年の教育事情および教育政策の動向を理解している。<br>(2) 子どもの生活の変化を踏まえた指導上の課題を理解し、教育現象を歴史的側面や社会的側面を結び付けて捉えられる。<br>(3) 現在の学校および教育に関する社会的期待や批判等について客観的に考えられる。教師や学校に対する社会的期待を理解し、それに答える方法について考えられる。  |   | ◎   |          |   | ○        |   |           |   |
| 20UEDE2241 | 教育史             | 2   | 教育の歴史は、社会・文化の歴史と同様に人類の起源にまでさかのぼることができる。その中で近代以降の教育は、子どもの教育として自立し、学校という場を中心に固有の任務を担うようになり、教育思想に導かれるようになった。本授業科目では、現代の教育について省察し、未来の教育を展望することを視野に入れながら、教育思想史の見方を中心に教育の歴史について考える。 | (1) 教育についての考え方の歴史の変遷を、時代背景や社会構造の変化と照らし合わせながら説明できる。<br>(2) 近代学校の特徴と歴史について、適切な概念の用語を用いて解説することができる。<br>(3) 教育・教育学の理論的基盤がどのような思想によって形成されたかを理解し、教育史上で重要な教育思想家の思想的特徴を説明することができる。   |   | ◎   |          |   |          |   |           |   |

| 科目番号       | 科目名        | 学年  | 科目目的  | 到達目標   | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |  |          |   |           |   |
|------------|------------|-----|---|--|---|-----|----------|--|----------|---|-----------|---|
|            |            |     |   |  | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |  |          |   |           |   |
|            |            |     |   |  | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |  | 3. 思考・判断 |   | 4. 態度・志向性 |   |
| 1-1        | 1-2        | 2-1 | 2-2   | 3-1  | 3-2   | 4-1 | 4-2      |  |          |   |           |   |
| 20UEDE2242 | 教育哲学       | 2   | 「教育哲学」を組み入れる歴史的社会的文脈を学ぶ。さらに「子どもの発達」や「子どもへの教育」を、大人や老人を含めた「ライフサイクル」の全体、そしてライフサイクルの各段階での異なった世代どうしの「相互生成」から見直すことによって、「教育」を根本から考え直す。   | (1)「教育哲学」を組み入れる歴史的社会的文脈を理解する。<br>(2) さらに「子どもの発達」や「子どもへの教育」を、大人や老人を含めた「ライフサイクル」の全体、そしてライフサイクルの各段階での異なった世代どうしの「相互生成」から見直すことによって、「教育」を根本から考えることができる。      |   | ◎   |          |  |          |   |           |   |
| 20UEDE2244 | 人権教育と福祉    | 2   | 現代社会の諸課題についての探究的活動を通して、初等教育に携わる教師としての資質・能力の基礎を養う。   | (1) 現代社会の諸課題に基づいた授業計画と立案することができる。<br>(2) 学習した内容を踏まえて、自分の意見を持つとともに、各自で工夫した活動を行うことができる。<br>(3) 小学校社会科における授業内容を通して、エネルギーや環境問題、貧困問題といった社会問題への関心を高めることができる。 |   | ◎   |          |  |          |   |           |   |
| 20UEDE2246 | 子ども理解と教育   | 2   | 教師にとって不可欠な、児童・生徒を理解する力を持つことの重要性を知り、意欲と熱意を持って教師に必要な知識や技能を学ぶ姿勢を身につける。教師としての幅広い教養とともに自分の得意分野を見つけ、児童・生徒の「生きる力」を培える基礎的な力を身につける。  | (1) 児童・生徒を理解することが教育に大きな関わりを持つことを理解する。<br>(2) 教師にとって必要な幅広い教養的知識を得る。   | ◎   | ○   |          |  |          |   |           |   |
| 20UEDE2243 | 社会調査法 I    | 2   | 教育に関する様々な情報を活用してそこから有用な情報を読み解くために、記述統計と初歩的な推測統計の技法を身につける。   | (1) 社会事象、とりわけ教育に関する様々なデータを読み解くことができる。<br>(2) 社会事象、とりわけ教育に関するデータを収集し、わかりやすく表現することができる。<br>(3) 初歩的な推測統計を用いて、社会事象、とりわけ教育に関するデータを分析できる。                    |   |     |          |  |          | ◎ |           | ○ |
| 20UEDE2248 | 学校教材としての文学 | 2   | 文学教材の鑑賞と探究的活動を通して、初等・中等教育に携わる教師としての資質・能力の基礎を養う。   | (1) 文学教材の教材研究を行い、学習活動案を立案することができる。<br>(2) 学習した内容を踏まえて、自分の意見を持つとともに、各自で工夫した活動を行うことができる。   |   | ◎   |          |  |          |   |           |   |
| 20UEDE4260 | 児童文学論      | 4   | 近代日本の児童文学史においては、巖谷小波『こがね丸』（叢書少年文学、明治24年）をもって嚆矢とするのが通例である。その出版・刊行に伴って、我が国の児童文学もスタートしたといえよう。本授業においては、日本の近代児童文学の成立以後、現代にいたるまでどのような作品が生み出されてきたのか、その歩みを概観するとともに、個々の作品の精読・分析を通してその時代の児童文学観および子ども観を探り、社会が子どもに注いだまなざしについて考える。加えて、日本の児童文学の史的展開についても詳述し、児童文学の本質に迫ることを目標とする。 | (1) 児童文学というジャンルの歴史的発生と変遷について理解できる。<br>(2) 児童文学の代表的な作家および作品にふれ、その読み方や楽しみ方を習得できる。  |   | ◎   |          |  |          | ○ |           |   |



| 科目番号       | 科目名             | 学年  | 科目目的   | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |   |          |   |           |  |   |
|------------|-----------------|-----|--|---|---|-----|----------|---|----------|---|-----------|--|---|
|            |                 |     |  |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |   |          |   |           |  |   |
|            |                 |     |  |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |   | 3. 思考・判断 |   | 4. 態度・志向性 |  |   |
| 1-1        | 1-2             | 2-1 | 2-2  | 3-1   | 3-2   | 4-1 | 4-2      |   |          |   |           |  |   |
| 20UEDE4262 | 日本現代文学の探究       | 4   | 中学校国語科に携わる者として必要な現代文学についての知識をより深く習得することを目的とする。具体的には、昭和、平成の時代の主な文学作品を取り上げ、個々の様々なジャンルの代表作品について読解を進め、それぞれの作品を鑑賞・読解し、学習者個人の生き方を見つめ直す。  | (1) 日本の現代文学作品に興味を持ち、作品を読み進めることができる。<br>(2) 文学作品の分析および解釈のしかたについて理解できる。   |   |     |          | ○ |          |   |           |  | ◎ |
| 20UEDE3260 | 言語学概論           | 3   | 国語科を指導する際に必要な言語学の知識を日本語の側面から解説する。具体的には、音声を扱う音韻論、単語の構造について学ぶ形態論、意味を考える意味論、文と場面の関係を見る語用論、国語史に絡む歴史言語学や通時言語学、方言から学ぶ言語地理学、「じゃんけん」の掛け声の地域差などを考える社会言語学という各方面からのアプローチにより、日本語とはどのような言語なのかを知り、国語を尊重する精神を養う講義を行う。   | (1) 言語のいろいろな事象について興味を持ち、体系的にとらえることの意義を理解できる。<br>(2) 日本語についての知識を通して国語を尊重する気持ちを持つことができる。  |   | ○   |          |   |          |   | ◎         |  |   |
| 20UEDE2280 | 英語文法論 I         | 2   | 学校文法を批判的に観察・考察することによって、英語の文法に関してより深い理解と洞察を得ることを目的とする。具体的活動としては、学生および教員から出たトピックについて、その時間の授業担当者が事前に調べたり考えたりしたことを発表し、その内容について全員で議論していくという形態をとる。単に規則を暗記するのではなく、その規則が現代における実際の言語使用と合致しているのか、また、歴史上その規則はどのような変遷を経てきたのか等を調べたり考えたりすることを通して、「文法」とは「覚える」ものではなく「自分で考え、理解し、記述・分析する」ものであるという認識へと転換していきたい。このことにより、将来、中高の英語教員として授業を行う際にも「文法」に関して、より深く、柔軟で、実際の言語使用に即した取り扱いができるようになることが期待される。 | (1) 英語文法の基礎的知識を身につけ、規則について、明確に説明できるようになる。<br>(2) 英語文法の歴史についての知識を身につけ、その内容について、明確に説明できるようになる。<br>(3) 様々なテキストの中の文法の扱われ方を理解することができる。 |   | ◎   | ○        |   |          |   |           |  |   |
| 20UEDE2250 | 異文化理解とコミュニケーション | 2   | 小学校・幼稚園の教員として、地域や職場のグローバル化に対応し、様々な文化背景や価値観を持つ人々と良好なコミュニケーションを行うことのできる能力の養成を目的とする。  | (1) 文化の違いによる言語・非言語コミュニケーションスタイルの多様性を理解している。<br>(2) 文化背景や価値観の異なる人々の考えに敬意を持って耳を傾けるとともに、自分の考えもきちんと主張できる技術を身につけている。                   | ○   |     |          | ○ |          | ◎ |           |  |   |
| 20UEDE2284 | 英語文学入門          | 2   | 英語で書かれた文学を学ぶ中で、英語による表現力への理解を深めるとともに、英語が使われている国・地域の文化について学ぶ。中学校における外国語科の授業に生かすため、英米を中心とした英語圏の文学の諸相を概観し、文学とその背景にある文化・社会との関係性を理解する。   | (1) 文学作品において使用されている様々な英語表現について理解している。<br>(2) 文学作品で描かれている、英語が使われている国・地域の文化について理解している。<br>(3) 英語で書かれた代表的な文学について基本的な知識を習得している。       | ○   | ◎   |          |   |          |   |           |  |   |



| 科目番号       | 科目名           | 学年  | 科目目的  | 到達目標   | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |   |          |  |           |  |  |
|------------|---------------|-----|---|--|---|-----|----------|---|----------|--|-----------|--|--|
|            |               |     |   |  | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |   |          |  |           |  |  |
|            |               |     |   |  | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |   | 3. 思考・判断 |  | 4. 態度・志向性 |  |  |
| 1-1        | 1-2           | 2-1 | 2-2   | 3-1  | 3-2   | 4-1 | 4-2      |   |          |  |           |  |  |
| 20UEDE2286 | 英語児童文学        | 2   | この科目では、英語で書かれた絵本や童謡、詩、また童話などの児童文学を、小学校および中学校における外国語科の授業で活用するために必要な知識と実践的な活用方法を学ぶ。子どものために書かれた易しく美しい英語の言葉遣いを繰り返し聞いたり読んだりして、英語の音やリズムを体得し、物語や詩の中で使われている様々な英語表現を学習する。また、子ども向けの文学がどのような時代背景の中から生まれてきたかを理解するために、英語圏の文学、特に英米の文学の中でどのような位置にあり、どのような歴史を辿ってきたのかを概観し、代表的な英語児童文学の作品に触れる。英語児童文学の作品を通して、英語表現や発話などの具体的な英語指導ができるようになることや、作品で描かれている国や地域の文化について理解できるようになることが目標である。 | (1) 児童文学に含まれる英語の言葉遣いを繰り返し聞いたり読んだりして、英語の音やリズムを体得することができる。<br>(2) 物語の中で使用されている様々な英語表現を理解し、発話できるようになる。<br>(3) 児童英語文学の歴史を理解し、作家や作品の特徴を明確に説明することができる。 | ○   | ◎   |          |   |          |  |           |  |  |
| 20UEDE2288 | 時事問題と英語表現     | 2   | 情報通信技術の発達によって、ますます世界が複雑に関係する現代において、多様な英語ニュースを通じて、世界に目を向け視野を広げる。同時にニュースで使われる英語を利用して、総合的な英語運用能力を高める。具体的な到達目標は、(1) 英語ニュースを通じて、世界の多様な事象・出来事等に関心を持つこと、(2) ニュースで使われる英語を利用して、総合的な英語運用能力を高めること、(3) 英語ニュースで得た情報について、自分の考え・感想、解決法を表現できることである。授業では、比較的易しい英語が使われているニュース英語を通じて、聴く・読む・話す・書くの4技能、語彙、文法の力を高める。  | (1) 英語ニュースを通じて、世界の多様な事象・出来事等に関心を持つ。<br>(2) ニュースで使われる英語を利用して、総合的な英語運用能力を高める。<br>(3) 英語ニュースで得た情報について、自分の考え・感想、解決法を表現できる。                           | ○   |     |          |   | ◎        |  |           |  |  |
| 20UEDE2261 | 国際教育フィールドワークⅠ | 2   | 国際教育の意義を理解するため、フィールドワーク、とりわけ「観察と記録」の具体的な方法論を身につけることを目的とする。幼稚園、小学校、中学校など、実際に国際教育が行われている「現場」を観察・記録し、国際教育の目的、方法、効果などについて考察を深める。そのために、フィールドワークにおける観察・記録という方法論の意義や具体的な方法を学び、国際教育を理解して実践するための「視点」を身につける。  | (1) 国際教育の意義を理解する。<br>(2) フィールドワークの中でも「観察と記録」の方法論を身につける。<br>(3) フィールドワークで観察した国際教育実践を考察し、発表することができる。   | ◎   |     |          | ○ | ○        |  |           |  |  |

| 科目番号       | 科目名           | 学年  | 科目目的   | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |  |          |   |           |   |   |
|------------|---------------|-----|--|---|---|-----|----------|--|----------|---|-----------|---|---|
|            |               |     |  |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |  |          |   |           |   |   |
|            |               |     |  |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |  | 3. 思考・判断 |   | 4. 態度・志向性 |   |   |
| 1-1        | 1-2           | 2-1 | 2-2  | 3-1   | 3-2   | 4-1 | 4-2      |  |          |   |           |   |   |
| 20UEDE2262 | 国際教育フィールドワークⅡ | 2   | 「教育」という営みにおいては、国家、民族、文化、社会のあり方ごとに異なる事情が存在する。日本の教育と海外の教育とを比較することにより、教育改善の方策を考察し、さらには教育の本質を探ることが目的である。幼稚園、小学校、中学校など様々な場所において海外と日本の子どもの交流活動を調査し支援することを通じて、国際教育の実践活動を学ぶ。 | (1) 実際の国際交流に携わることで、子どもたちの異文化理解や友好意識を高める方法を学ぶ。<br>(2) 交流に必要な様々な資源の活用法について学ぶ。<br>(3) それぞれの地域での国際交流に携わっている機関との連携を学ぶ。   |   |     | ◎        |  | ○        |   | ○         |   |   |
| 20UEDE2279 | 海外教育参加実習指導    | 2   | アメリカの教育現場を観察するために必要な視点を学び、コミュニケーション能力を身につける。   | (1) 留学に対する確たる目的意識を持つ。<br>(2) アメリカの教育現場を観察するための視点を持つ。  |   |     |          |  | ○        | ◎ |           |   |   |
| 20UEDE2292 | 海外教育参加実習      | 2   | アメリカの教育現場を観察することによって、アメリカの教育制度、学校教育、教育文化を学ぶ。   | (1) アメリカの教育の特徴を説明できる。<br>(2) 日米の教育を比較し、日本の教育について意見を持つ。<br>(3) アメリカの幼児・児童と英語でコミュニケーションがとれる。  |   |     |          |  | ○        | ◎ |           |   |   |
| 20UEDE2254 | 世界の子どもたち      | 2   | 異文化間理解教育の視点から、諸外国における移民とその子どもの教育の歴史と現状について学ぶとともに、海外における日本人児童生徒の教育との概要と現状を地域ごとに学ぶ。また、わが国における在留外国人の教育の実態を把握し、課題を探る。  | (1) 諸外国における移民とその子どもの教育の現状を把握することができる。<br>(2) わが国における在留外国人の教育および海外における日本人児童生徒の教育の歴史と現状について理解することができる。<br>(3) 設定したテーマについて主体的に調査し、分析、発表することができる                      |   |     | ◎        |  |          | ○ |           |   |   |
| 20UEDE2252 | 子どもと数学        | 2   | 算数・数学の探究的活動を通して、初等教育に携わる教師としての資質・能力の基礎を養う。   | (1) 小学校算数科の内容の数学的背景を理解し、数学的に見通しを持って算数科を指導する数学的技能・表現を身につける。<br>(2) 子どもたちの数学的思考力を涵養するための教材を開発することができる。<br>(3) 初等・中等教育段階で求められる数学の基礎的な概念や原理・法則について興味・関心を持ち探究することができる。 |   |     |          |  | ○        |   | ◎         |   |   |
| 20UEDE3244 | 理科教育実践        | 3   | 初等理科教育における実験・観察等の体験的・探究的活動を通して、初等教育に携わる教師としての資質・能力の基礎を養う。  | (1) 初等理科教育において教材となっている実験・観察について実験教材を開発することができる。<br>(2) 学習した内容を踏まえて、自分の意見を持つとともに、各自で工夫した活動を行うことができる。<br>(3) 小学校理科の内容を理解し、教材に関する基礎的な知識および技能を習得することができる。             |   |     | ◎        |  |          |   | ○         |   | ○ |
| 20UEDE4241 | 音楽科教育実践       | 4   | 合唱・合奏において、発声法や楽器の使い方についての基本的な技術を学び、それらの曲を指揮・指導できる能力を養う。また、音楽理論も深め、同時に指揮法も学ぶことによって、授業実践に活用できる技能や知識を身につける。   | (1) 音・楽器・形式などを工夫し、自身のもつ音楽的イメージを表現できる。<br>(2) 音楽理論や指揮法を授業実践に活用できる。   |   |     | ◎        |  |          |   |           | ○ | ○ |
| 20UEDE2267 | 子どもと音楽表現      | 2   | ピアノ演奏の体験的・探究的活動を通して、幼児教育に携わる教師・保育者としての資質・能力の基礎を養う。   | (1) 自己の技能に応じたピアノ曲を演奏することができる。<br>(2) 童謡や唱歌の弾き歌いおよび伴奏をすることができる。<br>(3) 学習した内容を踏まえて、自分の意見を持つとともに、各自で工夫した活動を行うことができる。  |   | ○   | ◎        |  |          |   |           |   |   |

| 科目番号       | 科目名         | 学年 | 科目目的   | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |     |          |     |           |     |   |
|------------|-------------|----|--|---|---|-----|----------|-----|----------|-----|-----------|-----|---|
|            |             |    |  |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |     |          |     |           |     |   |
|            |             |    |  |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |     | 3. 思考・判断 |     | 4. 態度・志向性 |     |   |
|            |             |    |  |   | 1-1   | 1-2 | 2-1      | 2-2 | 3-1      | 3-2 | 4-1       | 4-2 |   |
| 20UEDE2264 | 子どもと造形表現    | 2  | 領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達およびそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身につける。                               | (1) 幼児の表現の姿や、その発達を理解している。<br>(2) 造形表現などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。   |   | ○   | ◎        |     |          |     |           |     |   |
| 20UEDE2258 | 調理と裁縫の生活スキル | 2  | 調理と裁縫などの生活スキルの体験的・探究的活動を通して、幼児・児童の「生きる力」育成に携わる教師としての資質・能力の基礎を養う。   | (1) 手縫い・ミシン縫いによって作品を製作することができる。<br>(2) 調理実習の指導計画を立案することができる。<br>(3) 学習した内容を踏まえて、自分の意見を持つとともに、各自で工夫した活動を行うことができる。                                  |   | ○   | ◎        |     |          |     |           | ○   |   |
| 20UEDE3261 | 子どもと身体表現    | 3  | 領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達およびそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身につける。                               | (1) 幼児の表現の姿や、その発達を理解している。<br>(2) 身体表現などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。   |   | ◎   | ○        |     |          |     |           |     |   |
| 20UEDE4243 | 体育・スポーツ演習   | 4  | 多様な運動・スポーツおよび保健の体験的・探究的活動を通して、小学校教師としての資質・能力の基礎を養う。小学校運動領域で取り扱う各種運動を実施するとともに、保健領域で取り扱う内容について教材研究を行う。                         | (1) 器械運動、ボール運動等において、小学校体育科の授業において見本を見せるための実技力を身につけている。<br>(2) 保健領域の教材研究において、学習指導要領に示される内容について探求し、その成果を発表できる。                                      |   |     | ◎        |     |          |     |           |     | ○ |
| 20UEDE2282 | 教室で使う英語表現   | 2  | アメリカの小学校および幼稚園での「海外教育参加実習」に必要な英語表現を学ぶ。   | (1) アメリカの幼児・児童と英語でコミュニケーションがとれる。<br>(2) 英語で教室内での説明、指示ができる。  |   |     | ◎        | ○   |          |     |           |     |   |
| 20UEDE2256 | 教育プログラミング   | 2  | 学校教育において重視されつつある「プログラミング的思考」を理解し、子どもたちに、コンピュータに意図した処理を行うように指示することができるということを体験させながら、課題解決能力を養う技法を学ぶ。                           | (1) 身近な生活でコンピュータが活用されていることや、問題の解決には必要な手順があることを理解している。<br>(2) 発達の段階に即して「プログラミング的思考」を育成する能力、コンピュータの働きをよりよい人生や社会づくりに生かそうとする態度を涵養することができる。            |   |     | ◎        |     |          | ○   |           |     |   |
| 20UEDE3241 | 学級担任論       | 3  | 小・中学校教育における学級担任の役割と仕事の理解を通して、教師としての資質・能力の基礎を養う。  | (1) 学級担任の役割について理解する。<br>(2) 学級の運営計画を立案することができる。   |   |     | ◎        |     |          |     |           |     | ○ |
| 20UEDE4241 | 教科指導演習      | 4  | 小学校の授業に必要とされる教授技術に関わる体験的活動を通して、教授技術について理解し、小学校教師としての資質・能力の基礎を養う。そのために、授業づくりの基本的な枠組みについての知識および実践的能力、授業づくりの基本的な技術、姿勢を身につける。    | (1) 授業づくりの基本的な枠組みについての知識および実践的能力、授業づくりの基本的な技術、姿勢を理解している。<br>(2) 授業の三要素（教師、子ども、教材）について分析的にとらえ、小学校全科の教材研究、教材づくりに活用できる。                              |   |     | ◎        |     |          |     |           |     | ○ |
| 20UEDE4243 | 教職総合実践      | 4  | この期までの開講科目である各教科の内容と教育法についての学び、クラス経営や生徒指導などの授業科目を通じた学び、そして3年次後期の教育実習や自らのボランティア活動における実体験を通じた学び等を総合的に振り返り、後期開講の教職実践演習へと学びを繋げる。 | (1) 教師に求められる使命感・責任感・教育的愛情を身につけている。<br>(2) 教師に求められる社会的対人関係能力を身につけている。<br>(3) 児童・生徒等への理解力と学級経営力を身につけている。<br>(4) 教科内容の指導力の各観点に関して、自身の意見を確固たるものにしていく。 |   | ○   | ◎        |     |          |     |           | ○   |   |

| 科目番号       | 科目名             | 学年  | 科目目的  | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |  |          |   |           |  |  |
|------------|-----------------|-----|---|---|---|-----|----------|--|----------|---|-----------|--|--|
|            |                 |     |   |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |  |          |   |           |  |  |
|            |                 |     |   |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |  | 3. 思考・判断 |   | 4. 態度・志向性 |  |  |
| 1-1        | 1-2             | 2-1 | 2-2   | 3-1   | 3-2   | 4-1 | 4-2      |  |          |   |           |  |  |
| 20UEDE2263 | 知的障害者の心理・生理・病理  | 2   | 知的障害児・者の心理・生理・病理の特徴を学び、特別支援教育のための基礎的知識を習得する。  | (1) 知的障害児・者の教育や支援に必要な最低限の知識を習得する。<br>(2) 特別支援教育に携わるために必要な発展的科目習得の準備をする。<br>(3) 特別支援教育だけでなく、保育・初等教育に携わる者として必要な最低限の知識を習得する。   |   | ◎   |          |  |          |   |           |  |  |
| 20UEDE3261 | 肢体不自由者の心理・生理・病理 | 3   | 将来「特別支援教育」に携わる教諭および保育士だけでなく、広く「肢体不自由児・者」の理解への糸口となる。   | (1) 体が動く仕組みを理解する。<br>(2) 肢体不自由児・者の心理・生理・病理特徴を理解する。  |   | ◎   |          |  |          |   |           |  |  |
| 20UEDE2265 | 病弱者の心理・生理・病理    | 2   | 病弱者教育の基盤として、病弱者の心理、生理、病理の知識を学ぶ。慢性疾患を患ったことから発生する、身体と生理的側面、心理的側面、社会的側面にわたる影響を学び、病弱者とその家族にあった適切な支援ができる教員としての資質を培う。 | (1) 病気の基礎知識（生理と病理など）、そして心理状態について学び、教育上の指導や教育的配慮を理解する。<br>(2) 病気、病弱の子どもの個別性を理解し、個別学習指導計画を立案できる基礎を学ぶ。<br>(3) 病気のある子どもに対する特別支援学校教諭の教育の役割を考える。<br>(4) 病弱者とその家族が暮らしやすい社会の実現について考えを深化させる。   |   | ◎   |          |  |          |   |           |  |  |
| 20UEDE4261 | L D 等 教育 総 論    | 4   | 学習障害 (LD)、注意欠如・多動症 (ADHD) 等の自閉症スペクトラム、言語障害、情緒障害、重複障害について理解し、その指導について学ぶ。   | (1) 学習障害 (LD)、注意・欠如多動症 (ADHD) 等の自閉症スペクトラム、言語障害、情緒障害、重複障害について理解する。<br>(2) 上記の障害がある子どもへの指導について学ぶ。   |   | ○   | ◎        |  |          |   |           |  |  |
| 20UEDE3263 | 教育課程・保育計画論      | 3   | 教育目標に示されている人格の完成の実現に向けて、子どもの心身の成長・発達に応じた保育・教育を行うために、保育・教育課程についての意義や編成についての理論を理解する。                              | (1) 教育課程や保育の計画の役割や機能を把握するとともに、それまでの変遷やその時代の社会的背景や要請について理解している。<br>(2) 教育課程や保育の計画を編成するときの観点や方法などについて理解している。<br>(3) 編成の背景となる子どもの心身の成長・発達や社会的状況等について理解している。<br>(4) 教育課程や保育の計画を省察し、評価および省察と改善（カリキュラム・マネジメント）についての意義や重要性を理解している。 |   | ◎   |          |  |          |   |           |  |  |
| 20UEDE3262 | 子どもと健康          | 3   | 領域「健康」の指導に関する、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身につける。  | (1) 幼児期の健康課題と健康の発達の意味を理解している。<br>(2) 幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解している。<br>(3) 安全な生活と怪我や病気の予防を理解している。<br>(4) 幼児期の運動発達の特徴と意義を理解している。   |   | ◎   | ○        |  |          |   |           |  |  |
| 20UEDE3264 | 子どもと人間関係        | 3   | 領域「人間関係」の指導の基盤となる、幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身につける。   | (1) 幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。<br>(2) 幼児期の人間関係の発達について、幼稚園生活における関係発達論的視点から理解する。  |   | ◎   |          |  |          | ○ |           |  |  |
| 20UEDE3266 | 子どもと環境          | 3   | 領域「環境」の指導に関する、幼児を取り巻く環境や、幼児と環境の関わりについての専門的事項における感性を養い、知識・技能を身につける。  | (1) 幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解している。<br>(2) 幼児の身近な環境との関わりにおける思考・科学的概念の発達を理解している。<br>(3) 幼児期の標識・文字等、情報・施設との関わりを発達を理解している。   |   | ◎   | ○        |  |          |   |           |  |  |
| 20UEDE3268 | 子どもと言葉          | 3   | 領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身につける。  | (1) 人間にとっての言葉の意義や機能を理解している。<br>(2) 言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解している。<br>(3) 幼児にとっての児童文化財の意義を理解している。   |   | ◎   |          |  |          | ○ |           |  |  |



| 科目番号       | 科目名     | 学年  | 科目目的   | 到達目標   | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |  |          |  |           |  |  |
|------------|---------|-----|--|--|---|-----|----------|--|----------|--|-----------|--|--|
|            |         |     |  |  | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |  |          |  |           |  |  |
|            |         |     |  |  | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |  | 3. 思考・判断 |  | 4. 態度・志向性 |  |  |
| 1-1        | 1-2     | 2-1 | 2-2  | 3-1  | 3-2   | 4-1 | 4-2      |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDE3321 | 保育内容・健康 | 3   | 幼稚園教育要領に示された領域「健康」のねらいおよび内容について理解を深め、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。学習内容は、(1)生活習慣や災害時の安全に関する指導について、具体例やICTを活用しながら理解すること、(2)幼児期の運動発達に沿った運動指導の留意点と教師の役割を具体的に考えること、(3)遊びや生活の場面において動きを引き出す環境を構成することを学ぶこと、(4)幼児の健康に関わる現代的課題や保育実践について、教師の援助や環境の構成について考えること、(5)「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のうち、「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」などを取り上げ、具体的な事例を基に考えること、(6)模擬保育では、ICTを活用し振り返ること、(7)小学校の各教科等とのつながりを理解することである。領域「健康」は、「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う」ことを目指すものである。幼稚園教育や保育所保育等において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領や保育所保育指針等に示された領域「健康」のねらいおよび内容について、背景にある専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。 | (1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本や保育所保育指針に示された保育の基本等を踏まえ、領域「健康」のねらいおよび内容を理解している。<br>(2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。 |   | ◎   | ○        |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDE3322 | 保育内容・環境 | 3   | 領域「環境」は、「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」ことを目指すものである。幼稚園教育や保育所保育等において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領や保育所保育指針等に示された領域「環境」のねらいおよび内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて領域「環境」の具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。  | (1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本や保育所保育指針に示された保育の基本等を踏まえ、領域「環境」のねらいおよび内容を理解している。<br>(2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。 |   | ◎   | ○        |  |          |  |           |  |  |



| 科目番号       | 科目名       | 学年  | 科目目的   | 到達目標   | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |  |          |  |           |  |  |
|------------|-----------|-----|--|--|---|-----|----------|--|----------|--|-----------|--|--|
|            |           |     |  |  | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |  |          |  |           |  |  |
|            |           |     |  |  | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |  | 3. 思考・判断 |  | 4. 態度・志向性 |  |  |
| 1-1        | 1-2       | 2-1 | 2-2  | 3-1  | 3-2   | 4-1 | 4-2      |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDE2324 | 保育内容・人間関係 | 3   | 領域「人間関係」は、「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」ことを目指すものである。幼稚園教育や保育所保育等において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領や保育所保育指針等に示された領域「人間関係」のねらいおよび内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想し実践する方法を身につける。                      | (1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらいおよび内容を理解している。<br>(2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。                |   | ◎   | ○        |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDE2321 | 保育内容・言葉   | 2   | 領域「言葉」は、「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う」ことを目指すものである。幼稚園教育や保育所保育等において育みたい資質能力について理解し幼稚園教育要領や保育所保育指針等に示された領域「言葉」のねらいおよび内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。 | (1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本や保育所保育指針に示された保育の基本等を踏まえ、領域「言葉」のねらいおよび内容を理解している。<br>(2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。 |   | ◎   | ○        |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDE2323 | 保育内容・表現Ⅰ  | 2   | 領域「表現」は、「感じたことや考えたことを・自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことを目指すものである。幼稚園教育や保育所保育等において育みたい資質能力を理解し、幼稚園教育要領や保育所保育指針等に示された領域「表現」のねらいおよび内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。                 | (1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本や保育所保育指針に示された保育の基本等を踏まえ、領域「表現」のねらいおよび内容を理解している。<br>(2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。 |   | ◎   | ○        |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDE2322 | 保育内容・表現Ⅱ  | 2   | 領域「表現」は、「感じたことや考えたことを・自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことを目指すものである。幼稚園教育や保育所保育等において育みたい資質能力を理解し、幼稚園教育要領や保育所保育指針等に示された領域「表現」のねらいおよび内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。                 | (1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育や保育所保育指針に示された保育の基本等の基本を踏まえ、領域「表現」のねらいおよび内容を理解している。<br>(2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。 |   | ◎   | ○        |  |          |  |           |  |  |

| 科目番号       | 科目名            | 学年  | 科目目的   | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |  |          |  |           |   |  |
|------------|----------------|-----|--|---|---|-----|----------|--|----------|--|-----------|---|--|
|            |                |     |  |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |  |          |  |           |   |  |
|            |                |     |  |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |  | 3. 思考・判断 |  | 4. 態度・志向性 |   |  |
| 1-1        | 1-2            | 2-1 | 2-2  | 3-1   | 3-2   | 4-1 | 4-2      |  |          |  |           |   |  |
| 20UEDE2332 | 子ども理解と幼児教育     | 2   | 保育者にとって不可欠な、幼児を理解する力を持つことの重要性を知り、意欲と熱意を持って保育者に必要な知識や技能を学ぶ姿勢を身につける。保育者としての幅広い教養とともに自分の得意分野を見つけ、幼児の「生きる力」の基礎を培える基礎的な力を身につける。 | (1) 幼児を理解することが教育・保育に大きな関わりを持つことを理解する。<br>(2) 保育者にとって必要な幅広い教養的知識を得る。<br>(3) 自分の得意分野や強みを自覚し、それを高めていくことができる。   |   | ◎   |          |  |          |  |           |   |  |
| 20UEDE4331 | 教育実習事前事後指導Ⅱ(幼) | 4   | 教育実習の意義を自覚し教育実習に臨めるようにするための基礎的・予備知識や技能の習得を目指すと共に、事前学習と実習園での実体験を結合させる。また、実習後の振り返りを行いつつ、教職への認識を確かなものとすることを目標とする。             | (1) 教育実習に備えて、実習についての知識、技能、心構えを習得する。<br>(2) 保育指導案の作成、教育実習記録の記入方法を学び、ポイントを定め、まとめられるようになる。<br>(3) 実習体験報告交換会等の中で、進んで自己課題を発表したり、他者の反省から学びを深め合えるようになる。  |   |     | ◎        |  |          |  |           |   |  |
| 20UEDE4391 | 教育実習Ⅱ(幼)       | 4   | 幼稚園で教育実習を行うことにより、幼児教育者として必要な保育観・知識・技能・態度等を学ぶ。他の授業で学んだ理論や実技等を応用しながら、体験を通して具体的な指導力を身につける。                                    | (1) 教育実習体験の中で指導法の実践を学び、保育実践を通して自己課題をもつ。<br>(2) 幼児理解の方法を保育実践を通して学び、日々の保育に展開できる力を身につける。<br>(3) すべての園内業務を理解し、保育環境の重要なことを知り、実務実習を進んで行う。   |   |     | ◎        |  |          |  |           |   |  |
| 20UEDE3421 | 特別支援教職論        | 3   | 通常学校の教職とは異なる特別支援学校の教師としての自覚と使命について学ぶ。  | (1) 特別支援学校の教員としてどのようなことを目指すべきかを知る。<br>(2) 特別支援学校の教員の職務内容について理解する。   |   | ○   |          |  |          |  |           | ◎ |  |
| 20UEDE3423 | 知的障害教育         | 3   | 知的障害児の臨床を学び、知的障害児の教育課程、指導法、生活や社会性の支援について正しく理解する。   | 知的障害児の特性を学び、それらに応じて必要な支援の仕方を考えることができるようになる。   |   |     | ◎        |  |          |  |           |   |  |
| 20UEDE3425 | 障害児指導法         | 3   | 今後の教育のあり方としてインクルーシブ教育のシステム実現が目指される。そこでは特別支援教育の専門性がますます問われることになる。従って、本講義では指導根拠を明確にした指導方法について追求し、児童生徒の自立につながる指導方法を具体的に模索する。  | (1) 障害児の確かな実態把握の方法を理解する。<br>(2) 実態把握から児童生徒の課題を設定し、指導方法を考えることができる。<br>(3) 指導結果についての的確な評価ができ、次の指導につなぐことができる。(PDCAサイクル)<br>(4) 特別支援学校での各種障害に対応した指導法を理解する。<br>(5) 通常の学級の中で配慮を要する児童生徒への指導方法を考えることができる。 |   |     | ◎        |  |          |  |           |   |  |
| 20UEDE3422 | 肢体不自由教育        | 3   | 肢体不自由児の臨床を学び、肢体不自由児の教育課程、指導法、生活支援について正しく理解する。  | (1) 肢体不自由教育の現状を知り、課題に気づく。<br>(2) 肢体不自由児と定型発達の子どもの比較しつつ肢体不自由教育の視点を明確にする。<br>(3) 指導根拠を明確にした専門性の高い教育のあり方を追求する。   |   |     | ◎        |  |          |  |           |   |  |
| 20UEDE3424 | 病弱教育           | 3   | 病弱児の臨床を学び、病弱教育の教育課程、指導法、病弱児の自己管理支援について正しく理解する。   | (1) 病弱教育の教育課程について正しく理解する。<br>(2) 病弱児の指導法について正しく理解する。<br>(3) 病弱児の自己管理支援について正しく理解する。  |   |     | ◎        |  |          |  |           |   |  |

| 科目番号       | 科目名              | 学年  | 科目目的  | 到達目標   | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |  |          |  |           |  |
|------------|------------------|-----|---|--|---|-----|----------|--|----------|--|-----------|--|
|            |                  |     |   |  | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |  |          |  |           |  |
|            |                  |     |   |  | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |  | 3. 思考・判断 |  | 4. 態度・志向性 |  |
| 1-1        | 1-2              | 2-1 | 2-2   | 3-1  | 3-2   | 4-1 | 4-2      |  |          |  |           |  |
| 20UEDE4440 | 知的障害教育総論         | 4   | 知的障害のある児童生徒の心理、生理、病理の特性および発達過程の概観を踏まえ、知的障害児者の教育の基本的な原理と指導法のあり方について理解を深める。   | (1) 知的障害のある児童生徒の心理、生理、病理の特性、および知的障害の定義や診断基準、適応能力についての専門的知識を身につけることができる。<br>(2) 知的障害に対する教育課程について理解し、実際の教育の基本的な原理、指導法について理解し、どのような支援が有効か、意見を述べたり論考したりして表現することができる。<br>(3) 知的障害児者を対象とした実際の指導内容や指導方法における個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成の意義を知り、支援の多様性を理解するとともに、それらのアプローチについて主体的、協働的に考えることができる。 |   |     | ◎        |  |          |  |           |  |
| 20UEDE4441 | 肢体不自由教育総論        | 4   | 肢体不自由児の臨床を学び、個々の子どもに即した教育の必要性を実感し、肢体不自由教育を理解する。   | (1) 肢体不自由児の臨床を理解している。<br>(2) 子どもに即した教育の必要性を実感し、肢体不自由教育を理解している。   |   |     | ◎        |  |          |  |           |  |
| 20UEDE4442 | 病弱教育総論           | 4   | 病弱児教育担当者の専門性の向上へ向けて、様々な疾患を有する子どもの精神的、身体的背景を理解し、彼らが生き生きと生活し、またより飛躍できるための良きアドバイザーとなることを目的とする。   | (1) 様々な疾患を有する子どもの精神的、身体的背景を理解している。<br>(2) 病弱児が生き生きと生活し、またより飛躍できるためのアドバイスができる。  |   |     | ◎        |  |          |  |           |  |
| 20UEDE3427 | 視覚障害教育総論         | 3   | 障害の中でも特殊性が強いと言われる視覚障害について知り、視覚障害児教育の基本的な考え方と教育・指導における留意点について学ぶ。   | 視覚障害者・児の生活の基本的な知識を身につける。   |   | ○   | ◎        |  |          |  |           |  |
| 20UEDE3426 | 聴覚障害教育総論         | 3   | インクルーシブ教育システムの実現を目指す中で今後聴覚障害児童生徒が、特別支援学校(聴覚障害)だけでなく通常学級等に在籍する状況が進むと考えられる。従って特別支援学校教諭だけでなく、通常学級担任にも聴覚障害および聴覚障害教育にかかわる知識や技能を深く学んだ教員が求められる。そこで本講義では、聴覚障害児を担当する通常学級担任を中心にして、効果的な支援のあり方や関係機関との連携を緊密に行うための知識や技能についての理解を深め、インクルーシブ教育システムの具体化を模索する。 | (1) 聴覚に障害のある幼児・児童・生徒の保育・教育に必要な基本的な知識を獲得し、対応の仕方を身につけている。<br>(2) 特別支援学校だけでなく、通常の学校での聴覚に障害のある幼児・児童・生徒への教育のあり方を考えることができる。  |   | ○   | ◎        |  |          |  |           |  |
| 20UEDE4451 | 重複障害等教育総論        | 4   | 行動上の重複障害と発達上の重度重複障害への特別支援教育における対応体系の全体像の基本的知識を身につけ、重複障害等の特性(心理、生理、病理)についての基本的理解をする。さらに自立活動を中心とした重複障害等への指導の基本的理解をする。   | (1) 重複障害に関して、興味を持って調べようとし、学習の過程の中で新しい発見をし、重複障害への効果的指導法を論述できる。<br>(2) 重複障害を理解し、個のニーズに合った指導計画の概略が作成でき、指導上の問題解決を図る能力を身につける。   |   | ○   | ◎        |  |          |  |           |  |
| 20UEDE4421 | 特別支援学校教育実習事前事後指導 | 4   | 特別支援学校で教育実習を行うために必要な教職専門知識・技能などを学ぶ。   | 障害のある子どもと接する時の基本的な姿勢について、十分な理解をすすめる。   |   |     | ◎        |  |          |  |           |  |

| 科目番号       | 科目名        | 学年  | 科目目的  | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |  |          |  |           |  |
|------------|------------|-----|---|---|---|-----|----------|--|----------|--|-----------|--|
|            |            |     |   |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |  |          |  |           |  |
|            |            |     |   |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |  | 3. 思考・判断 |  | 4. 態度・志向性 |  |
| 1-1        | 1-2        | 2-1 | 2-2   | 3-1   | 3-2   | 4-1 | 4-2      |  |          |  |           |  |
| 20UEDE4491 | 特別支援学校教育実習 | 4   | 特別支援教育は、教職に就く者は必ず実践する内容である。特に特別支援学校の教育実習を通して、これまでに学習した理論・方法を活用して、特別支援学校教諭を目指す者として必要な、障害のある子どもに対する見方・知識・態度などを学び、指導力をつける。 | (1) 子どもとのふれあいや実習校の指導教員の指導を通して、障害のある子どもへの理解を深める。<br>(2) 求められる知識・技能・態度を学習する。<br>(3) 特別支援教育の指導者としての使命感を養う。 |   |     | ◎        |  |          |  |           |  |

# 令和2年度入学生用カリキュラムマップ

【教育学科】

【小学校・中学校教育コース】

| 科目番号       | 科目名           | 学年  | 科目目的  | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |   |          |   |           |   |
|------------|---------------|-----|---|---|---|-----|----------|---|----------|---|-----------|---|
|            |               |     |   |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |   |          |   |           |   |
|            |               |     |   |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |   | 3. 思考・判断 |   | 4. 態度・志向性 |   |
| 1-1        | 1-2           | 2-1 | 2-2   | 3-1   | 3-2   | 4-1 | 4-2      |   |          |   |           |   |
| 20UEDM2181 | 外国語コミュニケーションⅠ | 2   | 「英語Ⅰ・Ⅱ」で身につけた4技能の総合的な力を基礎にして、社会で使えるオーラル・コミュニケーション能力をさらに発展させる。また、多様な題材や教材を用いて、教育現場で使える英語を学習し、幼児・児童英語教育のための実践的英語能力を身につける。 | (1) 日常な話題について英語で会話することができる。<br>(2) 教室英語の様々な表現を学習する。<br>(3) 英語の発音、リズムやイントネーションに慣れる。  |   |     | ◎        | ○ |          |   |           |   |
| 20UEDM2182 | 外国語コミュニケーションⅡ | 2   | 「英語Ⅰ・Ⅱ」で身につけた4技能の総合的な力を基礎にして、社会で使えるオーラル・コミュニケーション能力をさらに発展させる。また、多様な題材や教材を用いて、教育現場で使える英語を学習し、幼児・児童英語教育のための実践的英語能力を身につける。 | (1) 日常な話題について英語でプレゼンテーションやディスカッションができるようになる。<br>(2) 教室英語表現を場面に応じて使えるようになる。<br>(3) 幼児・児童向けの英語の歌を歌ったり、物語を朗読したりできるようになる。   |   |     | ◎        | ○ |          |   |           |   |
| 20UEDM2101 | 理科内容論         | 2   | 小学校理科「B生命・地球」領域の理論的内容の理解と実験等の体験的活動を通して、初等教育に携わる教師としての資質・能力の基礎を養う。   | (1) 「B生命・地球」領域の教材について理解する。<br>(2) 「B生命・地球」領域の実験や観察を行うことができる。  |   |     | ◎        |   |          |   |           | ○ |
| 20UEDM2102 | 音楽科内容論        | 2   | ソルフェージュ（リズム・音程関連）と音楽理論（楽典）の理解と歌唱の基礎的な技術や表現方法の練習を通して、初等教育に携わる教師・保育者としての資質・能力の基礎を養う。                                      | (1) 基礎的なソルフェージュと音楽理論の知識を理解する。<br>(2) 基本的な発声を行うことができる。<br>(3) 基本的な譜読ができる。  |   |     | ◎        | ○ |          | ○ |           |   |
| 20UEDM2103 | 体育科内容論        | 2   | 運動の特性の理解と各種運動の体験的活動を通して、初等教育に携わる教師としての資質・能力の基礎を養う。  | (1) 各種運動の特性を理解している。<br>(2) 体育科の教材研究を行うことができる。   |   |     | ◎        |   |          |   |           |   |
| 20UEDM2183 | 外国語科内容論       | 2   | 小学校における外国語活動・外国語科の授業実践に必要な実践的な英語運用力と、英語に関する背景的な知識を身につける。  | (1) 日本における小学校外国語教育の意義や現状を理解している。<br>(2) 小学校における外国語活動・外国語の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力が身につけている。<br>(3) 小・中学校の接続も踏まえながら、小学校における外国語活動・外国語の授業を担当するために必要な背景的な知識が身につけている。 |   |     | ◎        | ○ |          |   |           |   |



| 科目番号       | 科目名    | 学年  | 科目目的   | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |  |          |  |           |  |  |
|------------|--------|-----|--|---|---|-----|----------|--|----------|--|-----------|--|--|
|            |        |     |  |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |  |          |  |           |  |  |
|            |        |     |  |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |  | 3. 思考・判断 |  | 4. 態度・志向性 |  |  |
| 1-1        | 1-2    | 2-1 | 2-2  | 3-1   | 3-2   | 4-1 | 4-2      |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDM3121 | 国語科教育法 | 3   | 小学校国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、基礎的な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。 | (1) 学習指導要領における小学校国語科の目標、内容および教育方法と評価について理解している。<br>(2) 背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できる。<br>(3) 児童の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。<br>(4) 小学校国語科の特性に応じた情報機器および教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できる。<br>(5) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。<br>(6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して授業改善の視点を身につけている。  |   |     | ◎        |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDM3125 | 算数科教育法 | 3   | 小学校算数科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、基礎的な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。 | (1) 学習指導要領における小学校算数科の目標・内容および教育方法と評価について理解している。<br>(2) 背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できる。<br>(3) 児童の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。<br>(4) 小学校算数科の特性に応じた情報機器および教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できる。<br>(5) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。<br>(6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。 |   |     | ◎        |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDM3123 | 社会科教育法 | 3   | 小学校社会科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、基礎的な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。 | (1) 学習指導要領における小学校社会科の目標・内容および教育方法と評価について理解している。<br>(2) 背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できる。<br>(3) 児童の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。<br>(4) 小学校社会科の特性に応じた情報機器および教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できる。<br>(5) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。<br>(6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。 |   | ○   | ◎        |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDM3127 | 理科教育法  | 3   | 小学校理科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、基礎的な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける   | (1) 学習指導要領における小学校理科の目標・内容および教育方法と評価について理解している。<br>(2) 背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できる。<br>(3) 児童の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。<br>(4) 小学校理科の特性に応じた情報機器および教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できる。<br>(5) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。<br>(6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。   |   |     | ◎        |  |          |  |           |  |  |

| 科目番号       | 科目名      | 学年  | 科目目的   | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |  |          |   |           |   |  |
|------------|----------|-----|--|---|---|-----|----------|--|----------|---|-----------|---|--|
|            |          |     |  |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |  |          |   |           |   |  |
|            |          |     |  |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |  | 3. 思考・判断 |   | 4. 態度・志向性 |   |  |
| 1-1        | 1-2      | 2-1 | 2-2  | 3-1   | 3-2   | 4-1 | 4-2      |  |          |   |           |   |  |
| 20UEDM3129 | 生活科教育法   | 3   | 小学校生活科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、基礎的な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。   | (1) 学習指導要領における小学校生活科の目標・内容および教育方法と評価について理解している。<br>(2) 背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できる。<br>(3) 児童の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。<br>(4) 小学校生活科の特性に応じた情報機器および教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できる。<br>(5) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。<br>(6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。     |   |     | ◎        |  |          |   |           |   |  |
| 20UEDM3122 | 音楽科教育法   | 3   | 小学校音楽科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、基礎的な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。   | (1) 学習指導要領における小学校音楽科の目標・内容および教育方法と評価について理解している。<br>(2) 背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できる。<br>(3) 児童の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。<br>(4) 小学校音楽科の特性に応じた情報機器および教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できる。<br>(5) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。<br>(6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。     |   |     | ◎        |  |          | ○ | ○         |   |  |
| 20UEDM3124 | 図画工作科教育法 | 3   | 小学校図画工作科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、基礎的な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。 | (1) 学習指導要領における小学校図画工作科の目標・内容および教育方法と評価について理解している。<br>(2) 背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できる。<br>(3) 児童の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。<br>(4) 小学校図画工作科の特性に応じた情報機器および教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できる。<br>(5) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。<br>(6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。 |   |     | ◎        |  |          | ○ |           | ○ |  |
| 20UEDM3126 | 家庭科教育法   | 3   | 小学校家庭科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、基礎的な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。   | (1) 学習指導要領における小学校家庭科の目標・内容および教育方法と評価について理解している。<br>(2) 背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できる。<br>(3) 児童の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。<br>(4) 小学校家庭科の特性に応じた情報機器および教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できる。<br>(5) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。<br>(6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。     |   | ○   | ◎        |  |          | ○ |           |   |  |

| 科目番号       | 科目名        | 学年  | 科目目的   | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |  |          |  |           |  |  |
|------------|------------|-----|--|---|---|-----|----------|--|----------|--|-----------|--|--|
|            |            |     |  |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |  |          |  |           |  |  |
|            |            |     |  |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |  | 3. 思考・判断 |  | 4. 態度・志向性 |  |  |
| 1-1        | 1-2        | 2-1 | 2-2  | 3-1   | 3-2   | 4-1 | 4-2      |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDM2122 | 体育科教育法     | 2   | 小学校体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、基礎的な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。   | (1) 学習指導要領における小学校体育科の目標・内容および教育方法と評価について理解している。<br>(2) 背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できる。<br>(3) 児童の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。<br>(4) 小学校体育科の特性に応じた情報機器および教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できる。<br>(5) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。<br>(6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。                           |   |     | ◎        |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDM3181 | 外国語科教育法    | 3   | 小学校における外国語活動（中学年）・外国語（高学年）の教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、基礎的な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。  | (1) 学習指導要領における外国語活動および外国語科の目標・内容および教育方法と評価について理解している。<br>(2) 背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できる。<br>(3) 児童期の第二言語習得の特徴について理解し、実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。<br>(4) 小学校における外国語活動および外国語科の特性に応じた情報機器および教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できる。<br>(5) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。<br>(6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。 |   | ○   | ◎        |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDM2131 | 教育課程論      | 2   | 教育課程の意義・編成・実施・評価について知識と理解を得ることにより、教職を担うために必要とされる基礎的な素養を養う。また、教育課程の基準として定められている学習指導要領の変遷や、現行学習指導要領の特徴について学ぶとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。  | (1) 現代日本の学校における教育課程について、それを支える考え方や法制、実際の編成・実施・評価の方法を、歴史と国際比較の二つの視点から説明できる。<br>(2) カリキュラムおよび教育課程という概念の成立と発展について理解している。<br>(3) 我が国の教育課程をめぐる制度について歴史的に概観できる。<br>(4) 現在の教育課程の基準（学習指導要領など）とそれに基づくカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解している。<br>(5) カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解している。  |   |     | ◎        |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDM2133 | 道徳教育の理論と実践 | 2   | 道徳教育と「特別の教科道徳」の重要性と特質を理解し、社会的課題や子どもたちの課題に向き合いながら、主体的・創造的に取り組むことができる力量を身につける。   | (1) 我が国における道徳教育の改革動向について、基礎的な知識を有している。<br>(2) 「特別の教科道徳」の基本理念を理解し、小学校における道徳の授業方法について、他の活動領域と関連づけながら具体的に計画し、実践できる力を身につける。   |   | ○   | ◎        |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDM2135 | 教育方法の理論と実践 | 2   | 1. 教育方法学の概要を学び、教授・学習に焦点をあて理論と実践の乖離を克服し、理論を教育実践に活用するための「方法・技術」に関する基礎的な知識を習得する。<br>2. 「教育方法学」の領域は、授業の技術的原理に関する問題だけではなく、教室における子どもの学習の経験の問題、カリキュラム構成と評価に関する問題、教室における教師と子どものコミュニケーションの問題、教師と教師教育に関する問題などを包摂して成立していることを学ぶ。 | (1) 教育方法学の歴史や日本の授業と授業研究の概観などに関する基礎的な知識を修得することを通して、より豊かな教育観、授業観を持つことができる。<br>(2) 授業づくりの諸理論に関する基礎的な知識を修得し、それらの理論を学習指導法と関連付けて説明することができる。   |   | ◎   | ○        |  |          |  |           |  |  |

| 科目番号       | 科目名             | 学年  | 科目目的   | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |   |          |  |           |  |  |
|------------|-----------------|-----|--|---|---|-----|----------|---|----------|--|-----------|--|--|
|            |                 |     |  |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |   |          |  |           |  |  |
|            |                 |     |  |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |   | 3. 思考・判断 |  | 4. 態度・志向性 |  |  |
| 1-1        | 1-2             | 2-1 | 2-2  | 3-1   | 3-2   | 4-1 | 4-2      |   |          |  |           |  |  |
| 20UEDM3132 | 生徒指導・進路指導の理論と実践 | 3   | 1. 児童生徒の「生きる」力の育成を視点として、教師として必要とするこれからの学校における生徒指導・進路指導実践の理論と具体的な実践のあり方を学ぶ。<br>2. 他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技術や素養を身につけるとともに、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身につける。 | (1) 生徒指導の意義や原理を理解している。<br>(2) すべての児童生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解している。<br>(3) 児童生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解している。<br>(4) 進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解している。<br>(5) すべての児童生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方や指導のあり方を理解している。<br>(6) 児童生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方やあり方を理解している。               |   |     | ◎        | ○ |          |  |           |  |  |
| 20UEDM3130 | 教育相談の理論と実践      | 3   | 子どもの発達に関する心理学知識をもとに、幼児児童生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）および技術を身につける。   | (1) 学校園における教育相談の意義とそれに関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解している。<br>(2) 教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解している。<br>(3) 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解している。<br>(4) いじめ、不登校・不登園、虐待、非行等の課題に対する、幼児、児童および生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解している。<br>(5) 教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備など、組織的な取組みの必要性および地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解している。 |   |     | ◎        | ○ |          |  |           |  |  |
| 20UEDM2130 | 特別活動の指導法        | 2   | 学習指導要領に示された「特別活動」について、内容や、その趣旨、指導法について理解する。  | (1) 学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事といった特別活動の各分野の意味づけを理解する。<br>(2) 実際の指導にどう生かしていくか、具体的に探求することができる。   |   | ○   | ◎        |   |          |  |           |  |  |
| 20UEDM4131 | 総合的な学習の時間の指導法   | 4   | 総合的な学習の時間における横断的・総合的な学習や児童の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動の展開に必要な基礎的知識を学習し、総合的な学習の展開に必要な資質を身につける。  | (1) 総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標および内容を定める際の考え方を理解している。<br>(2) 総合的な学習の時間の指導計画を立案することができる。<br>(3) 各教科等との関連性を図りながら総合的な学習の時間の年間指導計画を作成することの重要性を理解している。<br>(4) PBLの進め方を理解し、主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元構成ができる。<br>(5) 総合的な学習の時間の指導と評価の考え方や実践上の留意点を理解している。  |   | ○   | ◎        |   |          |  |           |  |  |
| 20UEDM2141 | 日本語表現 I         | 2   | 理解語彙はもちろん、使用語彙を増やし、教師として社会人として正しく美しい日本語の使い手となるようさまざまなジャンルの実用的な文章作成を体験することにより、中学校国語を教授するにふさわしい基礎的知識および技能を習得する。  | (1) 中学校国語を教授するにふさわしい基礎的知識および技能を身につけている。<br>(2) 自分の思いや考えを確かなものとするため、相手に正しく伝わるためにはどのように伝えることが一番望ましいのかということを考えて話したり書いたりできる。  |   |     | ○        | ◎ |          |  |           |  |  |





| 科目番号       | 科目名          | 学年  | 科目目的  | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |   |          |   |           |  |   |
|------------|--------------|-----|---|---|---|-----|----------|---|----------|---|-----------|--|---|
|            |              |     |   |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |   |          |   |           |  |   |
|            |              |     |   |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |   | 3. 思考・判断 |   | 4. 態度・志向性 |  |   |
| 1-1        | 1-2          | 2-1 | 2-2   | 3-1   | 3-2   | 4-1 | 4-2      |   |          |   |           |  |   |
| 20UEDM2148 | 学校教材としての文学   | 2   | 文学教材の鑑賞と探究的活動を通して、初等・中等教育に携わる教師としての資質・能力の基礎を養う。特に中学校国語科における文学の教材研究について深く学ぶ。                       | (1) 文学教材の教材研究を行い、学習活動案を立案することができる。<br>(2) 学習した内容を踏まえて、自分の意見を持つとともに、各自で工夫した活動を行うことができる。  |   | ◎   |          |   |          |   |           |  |   |
| 20UEDM3146 | 漢文入門         | 3   | 漢文の訓読法と基礎的な読解力を身につける。とりわけ、中学校教科国語科の「漢文学」を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、授業実践のための実践的指導力と関連づけて理解する。         | (1) 漢文の訓読法の基礎を理解している。<br>(2) 中国文化が日本文学・日本文化に及ぼした影響について理解している。   |   | ○   | ◎        |   |          |   |           |  | ○ |
| 20UEDM4141 | 漢文学          | 4   | 漢文学中の散文分野あるいは韻文分野の代表的な作品の講読を通じて、学習者が自らその読解力を高め、中学校教科国語科において教授するに足る基礎的知識および技能等を修得する。               | (1) 漢文の訓読法に習熟し、故事成語の出典となった漢文の文章を読むことができる。<br>(2) 中国文化が日本文学・日本文化に及ぼした影響について説明できる。  | ○   | ◎   |          |   |          |   |           |  |   |
| 20UJPA1311 | 書道 I         | 3   | 書の古典における書体美を理解し、これを自ら表現できるようにし、中学校教科国語科の「書写」を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得する。                             | 書写書道の基本について、実技と知識の両面から理解し、表現することができる。   |   | ◎   | ○        |   |          |   |           |  |   |
| 20UJPA1312 | 書道 II        | 3   | 書の古典における書体美を自ら表現した上で、中学生への指導のあり方を学び、中学校教科国語科の「書写」を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得する。                        | 書写書道の基本について、実技と知識の両面から理解を深め、表現を高めることができる。   |   |     |          | ○ |          | ◎ |           |  |   |
| 20UEDM3151 | 中等国語科教育法 I   | 3   | 中学校国語科における教育目標と育成したい資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について理解を深める。また、背景となる「教科に関する専門的事項」について、指導法という観点から理解する。 | (1) 学習指導要領における中学校国語科の目標および主な内容並びに全体構造を理解している。<br>(2) 中学校国語科の個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。<br>(3) 中学校国語科の学習評価の考え方を理解している。<br>(4) 中学校国語科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。<br>(5) 中学校国語科の授業を構想する能力を身につける。 | ○   | ◎   |          |   |          |   |           |  |   |
| 20UEDM3153 | 中等国語科教育法 II  | 3   | 様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行い、中学校国語科の授業を構築する力を身につける。また、中学校国語科を教授する際に必要となる教材活用の理論と方法について学ぶ。   | (1) 生徒の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。<br>(2) 中学校国語科の特性に応じた教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。<br>(3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。   |   |     | ○        | ◎ |          |   |           |  |   |
| 20UEDM3152 | 中等国語科教育法 III | 3   | 中学校国語科の授業実施するための教科指導力や授業実践力を修得することを目指す。また授業を行うに当たって必要な「教師としての振る舞い」を学ぶ。                            | (1) 模擬授業において授業を実施できる。<br>(2) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。<br>(3) 発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置づけを考察することができる。<br>(4) 授業での授業者としての立ち居振る舞いとコミュニケーション能力を身につける。   |   |     |          |   |          | ◎ | ○         |  |   |

| 科目番号       | 科目名           | 学年  | 科目目的   | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |  |          |  |           |   |
|------------|---------------|-----|--|---|---|-----|----------|--|----------|--|-----------|---|
|            |               |     |  |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |  |          |  |           |   |
|            |               |     |  |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |  | 3. 思考・判断 |  | 4. 態度・志向性 |   |
| 1-1        | 1-2           | 2-1 | 2-2  | 3-1   | 3-2   | 4-1 | 4-2      |  |          |  |           |   |
| 20UEDM3154 | 中等国語科教育法Ⅳ     | 3   | 国語科教育の歴史と現在の課題を学び、中学校国語科指導者としての資質を身につけることを目指す。中学校国語科教育の実践的課題を引き受け、国語科授業を構想する教師としての実践的指導力を追求する姿勢を身につける。   | (1) 中学校国語科における教育の歴史を学び、自身の指導に取り入れることができる。<br>(2) 中学校国語科における教育の現代的課題を知り、対応する力を身につける。<br>(3) 中学校国語科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。<br>(4) 中学校国語科の特性に応じた情報機器の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。 |   |     |          |  |          |  | ◎         | ○ |
| 20UEDM2161 | 英 語 学         | 2   | 中学校における外国語科の授業に資する英語学の基本的な考え方を学ぶ。音声学、音韻論、形態論、意味論、統語論、生成文法、意味論、語用論など理論的な英語学研究の主要領域を概観して、音や形、意味の単位とその組み合わせ方や、会話やテキストの仕組みを解明しながら、英語の全体像を捉える。さらに、英語史、社会言語学などの観点から、英語が歴史的に辿ってきた過程や、現代の英語が社会の中で果たす機能についても学ぶ。 | (1) 英語の音声の仕組みについて理解している。<br>(2) 英語の文法について理解している。<br>(3) 英語の歴史的変遷および国際共通語としての英語の実態について理解している。  | ○   | ◎   |          |  |          |  |           |   |
| 20UEDM2184 | 英 語 文 学 入 門   | 2   | 英語で書かれた文学を学ぶ中で、英語による表現力への理解を深めるとともに、英語が使われている国・地域の文化について学ぶ。中学校における外国語科の授業に生かすため、英米を中心とした英語圏の文学の諸相を概観し、文学とその背景にある文化・社会との関係性を理解する。   | (1) 文学作品において使用されている様々な英語表現について理解している。<br>(2) 文学作品で描かれている、英語が使われている国・地域の文化について理解している。<br>(3) 英語で書かれた代表的な文学について基本的な知識を習得している。   | ○   | ◎   |          |  |          |  |           |   |
| 20UEDM3161 | 英 語 文 学 と 日 本 | 3   | 将来、英語教育を担う者の基礎的な素養として、英語文学を日本との関連で考える。明治以降、イギリス文学およびアメリカ文学がどのように日本に紹介され、日本における文学や日本人のものの考え方に影響を与えたのかについて学ぶ。また、日本文学や言語をはじめとした日本文化が英語文学に与えた影響について学ぶことにより、英語文学と日本の関係の多面的な理解を深める。                          | (1) 文学作品において使用されている様々な英語表現について理解している。<br>(2) 英語文学作品で描かれている、日本文化について理解している。<br>(3) 英語で書かれた代表的な文学のうち日本における英語教育に関連する作品について知識を得ることができる。   | ○   | ◎   |          |  |          |  |           |   |
| 20UEDM3162 | 英 語 文 学 と 世 界 | 3   | 将来、英語教育を担う者の基礎的な素養として、英語文学を近現代の世界との関連で考える。今日、広く英語圏の地域で展開されている英語文学の特性を踏まえて、世界の文学や言語文化にもたらした英語文学の影響や、逆に英語が世界共通語としての地歩を得る中で世界から受けた影響について理解を深める。   | (1) 文学作品において使用されている様々な英語表現の世界的バリエーションについて理解している。<br>(2) 英語文学作品で描かれている、世界各国の文化について理解している。<br>(3) 英語で書かれた代表的な文学作品のうち英米以外の国々に関連するものについて知識を得ることができる。  | ○   | ◎   |          |  |          |  |           |   |

| 科目番号       | 科目名             | 学年  | 科目目的   | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |   |          |   |           |  |  |
|------------|-----------------|-----|--|---|---|-----|----------|---|----------|---|-----------|--|--|
|            |                 |     |  |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |   |          |   |           |  |  |
|            |                 |     |  |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |   | 3. 思考・判断 |   | 4. 態度・志向性 |  |  |
| 1-1        | 1-2             | 2-1 | 2-2  | 3-1   | 3-2   | 4-1 | 4-2      |   |          |   |           |  |  |
| 20UEDM2165 | 異文化間教育 I        | 2   | 教育・保育の実践のための基礎的な素養として、主として外国に目を向けて異文化間教育の基本的な考え方やその実際について学ぶ。その中で、世界の主要国における多文化社会の形成過程や現状について知り、そこで行われる学校教育がどのような社会の現実に対応し、課題に取り組んできたのかを知る。さらに、社会や世界との関わりの中で、他者とのコミュニケーションを行う力を育成する観点から、外国語やその背景にある文化の多様性および異文化コミュニケーションの現状と課題について学び、併せて、英語が使われている国・地域の文化を通じて、英語による表現力への理解を深め、中学校における外国語科の授業に資する知見を身につける。 | (1) 世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解することができる。<br>(2) 様々な国や地域における多文化社会の形成過程と現状を理解することができる。<br>(3) 設定したテーマについて主体的に調査し、分析、発表することができる。                             | ◎   |     |          |   |          | ○ | ○         |  |  |
| 20UEDM2166 | 異文化理解とコミュニケーション | 2   | 小学校・幼稚園の教員として、地域や職場のグローバル化に対応し、様々な文化背景や価値観を持つ人々と良好なコミュニケーションを行うことのできる能力の養成を目的とする。  | (1) 文化の違いによる言語・非言語コミュニケーションスタイルの多様性を理解している。<br>(2) 文化背景や価値観の異なる人々の考えに敬意を持って耳を傾けるとともに、自分の考えもきちんと主張できる技術を身につけている。   | ○   |     |          | ○ | ◎        |   |           |  |  |
| 20UEDM2168 | 世界の子どもたち        | 2   | 異文化間理解教育の視点から、諸外国における移民とその子どもの教育の歴史と現状について学ぶとともに、海外における日本人児童生徒の教育との概要と現状を地域ごとに学ぶ。また、わが国における在留外国人の教育の実態を把握し、課題を探る。  | (1) 諸外国における移民とその子どもの教育の現状を把握することができる。<br>(2) わが国における在留外国人の教育および海外における日本人児童生徒の教育の歴史と現状について理解することができる。<br>(3) 設定したテーマについて主体的に調査し、分析、発表することができる。                 |   | ◎   |          |   | ○        |   |           |  |  |
| 20UEDM3163 | 外国語コミュニケーションⅢ   | 3   | 中学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語運用能力を身につける。また、生徒に対して理解可能な言語インプットを与え、生徒の理解を確かめながら英語でインタラクションすることができる。  | (1) ナチュラル・スピードに近い速さとリズムの英語に適応し、ネイティブ・スピーカーの問いに即座に答えられる。<br>(2) 日常生活だけではなく、特に教育問題を扱った題材を聞き取ったり読んだりして理解し、英語でディスカッションできる。<br>(3) 授業での指導で用いる英語表現を理解し、正しい発音で使用できる。 | ◎   |     | ○        |   |          |   |           |  |  |
| 20UEDM3164 | 外国語コミュニケーションⅣ   | 3   | 中学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語運用能力を身につける。また、生徒に対して理解可能な言語インプットを与え、生徒の理解を確かめながら英語でインタラクションを進めていく柔軟な調整能力を身につける。   | (1) CEFR B2レベル以上の英語運用能力を身につける。<br>(2) 教育問題を扱った題材を聞き取ったり読んだりして、自分の考えを英語でまとめてプレゼンテーションできる。<br>(3) 複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。                                    | ◎   |     | ○        |   |          |   |           |  |  |
| 20UEDM2163 | ライティング I A      | 2   | 中学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語ライティング能力を身につけるため、語彙と表現の増強を図り、短い手紙や日常生活の描写、説明などが正確な英語で書けるようにする。また、英語と日本語の発想の違いや、文化的背景が言葉に与える影響なども解説し理解を深める。  | (1) 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。<br>(2) 中学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語ライティング能力が身につけている。<br>(3) 英語と日本語の発想の違いや、文化的背景が言葉に与える影響などを理解している。               | ◎   |     | ○        |   |          |   |           |  |  |



| 科目番号       | 科目名          | 学年  | 科目目的   | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |  |          |  |           |  |  |
|------------|--------------|-----|--|---|---|-----|----------|--|----------|--|-----------|--|--|
|            |              |     |  |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |  |          |  |           |  |  |
|            |              |     |  |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |  | 3. 思考・判断 |  | 4. 態度・志向性 |  |  |
| 1-1        | 1-2          | 2-1 | 2-2  | 3-1   | 3-2   | 4-1 | 4-2      |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDM2164 | ライティング I B   | 2   | 中学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語ライティング能力を身につけるため、語彙と表現の増強を図り、リーディングでも学習する基本的なパラグラフの構成を理解し、論理的思考に基づいてパラグラフを展開させる練習を行い、論理的で説得力のある、より高度な内容の英語の文章が書けるようにする。               | (1) 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。<br>(2) 中学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語ライティング能力が身につけている。<br>(3) 論理的思考に基づいてパラグラフを展開させることができる。   | ◎   |     | ○        |  |          |  |           |  |  |
| 20UENG1121 | リーディング I A   | 2   | 中学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための正確な読解力を身につける。英文を読む前の内容の予想、スキミングやスキミングなどの多角的なアプローチによって、文章の概要を素早く把握したり、パラグラフにおける主題文と支持文の見極めや関係性を理解して細部を正しく読み取ったりする訓練を行う。                  | (1) 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。<br>(2) 中学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語読解能力が身につけている。<br>(3) パラグラフにおける主題文と支持文の見極めや関係性を理解できる。  | ◎   |     | ○        |  |          |  |           |  |  |
| 20UENG1221 | リーディング I B   | 2   | 中学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための正確な読解力を身につける。文章の概要を素早く把握したり、パラグラフにおける主題文と支持文の見極めや関係性を理解して細部を正しく読み取ったりする訓練を行い、特に教育問題を扱った論説、新聞、雑誌の記事を教材として取り上げ、必要な情報を得たり、概要や要点をまとめることを学ぶ。 | (1) 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。<br>(2) 中学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語読解能力が身につけている。<br>(3) 教育問題を扱った論説、新聞、雑誌の英文記事を教材として活用できる。  | ◎   |     | ○        |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDM3171 | 中等英語科教育法 I   | 3   | 中学校英語科における教育目標と育成したい資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について理解を深める。さらに、背景となる「教科に関する専門的事項」について、指導法という観点から理解する。   | (1) 学習指導要領における中学校英語科の目標および主な内容並びに全体構造を理解している。<br>(2) 英語科の個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。<br>(3) 英語科の学習評価の考え方を理解している。<br>(4) 英語科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。<br>(5) 英語科の授業を構想する能力を身につけている。 | ◎   | ○   |          |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDM3173 | 中等英語科教育法 II  | 3   | 様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行い、中学校英語科の授業を構築する力を身につける。さらに、中学校英語科を教授する際に必要となる教材活用の理論と方法について学ぶ。   | (1) 生徒の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。<br>(2) 英語科の特性に応じた教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。<br>(3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。  | ◎   | ○   |          |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDM3172 | 中等英語科教育法 III | 3   | 中学校英語科の授業を実施するための教科指導力・授業実践力を修得し、授業を行うに当たって必要な「教師としての振る舞い」とコミュニケーションを学ぶ。   | (1) 模擬授業において授業を実施できる。授業改善の視点を身につけている。<br>(2) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。<br>(3) 発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置づけを考察することができる。<br>(4) 授業での授業者としての立ち居振る舞いとコミュニケーション能力を身につけている。               | ○   | ◎   |          |  |          |  |           |  |  |

| 科目番号       | 科目名             | 学年  | 科目目的   | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |   |          |  |           |  |  |
|------------|-----------------|-----|--|---|---|-----|----------|---|----------|--|-----------|--|--|
|            |                 |     |  |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |   |          |  |           |  |  |
|            |                 |     |  |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |   | 3. 思考・判断 |  | 4. 態度・志向性 |  |  |
| 1-1        | 1-2             | 2-1 | 2-2  | 3-1   | 3-2   | 4-1 | 4-2      |   |          |  |           |  |  |
| 20UEDM3174 | 中等英語科教育法Ⅳ       | 3   | これまでの歴史と現在の課題を学び、中学校英語科の教員としての資質を身につけ、英語科における教育の実践的課題を引き受け、授業を構想する教師としての実践力を探求する。  | (1) 英語科教育における教育の歴史を学び、自身の指導に取り入れることができる。<br>(2) 英語科における教育の現代的課題を知り、対応する力を身につけている。<br>(3) 英語科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。<br>(4) 英語科の特性に応じた情報機器の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。     | ○   | ◎   |          |   |          |  |           |  |  |
| 20UEDM2192 | 学校教育参加実習        | 2   | 幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校教育に関わる理論的知識と実践的な知識を関連させながら理解することにより、教職についての理解を深め、教育活動を客観的にとらえる能力を身につける。  | (1) 専門教育科目の講義や演習で学んだ知識を踏まえて、教育現場の状況を解釈できる。<br>(2) 教育現場の観察と体験的活動を踏まえて、自身の課題を設定することができる。  |   |     |          | ◎ |          |  |           |  |  |
| 20UEDM3131 | 教育実習事前事後指導Ⅰ（小幼） | 3   | 小学校教育に関わる実践的な知識と教育実習の意義の理解を通して、教師としての自覚を持ち、実践的指導力の基礎を養う。「教育実習Ⅰ（小）」に向けて、教育実習を行う上で必要となる学校教育全般にわたる基本的理解を図る。教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を修得し、教育者としての自覚を高める。教育実習を振り返り、教職への認識を確かなものとする。  | (1) 小学校教育に関わる教師の活動と、教育実習の意義について理解する。<br>(2) 理論の理解を通して得た様々な情報を踏まえて、自身の課題を設定することができる。<br>(3) 学校教育全般に関する基本的な知識を理解する。<br>(4) 教職と自己に対する認識を深める。<br>(5) 小学校教諭としての自覚を高め、態度・技能を修得する。           |   |     | ◎        | ○ |          |  | ○         |  |  |
| 20UEDM3192 | 教育実習Ⅰ（小幼）       | 3   | 小学校教育に関わる体験的活動を通して、教師としての自覚を持ち、実践的指導力の基礎を養う。教育実習は教職課程の総括的、実践的意義を持つ教育経験の場である。講義を通して得た専門的知識を活かし、実習に取り組むことにより、教育者としての資質の向上を図る。  | (1) 小学校教育に関わる教師の活動について理解する。<br>(2) 授業およびその他の活動中に、現職教師の援助を受けながら、適切に子どもを指導することができる。<br>(3) 実践を通して得た様々な情報を踏まえて、自身の課題を設定することができる。<br>(4) 小学校教諭を目指すものとして必要な、知識・技能、意欲・態度、問題解決能力等の指導力を身につける。 |   |     | ◎        | ○ |          |  | ○         |  |  |
| 20UEDM4133 | 教育実習事前事後指導（中）   | 4   | 教育実習を行う上で必要となる中学校教育全般にわたる基本的理解を図る。中学校教育に関わる実践的知識と教育実習の意義の理解を通して、教育者としての自覚を持ち実践的指導力の基礎を養う。事前指導では、講義を通して実習生として遵守すべき義務等や望ましい態度・技能を理解し、実習生として教育活動に参画する意識を高める。事後指導では、教育実習を振り返り、教職への認識を確かなものとするともに、グループ・ディスカッションなど具体的な活動を通して今後さらに習得すべき知識・技能等を理解する。 | (1) 中学校教育に関わる教師の活動と、教育実習の意義について理解する。<br>(2) 理論の理解を通して得た様々な情報を踏まえて、自身の課題を設定することができる。<br>(3) 学校教育全般に関する基本的な知識を理解する。<br>(4) 教職と自己に対する認識を深める。<br>(5) 中学校教諭としての自覚を高め、態度・技能を修得する。           |   |     | ◎        | ○ |          |  | ○         |  |  |



| 科目番号       | 科目名       | 学年  | 科目目的  | 到達目標   | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |  |          |   |           |  |   |
|------------|-----------|-----|---|--|---|-----|----------|--|----------|---|-----------|--|---|
|            |           |     |   |  | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |  |          |   |           |  |   |
|            |           |     |   |  | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |  | 3. 思考・判断 |   | 4. 態度・志向性 |  |   |
| 1-1        | 1-2       | 2-1 | 2-2   | 3-1  | 3-2   | 4-1 | 4-2      |  |          |   |           |  |   |
| 20UEDM2244 | 人権教育と福祉   | 2   | 現代社会の諸課題についての探究的活動を通して、初等教育に携わる教師としての資質・能力の基礎を養う。   | (1) 現代社会の諸課題に基づいた授業計画と立案することができる。<br>(2) 学習した内容を踏まえて、自分の意見を持つとともに、各自で工夫した活動を行うことができる。<br>(3) 小学校社会科における授業内容を通して、エネルギーや環境問題、貧困問題といった社会問題への関心を高めることができる。 |   | ◎   |          |  |          |   |           |  |   |
| 20UEDM2246 | 子ども理解と教育  | 2   | 教師にとって不可欠な、児童・生徒を理解する力を持つことの重要性を知り、意欲と熱意を持って教師に必要な知識や技能を学ぶ姿勢を身につける。教師としての幅広い教養とともに自分の得意分野を見つけ、児童・生徒の「生きる力」を培える基礎的な力を身につける。  | (1) 児童・生徒を理解することが教育に大きな関わりを持つことを理解する。<br>(2) 教師にとって必要な幅広い教養的知識を得る。   |   | ◎   |          |  |          |   |           |  |   |
| 20UEDM2243 | 社会調査法 I   | 2   | 教育に関する様々な情報を活用してそこから有用な情報を読み解くために、記述統計と初歩的な推測統計の技法を身につける。   | (1) 社会事象、とりわけ教育に関する様々なデータを読み解くことができる。<br>(2) 社会事象、とりわけ教育に関するデータを収集し、わかりやすく表現することができる。<br>(3) 初歩的な推測統計を用いて、社会事象、とりわけ教育に関するデータを分析できる。                    |   |     |          |  |          | ◎ |           |  | ○ |
| 20UEDM4260 | 児童文学論     | 4   | 近代日本の児童文学史においては、巖谷小波『こがね丸』（叢書少年文学、明治24年）をもって嚆矢とするのが通例である。その出版・刊行に伴って、我が国の児童文学もスタートしたといえよう。本授業においては、日本の近代児童文学の成立以後、現代にいたるまでどのような作品が生み出されてきたのか、その歩みを概観するとともに、個々の作品の精読・分析を通してその時代の児童文学観および子ども観を探り、社会が子どもに注いだまなざしについて考える。加えて、日本の児童文学の史的展開についても詳述し、児童文学の本質に迫ることを目標とする。 | (1) 児童文学というジャンルの歴史的発生と変遷について理解できる。<br>(2) 児童文学の代表的な作家および作品にふれ、その読み方や楽しみ方を習得できる。  |   | ◎   |          |  |          |   | ○         |  |   |
| 20UEDM4262 | 日本現代文学の探究 | 4   | 中学校国語科に携わる者として必要な現代文学についての知識をより深く習得することを目的とする。具体的には、昭和、平成の時代の主な文学作品を取り上げ、個々の様々なジャンルの代表作品について読解を進め、それぞれの作品を鑑賞・読解し、学習者個人の生き方を見つめ直す。   | (1) 日本の現代文学作品に興味を持ち、作品を読み進めることができる。<br>(2) 文学作品の分析および解釈のしかたについて理解できる。  |   |     |          |  |          |   | ○         |  | ◎ |
| 20UEDM3260 | 言語学概論     | 3   | 国語科を指導する際に必要な言語学の知識を日本語の側面から解説する。具体的には、音声を扱う音韻論、単語の構造について学ぶ形態論、意味を考える意味論、文と場面の関係を見る語用論、国語史に絡む歴史言語学や通時言語学、方言から学ぶ言語地理学、「じゃんけん」の掛け声の地域差などを考える社会言語学という各方面からのアプローチにより、日本語とはどういう言語なのかを知り、国語を尊重する精神を養う講義を行う。   | (1) 言語のいろいろな事象について興味を持ち、体系的にとらえることの意義を理解できる。<br>(2) 日本語についての知識を通して国語を尊重する気持ちを持つことができる。   |   | ○   |          |  |          |   | ◎         |  |   |



| 科目番号       | 科目名          | 学年  | 科目目的   | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |   |          |   |           |  |   |
|------------|--------------|-----|--|---|---|-----|----------|---|----------|---|-----------|--|---|
|            |              |     |  |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |   |          |   |           |  |   |
|            |              |     |  |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |   | 3. 思考・判断 |   | 4. 態度・志向性 |  |   |
| 1-1        | 1-2          | 2-1 | 2-2  | 3-1   | 3-2   | 4-1 | 4-2      |   |          |   |           |  |   |
| 20UEDM2280 | 英語文法論 I      | 2   | 学校文法を批判的に観察・考察することによって、英語の文法に関してより深い理解と洞察を得ることを目的とする。具体的活動としては、学生および教員から出たトピックについて、その時間の授業担当者が事前に調べたり考えたりしたことを発表し、その内容について全員で議論していくという形態をとる。単に規則を暗記するのではなく、その規則が現代における実際の言語使用と合致しているのか、また、歴史上その規則はどのような変遷を経てきたのか等を調べたり考えたりすることを通して、「文法」とは「覚える」ものではなく「自分で考え、理解し、記述・分析する」ものであるという認識へと転換していきたい。このことにより、将来、中高の英語教員として授業を行う際にも「文法」に関して、より深く、柔軟で、実際の言語使用に即した取り扱いができるようになることが期待される。 | (1) 英語文法の基礎的知識を身につけ、規則について、明確に説明できるようになる。<br>(2) 英語文法の歴史についての知識を身につけ、その内容について、明確に説明できるようになる。<br>(3) 様々なテキストの中の文法の扱われ方を理解することができる。 |   | ◎   | ○        |   |          |   |           |  |   |
| 20UEDM4267 | 日本古典文学の探究 I  | 4   | 学校教育における古典の授業展開に必要な教材研究力の育成を企図する。古典文学作品を難易度順に取り上げ、品詞の判別・語の意味の判定・テキストの意味の確定、さらに鑑賞文の作成までを受講者に課し、順番に発表してもらい、受講者相互で意見交換を行う。自らの問題意識によって古典文学作品に対峙することで、課題を発見する力、かつその課題を探究・検討する力を高め、また個々の事象から文学的な特徴・本質を考究する姿勢を養う。   | (1) 古典文学の作品についてじっくりと読み進め、その作品世界を味わうことができる。<br>(2) 自分と古典を結び付け、古典を現代に活かすことができる。   |   |     |          |   |          | ○ |           |  | ◎ |
| 20UEDM4268 | 日本古典文学の探究 II | 4   | 中学校国語科に携わる者として「日本古典文学の探究 I」で得た古典文学についての知識をより深く習得することを目的とする。具体的には、平安時代中後期の文学を取り上げ、時代背景や当時の考えなども考慮しつつ作品を鑑賞する力を養う。またその力を活かして学生相互に解説させることにより学習者が新たな視点を得て、古典を自分の生活に活かせるようにする。   | (1) 古典文学の作品についてじっくりと読み進め、その作品世界を味わうとともに生徒に解説することができる。<br>(2) 自分と古典を結び付け、古典を自分の生活に活かすことができる。                                       |   |     |          |   |          | ○ |           |  | ◎ |
| 20UEDM4269 | 日本近代文学の探究    | 4   | 中学校国語科に携わる者として必要な近代文学についての知識をより深く習得することを目的とする。具体的には、明治、大正、昭和初期というそれぞれの時代の文学作品を取り上げ、個々の様々なジャンルの代表作品について読解を進め、それぞれの作品を鑑賞・読解し、学習者個人の生き方を見つめ直す。  | (1) 日本の近代文学作品に興味を持ち、作品を読み進めることができる。<br>(2) 文学作品の分析および解釈のしかたについて理解できる。   |   |     |          | ○ |          |   |           |  | ◎ |

| 科目番号       | 科目名           | 学年  | 科目目的   | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |  |          |  |           |  |  |
|------------|---------------|-----|--|---|---|-----|----------|--|----------|--|-----------|--|--|
|            |               |     |  |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |  |          |  |           |  |  |
|            |               |     |  |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |  | 3. 思考・判断 |  | 4. 態度・志向性 |  |  |
| 1-1        | 1-2           | 2-1 | 2-2  | 3-1   | 3-2   | 4-1 | 4-2      |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDM4266 | 英語文法論Ⅱ        | 4   | 学校文法を批判的に観察・考察することによって、英語の文法に関してより深い理解と洞察を得ることを目的とする。具体的活動としては、「英語文法論I」で学習したことを土台に、学生および教員から出たトピックについて、その時間の授業担当者が事前に調べたり考えたりしたことを発表し、その内容について全員で議論していくという形態をとる。単に規則を暗記するのではなく、その規則が現代における実際の言語使用と合致しているのか、また、歴史上その規則はどのような変遷を経てきたのか等を調べたり考えたりすることを通して、「文法」とは「覚える」ものではなく「自分で考え、理解し、記述・分析する」ものであるという認識へと転換していきたい。このことにより、将来、中高の英語教員として授業を行う際にも「文法」に関して、より深く、柔軟で、実際の言語使用に即した取り扱いができるようになることが期待される。 | (1) 英語文法の発展的知識を身につけ、規則について、明確に説明できるようになる。<br>(2) 英語文法の歴史についての知識を深め、その内容について、明確に説明できるようになる。<br>(3) 様々なテキストの中の文法の扱われ方を分析し、明確に説明できる。               |   | ◎   | ○        |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDM4270 | 英語文学の探究       | 4   | この科目では、英語文学の様々な作品を、小学校および中学校における外国語科の授業で活用するために必要な知識と実践的な活用方法を学ぶ。具体的活動としては、これまでの英語文学関連科目での学習内容を土台に、さらに探求した作品を選び、それぞれがその作品について分析するとともに、その内容を発表し、他の学生と意見を共有する。   | (1) 英語文学作品の特徴をとらえながら、内容を分析し、明確に説明できる。<br>(2) 英語文学作品について、プレゼンテーションを行い、自分の分析を明確に説明できる。<br>(3) 授業内ディスカッションにおいて、他の学生と積極的に意見を交換し、文学作品の分析力を高めることができる。 | ○   | ◎   |          |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDM4271 | 外国語コミュニケーションV | 4   | 1年時の「英語I・II」および2年時の「外国語コミュニケーションI・II」で学習した日常生活で使われる英語会話の力を基礎にして、ナチュラル・スピードに近い速さとリズムの英語に慣れて、ネイティブ・スピーカーの問いに即座に答えられるように練習する。「外国語コミュニケーションIV」に引き続き、教育問題を扱った題材を聞き取ったり読んだりして、自分の考えを英語でまとめてプレゼンテーションする練習を行う。   | (1) ナチュラル・スピードに近い速さとリズムの英語を聞き取ることができる。<br>(2) 会話において、ネイティブ・スピーカーの問いに即座に答えられるようになる。<br>(3) 教育問題について、英語でプレゼンテーションやディスカッションができるようになる。              | ◎   |     | ○        |  |          |  |           |  |  |

| 科目番号       | 科目名           | 学年  | 科目目的  | 到達目標   | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |   |          |  |           |  |  |
|------------|---------------|-----|---|--|---|-----|----------|---|----------|--|-----------|--|--|
|            |               |     |   |  | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |   |          |  |           |  |  |
|            |               |     |   |  | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |   | 3. 思考・判断 |  | 4. 態度・志向性 |  |  |
| 1-1        | 1-2           | 2-1 | 2-2   | 3-1  | 3-2   | 4-1 | 4-2      |   |          |  |           |  |  |
| 20UEDM2286 | 英語児童文学        | 2   | この科目では、英語で書かれた絵本や童謡、詩、また童話などの児童文学を、小学校および中学校における外国語科の授業で活用するために必要な知識と実践的な活用方法を学ぶ。子どものために書かれた易しく美しい英語の言葉遣いを繰り返し聞いたり読んだりして、英語の音やリズムを体得し、物語や詩の中で使われている様々な英語表現を学習する。また、子ども向けの文学がどのような時代背景の中から生まれてきたかを理解するために、英語圏の文学、特に英米の文学の中でどのような位置にあり、どのような歴史を辿ってきたのかを概観し、代表的な英語児童文学の作品に触れる。英語児童文学の作品を通して、英語表現や発話などの具体的な英語指導ができるようになることや、作品で描かれている国や地域の文化について理解できるようになることが目標である。 | (1) 児童文学に含まれる英語の言葉遣いを繰り返し聞いたり読んだりして、英語の音やリズムを体得することができる。<br>(2) 物語の中で使用されている様々な英語表現を理解し、発話できるようになる。<br>(3) 児童英語文学の歴史を理解し、作家や作品の特徴を明確に説明することができる。 | ○   | ◎   |          |   |          |  |           |  |  |
| 20UEDM2288 | 時事問題と英語表現     | 2   | 情報通信技術の発達によって、ますます世界が複雑に関係する現代において、多様な英語ニュースを通じて、世界に目を向け視野を広げる。同時にニュースで使われる英語を利用して、総合的な英語運用能力を高める。具体的な到達目標は、(1) 英語ニュースを通じて、世界の多様な事象・出来事等に関心を持つこと、(2) ニュースで使われる英語を利用して、総合的な英語運用能力を高めること、(3) 英語ニュースで得た情報について、自分の考え・感想、解決法を表現できることである。授業では、比較的易しい英語が使われているニュース英語を通じて、聴く・読む・話す・書くの4技能、語彙、文法の力を高める。  | (1) 英語ニュースを通じて、世界の多様な事象・出来事等に関心を持つ。<br>(2) ニュースで使われる英語を利用して、総合的な英語運用能力を高める。<br>(3) 英語ニュースで得た情報について、自分の考え・感想、解決法を表現できる。                           | ○   |     |          |   | ◎        |  |           |  |  |
| 20UEDM2261 | 国際教育フィールドワークⅠ | 2   | 国際教育の意義を理解するため、フィールドワーク、とりわけ「観察と記録」の具体的な方法論を身につけることを目的とする。幼稚園、小学校、中学校など、実際に国際教育が行われている「現場」を観察・記録し、国際教育の目的、方法、効果などについて考察を深める。そのために、フィールドワークにおける観察・記録という方法論の意義や具体的な方法を学び、国際教育を理解して実践するための「視点」を身につける。  | (1) 国際教育の意義を理解する。<br>(2) フィールドワークの中でも「観察と記録」の方法論を身につける。<br>(3) フィールドワークで観察した国際教育実践を考察し、発表することができる。   | ◎   |     |          | ○ |          |  |           |  |  |

| 科目番号       | 科目名           | 学年  | 科目目的   | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |  |          |   |           |   |   |   |
|------------|---------------|-----|--|---|---|-----|----------|--|----------|---|-----------|---|---|---|
|            |               |     |  |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |  |          |   |           |   |   |   |
|            |               |     |  |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |  | 3. 思考・判断 |   | 4. 態度・志向性 |   |   |   |
| 1-1        | 1-2           | 2-1 | 2-2  | 3-1   | 3-2   | 4-1 | 4-2      |  |          |   |           |   |   |   |
| 20UEDM2262 | 国際教育フィールドワークⅡ | 2   | 「教育」という営みにおいては、国家、民族、文化、社会のあり方ごとに異なる事情が存在する。日本の教育と海外の教育とを比較することにより、教育改善の方策を考察し、さらには教育の本質を探ることが目的である。幼稚園、小学校、中学校など様々な場所において海外と日本の子どもの交流活動を調査し支援することを通じて、国際教育の実践活動を学ぶ。 | (1) 実際の国際交流に携わることで、子どもたちの異文化理解や友好意識を高める方法を学ぶ。<br>(2) 交流に必要な様々な資源の活用法について学ぶ。<br>(3) それぞれの地域での国際交流に携わっている機関との連携を学ぶ。   |   |     | ◎        |  |          |   |           |   | ○ |   |
| 20UEDM2279 | 海外教育参加実習指導    | 2   | アメリカの教育現場を観察するために必要な視点を学び、コミュニケーション能力を身につける。   | (1) 留学に対する確たる目的意識を持つ。<br>(2) アメリカの教育現場を観察するための視点を持つ。  |   |     |          |  | ○        | ◎ |           |   |   |   |
| 20UEDM2292 | 海外教育参加実習      | 2   | アメリカの教育現場を観察することによって、アメリカの教育制度、学校教育、教育文化を学ぶ。   | (1) アメリカの教育の特徴を説明できる。<br>(2) 日米の教育を比較し、日本の教育について意見を持つ。<br>(3) アメリカの幼児・児童と英語でコミュニケーションがとれる。  |   |     |          |  | ○        | ◎ |           |   |   |   |
| 20UEDM2252 | 子どもと数学        | 2   | 算数・数学の探究的活動を通して、初等教育に携わる教師としての資質・能力の基礎を養う。   | (1) 小学校算数科の内容の数学的背景を理解し、数学的に見通しを持って算数科を指導する数学的技能・表現を身につける。<br>(2) 子どもたちの数学的思考力を涵養するための教材を開発することができる。<br>(3) 初等・中等教育段階で求められる数学の基礎的な概念や原理・法則について興味・関心を持ち探究することができる。 |   |     |          |  |          |   | ○         |   | ◎ |   |
| 20UEDM3244 | 理科教育実践        | 3   | 初等理科教育における実験・観察等の体験的・探究的活動を通して、初等教育に携わる教師としての資質・能力の基礎を養う。  | (1) 初等理科教育において教材となっている実験・観察について実験教材を開発することができる。<br>(2) 学習した内容を踏まえて、自分の意見を持つとともに、各自で工夫した活動を行うことができる。<br>(3) 小学校理科の内容を理解し、教材に関する基礎的な知識および技能を習得することができる。             |   |     |          |  | ◎        |   |           | ○ | ○ |   |
| 20UEDM4241 | 音楽科教育実践       | 4   | 合唱・合奏において、発声法や楽器の使い方についての基本的な技術を学び、それらの曲を指揮・指導できる能力を養う。また、音楽理論も深め、同時に指揮法も学ぶことによって、授業実践に活用できる技能や知識を身につける。   | (1) 音・楽器・形式などを工夫し、自身の持つ音楽的イメージを表現できる。<br>(2) 音楽理論や指揮法を授業実践に活用できる。   |   |     |          |  |          |   | ◎         |   | ○ | ○ |
| 20UEDM2258 | 調理と裁縫の生活スキル   | 2   | 調理と裁縫などの生活スキルの体験的・探究的活動を通して、幼児・児童の「生きる力」育成に携わる教師としての資質・能力の基礎を養う。   | (1) 手縫い・ミシン縫いによって作品を製作することができる。<br>(2) 調理実習の指導計画を立案することができる。<br>(3) 学習した内容を踏まえて、自分の意見を持つとともに、各自で工夫した活動を行うことができる。  |   |     | ○        |  | ◎        |   |           | ○ |   |   |
| 20UEDM4243 | 体育・スポーツ演習     | 4   | 多様な運動・スポーツおよび保健の体験的・探究的活動を通して、小学校教師としての資質・能力の基礎を養う。小学校運動領域で取り扱う各種運動を実施するとともに、保健領域で取り扱う内容について教材研究を行う。   | (1) 器械運動、ボール運動等において、小学校体育科の授業において見本を見せるための実技力を身につけている。<br>(2) 保健領域の教材研究において、学習指導要領に示される内容について探求し、その成果を発表できる。  |   |     |          |  |          |   | ◎         |   |   | ○ |
| 20UEDM2282 | 教室で使う英語表現     | 2   | アメリカの小学校および幼稚園での「海外教育参加実習」に必要な英語表現を学ぶ。   | (1) アメリカの幼児・児童と英語でコミュニケーションがとれる。<br>(2) 英語で教室内での説明、指示ができる。  |   |     |          |  |          |   | ◎         | ○ |   |   |



| 科目番号       | 科目名             | 学年 | 科目目的   | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |     |          |     |           |     |   |  |
|------------|-----------------|----|--|---|---|-----|----------|-----|----------|-----|-----------|-----|---|--|
|            |                 |    |  |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |     |          |     |           |     |   |  |
|            |                 |    |  |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |     | 3. 思考・判断 |     | 4. 態度・志向性 |     |   |  |
|            |                 |    |  |   | 1-1   | 1-2 | 2-1      | 2-2 | 3-1      | 3-2 | 4-1       | 4-2 |   |  |
| 20UEDM2256 | 教育プログラミング       | 2  | 学校教育において重視されつつある「プログラミング的思考」を理解し、子どもたちに、コンピュータに意図した処理を行うように指示することができるということを体験させながら、課題解決能力を養う技法を学ぶ。                           | (1) 身近な生活でコンピュータが活用されていることや、問題の解決には必要な手順があることを理解している。<br>(2) 発達の段階に即して「プログラミング的思考」を育成する能力、コンピュータの働きをよりよい人生や社会づくりに生かそうとする態度を涵養することができる。  |   |     | ◎        |     |          |     | ○         |     |   |  |
| 20UEDM3241 | 学級担任論           | 3  | 小・中学校教育における学級担任の役割と仕事の理解を通して、教師としての資質・能力の基礎を養う。  | (1) 学級担任の役割について理解する。<br>(2) 学級の運営計画を立案することができる。   |   |     | ◎        |     |          |     |           |     | ○ |  |
| 20UEDM4241 | 教科指導演習          | 4  | 小学校の授業に必要なとされる教授技術に関わる体験的活動を通して、教授技術について理解し、小学校教師としての資質・能力の基礎を養う。そのために、授業づくりの基本的な枠組みについての知識および実践的能力、授業づくりの基本的な技術、姿勢を身につける。   | (1) 授業づくりの基本的な枠組みについての知識および実践的能力、授業づくりの基本的な技術、姿勢を理解している。<br>(2) 授業の三要素（教師、子ども、教材）について分析的にとらえ、小学校全科の教材研究、教材づくりに活用できる。  |   |     | ◎        |     |          |     |           |     | ○ |  |
| 20UEDM4243 | 教職総合実践          | 4  | この期までの開講科目である各教科の内容と教育法についての学び、クラス経営や生徒指導などの授業科目を通じた学び、そして3年次後期の教育実習や自らのボランティア活動における実体験を通じた学び等を総合的に振り返り、後期開講の教職実践演習へと学びを繋げる。 | (1) 教師に求められる使命感・責任感・教育的愛情を身につけている。<br>(2) 教師に求められる社会的対人関係能力を身につけている。<br>(3) 児童・生徒等への理解力と学級経営力を身につけている。<br>(4) 教科内容の指導力の各観点に関して、自身の意見を確固たるものにしていく。                                   |   | ○   | ◎        |     |          |     |           |     | ○ |  |
| 20UEDM2263 | 知的障害者の心理・生理・病理  | 2  | 知的障害児・者の心理・生理・病理の特徴を学び、特別支援教育のための基礎的知識を習得する。   | (1) 知的障害児・者の教育や支援に必要な最低限の知識を習得する。<br>(2) 特別支援教育に携わるために必要な発展的科目習得の準備をする。<br>(3) 特別支援教育だけでなく、保育・初等教育に携わる者として必要な最低限の知識を習得する。   |   |     | ◎        |     |          |     |           |     |   |  |
| 20UEDM3261 | 肢体不自由者の心理・生理・病理 | 3  | 将来「特別支援教育」に携わる教諭および保育士だけでなく、広く「肢体不自由児・者」の理解への糸口となる。  | (1) 体が動く仕組みを理解する。<br>(2) 肢体不自由児・者の心理・生理・病理特徴を理解する。  |   |     | ◎        |     |          |     |           |     |   |  |
| 20UEDM2265 | 病弱者の心理・生理・病理    | 2  | 病弱者教育の基盤として、病弱者の心理、生理、病理の知識を学ぶ。慢性疾患を患ったことから発生する、身体と生理的側面、心理的側面、社会的側面にわたる影響を学び、病弱者とその家族にあった適切な支援ができる教員としての資質を培う。              | (1) 病気の基礎知識（生理と病理など）、そして心理状態について学び、教育上の指導や教育的配慮を理解する。<br>(2) 病気、病弱の子どもの個別性を理解し、個別学習指導計画を立案できる基礎を学ぶ。<br>(3) 病気のある子どもに対する特別支援学校教諭の教育の役割を考える。<br>(4) 病弱者とその家族が暮らしやすい社会の実現について考えを深化させる。 |   |     | ◎        |     |          |     |           |     |   |  |
| 20UEDM4261 | L D 等教育総論       | 4  | 学習障害 (LD)、注意欠如・多動症 (ADHD) 等の自閉症スペクトラム、言語障害、情緒障害、重複障害について理解し、その指導について学ぶ。  | (1) 学習障害 (LD)、注意欠如多動症 (ADHD) 等の自閉症スペクトラム、言語障害、情緒障害、重複障害について理解する。<br>(2) 上記の障害がある子どもへの指導について学ぶ。  |   | ○   | ◎        |     |          |     |           |     |   |  |

# 令和2年度入学生用カリキュラムマップ

【教育学科】

【幼児教育・保育コース】

| 科目番号       | 科目名           | 学年 | 科目目的  | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |     |     |     |     |     |     |  |
|------------|---------------|----|---|---|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--|
|            |               |    |   |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |     |     |     |     |     |     |  |
|            |               |    |   |   | 1-1   | 1-2 | 2-1 | 2-2 | 3-1 | 3-2 | 4-1 | 4-2 |  |
| 20UEDK2181 | 外国語コミュニケーションⅠ | 2  | 「英語Ⅰ・Ⅱ」で身につけた4技能の総合的な力を基礎にして、社会で使えるオーラル・コミュニケーション能力をさらに発展させる。また、多様な題材や教材を用いて、教育現場で使える英語を学習し、幼児・児童英語教育のための実践的英語能力を身につける。 | (1) 日常的话题について英語で会話することができる。<br>(2) 教室英語の様々な表現を学習する。<br>(3) 英語の発音、リズムやイントネーションに慣れる。  |   |     | ◎   | ○   |     |     |     |     |  |
| 20UEDK2182 | 外国語コミュニケーションⅡ | 2  | 「英語Ⅰ・Ⅱ」で身につけた4技能の総合的な力を基礎にして、社会で使えるオーラル・コミュニケーション能力をさらに発展させる。また、多様な題材や教材を用いて、教育現場で使える英語を学習し、幼児・児童英語教育のための実践的英語能力を身につける。 | (1) 日常的话题について英語でプレゼンテーションやディスカッションができるようになる。<br>(2) 教室英語表現を場面に応じて使えるようになる。<br>(3) 幼児・児童向けの英語の歌を歌ったり、物語を朗読したりできるようになる。         |   |     | ◎   | ○   |     |     |     |     |  |
| 20UEDK3100 | 子どもと健康        | 3  | 領域「健康」の指導に関する、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身につける。  | (1) 幼児期の健康課題と健康の発達の意味を理解している。<br>(2) 幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解している。<br>(3) 安全な生活と怪我や病気の予防を理解している。<br>(4) 幼児期の運動発達の特徴と意義を理解している。 |   |     | ◎   | ○   |     |     |     |     |  |
| 20UEDK3102 | 子どもと環境        | 3  | 領域「環境」の指導に関する、幼児を取り巻く環境や、幼児と環境の関わりについての専門的事項における感性を養い、知識・技能を身につける。  | (1) 幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解している。<br>(2) 幼児の身近な環境との関わりにおける思考・科学的概念の発達を理解している。<br>(3) 幼児期の標識・文字等、情報・施設との関わりを発達を理解している。       |   |     | ◎   | ○   |     |     |     |     |  |
| 20UEDK3104 | 子どもと人間関係      | 3  | 領域「人間関係」の指導の基盤となる、幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身につける。   | (1) 幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。<br>(2) 幼児期の人間関係の発達について、幼稚園生活における関係発達論的視点から理解する。  |   |     | ◎   | ○   |     |     | ○   |     |  |
| 20UEDK3106 | 子どもと言葉        | 3  | 領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身につける。  | (1) 人間にとっての言葉の意義や機能を理解している。<br>(2) 言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解している。<br>(3) 幼児にとっての児童文化財の意義を理解している。                                 |   |     | ◎   | ○   |     |     | ○   |     |  |
| 20UEDK2101 | 子どもと音楽表現      | 2  | ピアノ演奏の体験的・探究的活動を通して、幼児教育に携わる教師・保育者としての資質・能力の基礎を養う。  | (1) 自己の技能に応じたピアノ曲を演奏することができる。<br>(2) 童謡や唱歌の弾き歌いおよび伴奏をすることができる。<br>(3) 学習した内容を踏まえて、自分の意見を持つとともに、各自で工夫した活動を行うことができる。            |   |     | ○   | ◎   |     |     |     |     |  |
| 20UEDK2102 | 子どもと造形表現      | 2  | 領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達およびそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身につける。                          | (1) 幼児の表現の姿や、その発達を理解している。<br>(2) 造形表現などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。   |   |     | ○   | ◎   |     |     |     |     |  |

| 科目番号       | 科目名      | 学年  | 科目目的  | 到達目標   | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |  |          |  |           |  |  |
|------------|----------|-----|---|--|---|-----|----------|--|----------|--|-----------|--|--|
|            |          |     |   |  | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |  |          |  |           |  |  |
|            |          |     |   |  | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |  | 3. 思考・判断 |  | 4. 態度・志向性 |  |  |
| 1-1        | 1-2      | 2-1 | 2-2   | 3-1  | 3-2   | 4-1 | 4-2      |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDK3101 | 子どもと身体表現 | 3   | 領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達およびそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身につける。  | (1) 幼児の表現の姿や、その発達を理解している。<br>(2) 身体表現などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。  |   | ◎   | ○        |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDK3123 | 保育内容・健康  | 3   | 幼稚園教育要領に示された領域「健康」のねらいおよび内容について理解を深め、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。<br>学習内容は、(1) 生活習慣や災害時の安全に関する指導について、具体例やICTを活用しながら理解すること、(2) 幼児期の運動発達に沿った運動指導の留意点と教師の役割を具体的に考えること、(3) 遊びや生活の場面において動きを引き出す環境を構成することを学ぶこと、(4) 幼児の健康に関わる現代的課題や保育実践について、教師の援助や環境の構成について考えること、(5) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のうち、「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」などを取り上げ、具体的な事例を基に考えること、(6) 模擬保育では、ICTを活用し振り返ること、(7) 小学校の各教科等とのつながりを理解することである。領域「健康」は、「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う」ことを目指すものである。幼稚園教育や保育所保育等において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領や保育所保育指針等に示された領域「健康」のねらいおよび内容について、背景にある専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。 | (1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本や保育所保育指針に示された保育の基本等を踏まえ、領域「健康」のねらいおよび内容を理解している。<br>(2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。 |   | ◎   | ○        |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDK3125 | 保育内容・環境  | 3   | 領域「環境」は、「周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持って関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」ことを目指すものである。幼稚園教育や保育所保育等において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領や保育所保育指針等に示された領域「環境」のねらいおよび内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて領域「環境」の具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。   | (1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本や保育所保育指針に示された保育の基本等を踏まえ、領域「環境」のねらいおよび内容を理解している。<br>(2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。 |   | ◎   | ○        |  |          |  |           |  |  |

| 科目番号       | 科目名        | 学年  | 科目目的  | 到達目標   | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |  |          |  |           |  |  |
|------------|------------|-----|---|--|---|-----|----------|--|----------|--|-----------|--|--|
|            |            |     |   |  | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |  |          |  |           |  |  |
|            |            |     |   |  | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |  | 3. 思考・判断 |  | 4. 態度・志向性 |  |  |
| 1-1        | 1-2        | 2-1 | 2-2   | 3-1  | 3-2   | 4-1 | 4-2      |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDK3127 | 保育内容・人間関係  | 3   | 領域「人間関係」は、「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」ことを目指すものである。幼稚園教育や保育所保育等において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領や保育所保育指針等に示された領域「人間関係」のねらいおよび内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想し実践する方法を身につける。                       | (1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらいおよび内容を理解している。<br>(2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。                |   | ◎   | ○        |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDK2127 | 保育内容・言葉    | 2   | 領域「言葉」は、「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞くこととする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う」ことを目指すものである。幼稚園教育や保育所保育等において育みたい資質能力について理解し幼稚園教育要領や保育所保育指針等に示された領域「言葉」のねらいおよび内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。 | (1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本や保育所保育指針に示された保育の基本等を踏まえ、領域「言葉」のねらいおよび内容を理解している。<br>(2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。 |   | ◎   | ○        |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDK2129 | 保育内容・表現 I  | 2   | 領域「表現」は、「感じたことや考えたことを・自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことを目指すものである。幼稚園教育や保育所保育等において育みたい資質能力を理解し、幼稚園教育要領や保育所保育指針等に示された領域「表現」のねらいおよび内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。                  | (1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本や保育所保育指針に示された保育の基本等を踏まえ、領域「表現」のねらいおよび内容を理解している。<br>(2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。 |   | ◎   | ○        |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDK2122 | 保育内容・表現 II | 2   | 領域「表現」は、「感じたことや考えたことを・自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことを目指すものである。幼稚園教育や保育所保育等において育みたい資質能力を理解し、幼稚園教育要領や保育所保育指針等に示された領域「表現」のねらいおよび内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。                  | (1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育や保育所保育指針に示された保育の基本等の基本を踏まえ、領域「表現」のねらいおよび内容を理解している。<br>(2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。 |   | ◎   | ○        |  |          |  |           |  |  |



| 科目番号       | 科目名             | 学年  | 科目目的   | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |   |          |  |           |   |   |  |
|------------|-----------------|-----|--|---|---|-----|----------|---|----------|--|-----------|---|---|--|
|            |                 |     |  |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |   |          |  |           |   |   |  |
|            |                 |     |  |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |   | 3. 思考・判断 |  | 4. 態度・志向性 |   |   |  |
| 1-1        | 1-2             | 2-1 | 2-2  | 3-1   | 3-2   | 4-1 | 4-2      |   |          |  |           |   |   |  |
| 20UEDK2131 | 教育課程・保育計画論      | 2   | 教育目標に示されている人格の完成の実現に向けて、子どもの心身の成長・発達に応じた保育・教育を行うために、保育・教育課程についての意義や編成についての理論を理解する。   | (1) 教育課程や保育の計画の役割や機能を把握するとともに、それまでの変遷やその時代の社会的背景や要請について理解している。<br>(2) 教育課程や保育の計画を編成するときの観点や方法などについて理解している。<br>(3) 編成の背景となる子どもの心身の成長・発達や社会的状況等について理解している。<br>(4) 教育課程や保育の計画を省察し、評価および省察と改善（カリキュラム・マネジメント）についての意義や重要性を理解している。   |   | ◎   |          |   |          |  |           |   |   |  |
| 20UEDK2135 | 教育方法の理論と実践      | 2   | 1. 教育方法学の概要を学び、教授・学習に焦点をあて理論と実践の乖離を克服し、理論を教育実践に活用するための「方法・技術」に関する基礎的な知識を習得する。<br>2. 「教育方法学」の領域は、授業の技術的原理に関する問題だけではなく、教室における子どもの学習の経験の問題、カリキュラム構成と評価に関する問題、教室における教師と子どものコミュニケーションの問題、教師と教師教育に関する問題などを包摂して成立していることを学ぶ。 | (1) 教育方法学の歴史や日本の授業と授業研究の概観などに関する基礎的な知識を修得することを通して、より豊かな教育観、授業観を持つことができる。<br>(2) 授業づくりの諸理論に関する基礎的な知識を修得し、それらの理論を学習指導法と関連付けて説明することができる。   |   | ◎   | ○        |   |          |  |           |   |   |  |
| 20UEDK2133 | 子ども理解と幼児教育      | 2   | 保育者にとって不可欠な、幼児を理解する力を持つことの重要性を知り、意欲と熱意を持って保育者に必要な知識や技能を学ぶ姿勢を身につける。保育者としての幅広い教養とともに自分の得意分野を見つけ、幼児の「生きる力」の基礎を培える基礎的な力を身につける。   | (1) 幼児を理解することが教育・保育に大きな関わりを持つことを理解する。<br>(2) 保育者にとって必要な幅広い教養の知識を得る。<br>(3) 自分の得意分野や強みを自覚し、それを高めていくことができる。   |   | ◎   |          |   |          |  |           |   |   |  |
| 20UEDK3130 | 教育相談の理論と実践      | 3   | 子どもの発達に関する心理学知識をもとに、幼児児童生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）および技術を身につける。   | (1) 学校園における教育相談の意義とそれに関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解している。<br>(2) 教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解している。<br>(3) 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解している。<br>(4) いじめ、不登校・不登園、虐待、非行等の課題に対する、幼児、児童および生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解している。<br>(5) 教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備など、組織的な取組みの必要性および地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解している。 |   |     | ◎        | ○ |          |  |           |   |   |  |
| 20UEDK2192 | 学校教育参加実習        | 2   | 幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校教育に関わる理論的知識と実践的な知識を関連させながら理解することにより、教職についての理解を深め、教育活動を客観的にとらえる能力を身につける。  | (1) 専門教育科目の講義や演習で学んだ知識を踏まえて、教育現場の状況を解釈できる。<br>(2) 教育現場の観察と体験的活動を踏まえて、自身の課題を設定することができる。  |   |     |          |   |          |  |           | ◎ |   |  |
| 20UEDK3131 | 教育実習事前事後指導Ⅰ（幼小） | 3   | 教育実習の意義を自覚し教育実習に臨めるようにするための基礎的・予備知識や技能の習得を目指すと共に、事前学習と実習園での実体験を結合させる。また、実習後の振り返りを行いつつ、教職への認識を確かなものとする。   | (1) 教育実習に備えて、実習についての知識、技能、心構えを習得する。<br>(2) 保育指導案の作成、教育実習記録の記入方法を学び、ポイントを定め、まとめられるようになる。<br>(3) 実習体験報告交換会等の中で、進んで自己課題を発表し、他者と学びを深め合えるようになる。  |   |     | ◎        | ○ |          |  |           |   | ○ |  |

| 科目番号       | 科目名           | 学年 | 科目目的  | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |     |          |     |           |     |   |   |
|------------|---------------|----|---|---|---|-----|----------|-----|----------|-----|-----------|-----|---|---|
|            |               |    |   |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |     |          |     |           |     |   |   |
|            |               |    |   |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |     | 3. 思考・判断 |     | 4. 態度・志向性 |     |   |   |
|            |               |    |   |   | 1-1   | 1-2 | 2-1      | 2-2 | 3-1      | 3-2 | 4-1       | 4-2 |   |   |
| 20UEDK3192 | 教育実習 I (幼小)   | 3  | 幼稚園での教育実践を体験することで、大学の授業で学習した理論・方法を活用しながら、幼稚園教師を目指すものとして必要な保育観・知識・技能・態度などを学び、指導力をつける。  | (1) 教育実習体験の中で指導法の実際を学び、保育実践を通して自己課題を持つ。<br>(2) 幼児理解の方法を保育実践を通して学び、日々の保育に展開できる力を身につける。<br>(3) すべての園内業務を理解し、保育環境の重要なことを知り、実務実習を進んで行う。   |   |     | ◎        | ○   |          |     |           | ○   |   |   |
| 20UEDK4132 | 保育・教職実践演習 (幼) | 4  | 保育・幼児教育の担い手としての生活をより円滑にスタートできるように、保育者になる上で必要な資質能力についての自己の課題を自覚し、不足している知識や技能等を必要に応じて補い、その定着を図る。  | (1) 保育者として、使命感・責任感・教育保育的愛情等を有している。<br>(2) 社会性や対人関係能力を有している。<br>(3) 子どもを理解し、学級経営等を行うことができる。<br>(4) 保育内容等を豊かに開発し、これを保育実践に計画的に生かす指導することができる。   |   |     |          |     |          | ○   | ○         | ○   | ◎ |   |
| 20UEDK2240 | 教育社会学         | 2  | 教育社会学の観点から、「近代教育」や「学校」の歴史的な位置づけを確認した上で、今日における問題や課題を捉え、教員の役割や職務内容の理解を深め、小学校・幼稚園教員として必要な資質・能力を修得する。   | (1) 我が国および諸外国における近年の教育事情および教育政策の動向を理解している。<br>(2) 子どもの生活の変化を踏まえた指導上の課題を理解し、教育現象を歴史的側面や社会的側面を結び付けて捉えられる。<br>(3) 現在の学校および教育に関する社会的期待や批判等について客観的に考えられる。教師や学校に対する社会的期待を理解し、それに答える方法について考えられる。 |   |     | ◎        |     |          | ○   |           |     |   |   |
| 20UEDK2241 | 教育史           | 2  | 教育の歴史は、社会・文化の歴史と同様に人類の起源にまでさかのぼることができる。その中で近代以降の教育は、子どもの教育として自立し、学校という場を中心に固有の任務を担うようになり、教育思想に導かれるようになった。本授業科目では、現代の教育について省察し、未来の教育を展望することを視野に入れながら、教育思想史的見方を中心に教育の歴史について考える。 | (1) 教育についての考え方の歴史的変遷を、時代背景や社会構造の変化と照らし合わせながら説明できる。<br>(2) 近代学校の特徴と歴史について、適切な概念の用語を用いて解説することができる。<br>(3) 教育・教育学の理論的基盤がどのような思想によって形成されたかを理解し、教育史上で重要な教育思想家の思想的特徴を説明することができる。                |   |     |          |     |          |     | ◎         |     |   |   |
| 20UEDK2242 | 教育哲学          | 2  | 「教育哲学」を組み入れる歴史的社会的文脈を学ぶ。さらに「子どもの発達」や「子どもへの教育」を、大人や老人を含めた「ライフサイクル」の全体、そしてライフサイクルの各段階での異なった世代どうしの「相互生成」から見直すことによって、「教育」を根本から考え直す。   | (1) 「教育哲学」を組み入れる歴史的社会的文脈を理解する。<br>(2) さらに「子どもの発達」や「子どもへの教育」を、大人や老人を含めた「ライフサイクル」の全体、そしてライフサイクルの各段階での異なった世代どうしの「相互生成」から見直すことによって、「教育」を根本から考え直す。   |   |     |          |     |          |     | ◎         |     |   |   |
| 20UEDK2244 | 人権教育と福祉       | 2  | 現代社会の諸課題についての探究的活動を通して、初等教育に携わる教師としての資質・能力の基礎を養う。   | (1) 現代社会の諸課題に基づいた授業計画と立案することができる。<br>(2) 学習した内容を踏まえて、自分の意見を持つとともに、各自で工夫した活動を行うことができる。<br>(3) 小学校社会科における授業内容を通して、エネルギーや環境問題、貧困問題といった社会問題への関心を高めることができる。                                    |   |     |          |     |          |     | ◎         |     |   |   |
| 20UEDK2243 | 社会調査法 I       | 2  | 教育に関する様々な情報を活用してそこから有用な情報を読み解くために、記述統計と初歩的な推測統計の技法を身につける。   | (1) 教育に関する様々なデータを読み解くことができる。<br>(2) 教育に関するデータを収集し、わかりやすく表現することができる。<br>(3) 初歩的な推測統計を用いて、教育に関するデータを分析できる。  |   |     |          |     |          |     |           | ◎   |   | ○ |
| 20UEDK2248 | 学校教材としての文学    | 2  | 文学教材の鑑賞と探究的活動を通して、初等教育に携わる教師としての資質・能力の基礎を養う。  | (1) 文学教材の教材研究を行い、学習活動案を立案することができる。<br>(2) 学習した内容を踏まえて、自分の意見を持つとともに、各自で工夫した活動を行うことができる。  |   |     |          |     |          |     | ◎         |     |   |   |

| 科目番号       | 科目名       | 学年  | 科目目的  | 到達目標   | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |   |          |   |           |  |   |
|------------|-----------|-----|---|--|---|-----|----------|---|----------|---|-----------|--|---|
|            |           |     |   |  | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |   |          |   |           |  |   |
|            |           |     |   |  | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |   | 3. 思考・判断 |   | 4. 態度・志向性 |  |   |
| 1-1        | 1-2       | 2-1 | 2-2   | 3-1  | 3-2   | 4-1 | 4-2      |   |          |   |           |  |   |
| 20UEDK4264 | 児童文学論     | 4   | 近代日本の児童文学史においては、巖谷小波『こがね丸』（叢書少年文学、明治24年）をもって嚆矢とするのが通例である。その出版・刊行に伴って、我が国の児童文学もスタートしたといえよう。本授業においては、日本の近代児童文学の成立以後、現代にいたるまでどのような作品が生み出されてきたのか、その歩みを概観するとともに、個々の作品の精読・分析を通してその時代の児童文学観および子ども観を探り、社会が子どもに注いだまなざしについて考える。加えて、日本の児童文学の史的展開についても詳述し、児童文学の本質に迫ることを目標とする。 | (1) 児童文学というジャンルの歴史的発生と変遷について理解できる。<br>(2) 児童文学の代表的な作家および作品にふれ、その読み方や楽しみ方を習得できる。        |   | ◎   |          |   |          | ○ |           |  |   |
| 20UEDK4266 | 日本現代文学の探究 | 4   | 中学校国語科に携わる者として必要な現代文学についての知識をより深く習得することを目的とする。具体的には、昭和、平成の時代の主な文学作品を取り上げ、個々の様々なジャンルの代表作品について読解を進め、それぞれの作品を鑑賞・読解し、学習者個人の生き方を見つめ直す。   | (1) 日本の現代文学作品に興味を持ち、作品を読み進めることができる。<br>(2) 文学作品の分析および解釈のしかたについて理解できる。                  |   |     |          | ○ |          |   |           |  | ◎ |
| 20UEDK3262 | 言語学概論     | 3   | 国語科を指導する際に必要な言語学の知識を日本語の側面から解説する。具体的には、音声を扱う音韻論、単語の構造について学ぶ形態論、意味を考える意味論、文と場面の関係を見る語用論、国語史に絡む歴史言語学や通時言語学、方言から学ぶ言語地理学、「じゃんけん」の掛け声の地域差などを考える社会言語学という各方面からのアプローチにより、日本語とはどういう言語なのかを知り、国語を尊重する精神を養う講義を行う。   | (1) 言語のいろいろな事象について興味を持ち、体系的にとらえることの意義を理解できる。<br>(2) 日本語についての知識を通して国語を尊重する気持ちを持つことができる。 |   | ○   |          |   |          | ◎ |           |  |   |

| 科目番号       | 科目名             | 学年  | 科目目的   | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |   |          |  |           |  |  |
|------------|-----------------|-----|--|---|---|-----|----------|---|----------|--|-----------|--|--|
|            |                 |     |  |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |   |          |  |           |  |  |
|            |                 |     |  |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |   | 3. 思考・判断 |  | 4. 態度・志向性 |  |  |
| 1-1        | 1-2             | 2-1 | 2-2  | 3-1   | 3-2   | 4-1 | 4-2      |   |          |  |           |  |  |
| 20UEDK2280 | 英語文法論 I         | 2   | 学校文法を批判的に観察・考察することによって、英語の文法に関してより深い理解と洞察を得ることを目的とする。具体的活動としては、学生および教員から出たトピックについて、その時間の授業担当者が事前に調べたり考えたりしたことを発表し、その内容について全員で議論していくという形態をとる。単に規則を暗記するのではなく、その規則が現代における実際の言語使用と合致しているのか、また、歴史上その規則はどのような変遷を経てきたのか等を調べたり考えたりすることを通して、「文法」とは「覚える」ものではなく「自分で考え、理解し、記述・分析する」ものであるという認識へと転換していきたい。このことにより、将来、中高の英語教員として授業を行う際にも「文法」に関して、より深く、柔軟で、実際の言語使用に即した取り扱いができるようになることが期待される。 | (1) 英語文法の基礎的知識を身につけ、規則について、明確に説明できるようになる。<br>(2) 英語文法の歴史についての知識を身につけ、その内容について、明確に説明できるようになる。<br>(3) 様々なテキストの中の文法の扱われ方を理解することができる。                             |   | ◎   | ○        |   |          |  |           |  |  |
| 20UEDK2250 | 異文化理解とコミュニケーション | 2   | 小学校・幼稚園の教員として、地域や職場のグローバル化に対応し、様々な文化背景や価値観を持つ人々と良好なコミュニケーションを行うことのできる能力の養成を目的とする。  | (1) 文化の違いによる言語・非言語コミュニケーションスタイルの多様性を理解している。<br>(2) 文化背景や価値観の異なる人々の考えに敬意を持って耳を傾けるとともに、自分の考えもきちんと主張できる技術を身につけている。   | ○   |     |          | ○ | ◎        |  |           |  |  |
| 20UEDK2182 | 外国語科内容論         | 2   | 小学校における外国語活動・外国語科の授業実践に必要な実践的な英語運用力と、英語に関する背景的な知識を身につける。   | (1) 日本における小学校外国語教育の意義や現状を理解している。<br>(2) 小学校における外国語活動・外国語の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力が身につけている。<br>(3) 小・中学校の接続も踏まえながら、小学校における外国語活動・外国語の授業を担当するために必要な背景的な知識を身につけている。 |   | ◎   | ○        |   |          |  |           |  |  |
| 20UEDK2284 | 英語文学入門          | 2   | 英語で書かれた文学を学ぶ中で、英語による表現力への理解を深めるとともに、英語が使われている国・地域の文化について学ぶ。中学校における外国語科の授業に生かすため、英米を中心とした英語圏の文学の諸相を概観し、文学とその背景にある文化・社会との関係性を理解する。   | (1) 文学作品において使用されている様々な英語表現について理解している。<br>(2) 文学作品で描かれている、英語が使われている国・地域の文化について理解している。<br>(3) 英語で書かれた代表的な文学について理解している。  | ○   | ◎   |          |   |          |  |           |  |  |



| 科目番号       | 科目名           | 学年  | 科目目的  | 到達目標   | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |   |          |  |           |  |
|------------|---------------|-----|---|--|---|-----|----------|---|----------|--|-----------|--|
|            |               |     |   |  | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |   |          |  |           |  |
|            |               |     |   |  | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |   | 3. 思考・判断 |  | 4. 態度・志向性 |  |
| 1-1        | 1-2           | 2-1 | 2-2   | 3-1  | 3-2   | 4-1 | 4-2      |   |          |  |           |  |
| 20UEDK2286 | 英語児童文学        | 2   | この科目では、英語で書かれた絵本や童謡、詩、また童話などの児童文学を、小学校および中学校における外国語科の授業で活用するために必要な知識と実践的な活用方法を学ぶ。子どものために書かれた易しく美しい英語の言葉遣いを繰り返し聞いたり読んだりして、英語の音やリズムを体得し、物語や詩の中で使われている様々な英語表現を学習する。また、子ども向けの文学がどのような時代背景の中から生まれてきたかを理解するために、英語圏の文学、特に英米の文学の中でどのような位置にあり、どのような歴史を辿ってきたのかを概観し、代表的な英語児童文学の作品に触れる。英語児童文学の作品を通して、英語表現や発話などの具体的な英語指導ができるようになることや、作品で描かれている国や地域の文化について理解できるようになることが目標である。 | (1) 児童文学に含まれる英語の言葉遣いを繰り返し聞いたり読んだりして、英語の音やリズムを体得することができる。<br>(2) 物語の中で使用されている様々な英語表現を理解し、発話できるようになる。<br>(3) 児童英語文学の歴史を理解し、作家や作品の特徴を明確に説明することができる。 | ○   | ◎   |          |   |          |  |           |  |
| 20UEDK2288 | 時事問題と英語表現     | 2   | 情報通信技術の発達によって、ますます世界が複雑に関係する現代において、多様な英語ニュースを通じて、世界に目を向け視野を広げる。同時にニュースで使われる英語を利用して、総合的な英語運用能力を高める。具体的な到達目標は、(1) 英語ニュースを通じて、世界の多様な事象・出来事等に関心を持つこと、(2) ニュースで使われる英語を利用して、総合的な英語運用能力を高めること、(3) 英語ニュースで得た情報について、自分の考え・感想、解決法を表現できることである。授業では、比較的易しい英語が使われているニュース英語を通じて、聴く・読む・話す・書くの4技能、語彙、文法の力を高める。  | (1) 英語ニュースを通じて、世界の多様な事象・出来事等に関心を持つ。<br>(2) ニュースで使われる英語を利用して、総合的な英語運用能力を高める。<br>(3) 英語ニュースで得た情報について、自分の考え・感想、解決法を表現できる。                           | ○   |     |          |   | ◎        |  |           |  |
| 20UEDK2261 | 国際教育フィールドワークⅠ | 2   | 国際教育の意義を理解するため、フィールドワーク、とりわけ「観察と記録」の具体的な方法論を身につけることを目的とする。幼稚園、小学校、中学校など、実際に国際教育が行われている「現場」を観察・記録し、国際教育の目的、方法、効果などについて考察を深める。そのために、フィールドワークにおける観察・記録という方法論の意義や具体的な方法を学び、国際教育を理解して実践するための「視点」を身につける。  | (1) 国際教育の意義を理解する。<br>(2) フィールドワークの中でも「観察と記録」の方法論を身につける。<br>(3) フィールドワークで観察した国際教育実践を考察し、発表することができる。   | ◎   |     |          | ○ | ○        |  |           |  |

| 科目番号       | 科目名           | 学年  | 科目目的   | 到達目標   | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |   |          |   |           |   |   |
|------------|---------------|-----|--|--|---|-----|----------|---|----------|---|-----------|---|---|
|            |               |     |  |  | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |   |          |   |           |   |   |
|            |               |     |  |  | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |   | 3. 思考・判断 |   | 4. 態度・志向性 |   |   |
| 1-1        | 1-2           | 2-1 | 2-2  | 3-1  | 3-2   | 4-1 | 4-2      |   |          |   |           |   |   |
| 20UEDK2262 | 国際教育フィールドワークⅡ | 2   | 「教育」という営みにおいては、国家、民族、文化、社会のあり方ごとに異なる事情が存在する。日本の教育と海外の教育とを比較することにより、教育改善の方策を考察し、さらには教育の本質を探ることが目的である。幼稚園、小学校、中学校など様々な場所において海外と日本の子どもの交流活動を調査し支援することを通じて、国際教育の実践活動を学ぶ。 | (1) 実際の国際交流に携わることで、子どもたちの異文化理解や友好意識を高める方法を学ぶ。<br>(2) 交流に必要な様々な資源の活用法について学ぶ。<br>(3) それぞれの地域での国際交流に携わっている機関との連携を学ぶ。                            |   |     | ◎        |   | ○        |   |           | ○ |   |
| 20UEDK2279 | 海外教育参加実習指導    | 2   | アメリカの教育現場を観察するために必要な視点を学び、コミュニケーション能力を身につける。   | (1) 留学に対する確たる目的意識を持つ。<br>(2) アメリカの教育現場を観察するための視点を持つ。   |   |     |          |   | ○        | ◎ |           |   |   |
| 20UEDK2292 | 海外教育参加実習      | 2   | アメリカの教育現場を観察することによって、アメリカの教育制度、学校教育、教育文化を学ぶ。   | (1) アメリカの教育の特徴を説明できる。<br>(2) 日米の教育を比較し、日本の教育について意見を持つ。<br>(3) アメリカの幼児・児童と英語でコミュニケーションがとれる。   |   |     |          |   | ○        | ◎ |           |   |   |
| 20UEDK4243 | 教職総合実践(幼)     | 4   | この期までの開講科目である各領域の内容と指導法についての学び、クラス経営や特別支援などの授業科目を通じた学び、そして3年次後期の教育実習や自らのボランティア活動における実体験を通じた学び等を総合的に振り返り、後期開講の保育・教職実践演習へと学びを繋げる。                                      | (1) 教師に求められる使命感・責任感・教育的愛情を身につけている。<br>(2) 教師に求められる社会的対人関係能力を身につけている。<br>(3) 幼児への理解力と学級経営力を身につけている。<br>(4) 各領域の指導力の各観点に関して、自身の意見を確固たるものにしていく。 |   |     | ○        |   |          |   | ◎         |   | ○ |
| 20UEDK3241 | 学級担任論(幼)      | 3   | 望ましい保育実践を行うと共に、担任としての役割を理解して、論理的な思考と、理性的な判断ができる保育者を目指すことを目的とする。  | 具体的実践例をもとに、保育者としてクラス経営の方法や、保護者対応も含めあらゆる事象への対応力・責任ある態度等を問い直していく力を身につける。   |   |     | ◎        |   |          |   |           | ○ |   |
| 20UEDK3242 | 幼児教育実践演習      | 3   | 教育実習の経験を踏まえて、5領域の保育内容の実践力を総合的に高める。   | (1) 教育実習の経験を振り返り、保育内容と指導法についての自らの課題を見つける。<br>(2) その課題を理論的に整理し、より良い実践を考え出すことができる。   |   |     |          |   |          |   |           | ◎ |   |
| 20UEDK4243 | 運動遊び演習        | 4   | 運動遊びの体験的・探究的活動を通して、初等教育に携わる教師・保育者としての資質・能力の基礎を養う。  | (1) 乳幼児期から児童期の運動発達を踏まえた運動遊びの指導計画を立案することができる。<br>(2) 学習した内容を踏まえて、自分の意見を持つとともに、各自で工夫した活動を行うことができる。   |   |     | ◎        |   |          |   |           |   | ○ |
| 20UEDK2254 | アンサンブルと弾き歌い   | 2   | ピアノ演奏の体験的・探究的活動を通して、初等教育に携わる教師・保育者としての資質・能力の向上を図る。   | (1) より高度なピアノ曲を演奏することができる。<br>(2) 童謡や唱歌の弾き歌いおよび伴奏のレパートリーを増やす。<br>(3) 学習した内容を踏まえて、自分の意見を持つとともに、各自で工夫した演奏を伴う活動を行うことができる。                        |   |     | ◎        | ○ |          |   |           | ○ |   |
| 20UEDK2282 | 教室で使う英語表現     | 2   | アメリカの小学校および幼稚園での「海外教育参加実習」に必要な英語表現を学ぶ。   | (1) アメリカの幼児・児童と英語でコミュニケーションがとれる。<br>(2) 英語で教室内での説明、指示ができる。   |   |     | ◎        | ○ |          |   |           |   |   |
| 20UEDK2258 | 調理と裁縫の生活スキル   | 2   | 調理と裁縫などの生活スキルの体験的・探究的活動を通して、幼児・児童の「生きる力」育成に携わる教師としての資質・能力の基礎を養う。   | (1) 手縫い・ミシン縫いによって作品を製作することができる。<br>(2) 調理実習の指導計画を立案することができる。<br>(3) 学習した内容を踏まえて、自分の意見を持つとともに、各自で工夫した活動を行うことができる。                             |   | ○   | ◎        |   |          |   |           | ○ |   |



| 科目番号       | 科目名       | 学年  | 科目目的  | 到達目標   | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |  |          |  |           |  |  |
|------------|-----------|-----|---|--|---|-----|----------|--|----------|--|-----------|--|--|
|            |           |     |   |  | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |  |          |  |           |  |  |
|            |           |     |   |  | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |  | 3. 思考・判断 |  | 4. 態度・志向性 |  |  |
| 1-1        | 1-2       | 2-1 | 2-2   | 3-1  | 3-2   | 4-1 | 4-2      |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDK3269 | 子どもの食と栄養  | 3   | 健康における食生活の意義や栄養に関する基本的知識を理解し、子どもの年齢や発育・発達過程を踏まえた食生活のあり方、食生活に特別な配慮を有する子どもへの対応について学ぶ。また、保育における食育の意義や目的について理解し、食育実践を行うために必要な、保育者としての基本的知識を身につけることを目的とする。     | (1) 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。<br>(2) 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。<br>(3) 養護および教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。<br>(4) 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。<br>(5) 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。  | ○   | ◎   | ○        |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDK3273 | 乳児保育 I    | 3   | 3歳未満児を対象とする乳児保育について、その歴史的変遷、意義や役割等について学ぶ。また、乳児保育のねらいや内容について学び、子どもの発育発達や各種の連携を踏まえた乳児保育のあり方について理解を深めることを目的とする。  | (1) 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷および役割等について理解する。<br>(2) 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。<br>(3) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。<br>(4) 乳児保育における職員間の連携・協働および保護者や地域の関係機関との連携について理解する。   |   | ○   | ◎        |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDK3276 | 乳児保育 II   | 3   | 3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法および環境について、また乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。これらを踏まえ、乳児保育における計画の作成について、長期的な指導計画と短期的な指導計画、個別的な指導計画と集団的な指導計画を実際に作成し、乳児保育を担う保育者としての実践力を身につける。 | (1) 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの方的な考え方について理解する。<br>(2) 養護および教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法および環境について、具体的に理解する。<br>(3) 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。<br>(4) (1)～(3)を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。   |   | ○   | ◎        |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDK3270 | 子どもの健康と安全 | 3   | 保育における保健的観点（アレルギーや感染症、事故等に関する各種ガイドラインやデータ等）を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止および安全対策・危機管理・災害対策について理解する。また子どもの保健および安全にかかわる組織的取組や保健活動についても理解を深めることを目的とする。                 | (1) 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。<br>(2) 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止および安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。<br>(3) 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。<br>(4) 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。<br>(5) 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドラインや近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。<br>(6) 子どもの健康および安全の管理に関わる組織的取組や保健活動の計画および評価等について、具体的に理解する。 |   | ○   | ◎        |  |          |  |           |  |  |
| 20UEDK4261 | 障害児保育     | 4   | 障害児保育の理念や概要、障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の現状と課題について理解し、保育士に求められる障害児保育に必要な基本的姿勢や基本的知識、保育方法・技術、そして保護者支援などについて学ぶことを目的とする。   | (1) 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児およびその保育について理解する。<br>(2) 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。<br>(3) 障害児やその他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。<br>(4) 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協議について理解する。<br>(5) 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。  |   | ◎   | ○        |  |          |  |           |  |  |



| 科目番号       | 科目名    | 学年  | 科目目的   | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |   |          |  |           |  |  |
|------------|--------|-----|--|---|---|-----|----------|---|----------|--|-----------|--|--|
|            |        |     |  |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |   |          |  |           |  |  |
|            |        |     |  |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |   | 3. 思考・判断 |  | 4. 態度・志向性 |  |  |
| 1-1        | 1-2    | 2-1 | 2-2  | 3-1   | 3-2   | 4-1 | 4-2      |   |          |  |           |  |  |
| 20UEDK3267 | 社会的養護Ⅱ | 3   | 社会的養護における子どもの権利擁護と保育士等の倫理責務について、施設や里親養護など様々な事例を通して具体的に学ぶとともに、支援計画を作成し、事例分析を通して理解を深めることを目的とする。                            | (1) 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。<br>(2) 施設養護および家庭養護の実際について理解する。<br>(3) 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。<br>(4) 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。<br>(5) 社会的養護における子どもの虐待の防止と家庭支援について理解する。  |   | ◎   | ○        |   |          |  |           |  |  |
| 20UEDK4269 | 子育て支援  | 4   | 保護者との信頼関係を形成し、保護者や家庭の抱える支援のニーズに気づき理解し、実際に支援ができる保育士を目指して、相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の多様な支援のあり方を具体的に理解することを目的とする。                  | (1) 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。<br>(2) 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法および技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。   |   | ○   | ◎        | ○ |          |  |           |  |  |
| 20UEDK3243 | 教育課程論  | 3   | 教育課程の編成・実施・評価について、主として小学校段階に即してひととおりの知識と理解を得ることにより、教職を担うために必要とされる基礎的な素養を養う。  | (1) 現代日本の学校における教育課程について、それを支える考え方や法制、実際の編成・実施・評価の方法を、歴史と国際比較の二つの視点から説明できるようにする。<br>(2) カリキュラムおよび教育課程という概念の成立と発展について学ぶ。<br>(3) 我が国の教育課程をめぐる制度について歴史的に概観する。<br>(4) 現在の教育課程の基準（小学校学習指導要領など）とそれに基づく教育課程の編成・実施・評価の実際について事例をとおして学ぶ。<br>(5) 諸外国の教育課程と比較することにより我が国の教育課程の特質を知る。                |   | ◎   |          |   |          |  |           |  |  |
| 20UEDK4263 | 国語科教育法 | 4   | 小学校国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、基礎的な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。 | (1) 学習指導要領における小学校国語科の目標、内容および教育方法と評価について理解している。<br>(2) 背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できる。<br>(3) 児童の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。<br>(4) 小学校国語科の特性に応じた情報機器および教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できる。<br>(5) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。<br>(6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して授業改善の視点を身につけている。  |   |     | ◎        |   |          |  |           |  |  |
| 20UEDK4262 | 算数科教育法 | 4   | 小学校算数科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、基礎的な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。 | (1) 学習指導要領における小学校算数科の目標・内容および教育方法と評価について理解している。<br>(2) 背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できる。<br>(3) 児童の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。<br>(4) 小学校算数科の特性に応じた情報機器および教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できる。<br>(5) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。<br>(6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。 |   |     | ◎        |   |          |  |           |  |  |

| 科目番号       | 科目名      | 学年  | 科目目的   | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |  |          |   |           |   |  |
|------------|----------|-----|--|---|---|-----|----------|--|----------|---|-----------|---|--|
|            |          |     |  |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |  |          |   |           |   |  |
|            |          |     |  |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |  | 3. 思考・判断 |   | 4. 態度・志向性 |   |  |
| 1-1        | 1-2      | 2-1 | 2-2  | 3-1   | 3-2   | 4-1 | 4-2      |  |          |   |           |   |  |
| 20UEDK4265 | 生活科教育法   | 4   | 小学校生活科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、基礎的な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。   | (1) 学習指導要領における小学校生活科の目標・内容および教育方法と評価について理解している。<br>(2) 背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できる。<br>(3) 児童の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。<br>(4) 小学校生活科の特性に応じた情報機器および教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できる。<br>(5) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。<br>(6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。     |   |     | ◎        |  |          |   |           |   |  |
| 20UEDK3265 | 音楽科教育法   | 3   | 小学校音楽科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、基礎的な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。   | (1) 学習指導要領における小学校音楽科の目標・内容および教育方法と評価について理解している。<br>(2) 背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できる。<br>(3) 児童の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。<br>(4) 小学校音楽科の特性に応じた情報機器および教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できる。<br>(5) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。<br>(6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。     |   |     | ◎        |  |          | ○ | ○         |   |  |
| 20UEDK3264 | 図画工作科教育法 | 3   | 小学校図画工作科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、基礎的な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。 | (1) 学習指導要領における小学校図画工作科の目標・内容および教育方法と評価について理解している。<br>(2) 背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できる。<br>(3) 児童の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。<br>(4) 小学校図画工作科の特性に応じた情報機器および教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できる。<br>(5) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。<br>(6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。 |   |     | ◎        |  |          | ○ |           | ○ |  |
| 20UEDK3266 | 体育科教育法   | 3   | 小学校体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、基礎的な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。   | (1) 学習指導要領における小学校体育科の目標・内容および教育方法と評価について理解している。<br>(2) 背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できる。<br>(3) 児童の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。<br>(4) 小学校体育科の特性に応じた情報機器および教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できる。<br>(5) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。<br>(6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。     |   |     | ◎        |  |          |   |           |   |  |

| 科目番号       | 科目名             | 学年 | 科目目的   | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |     |          |     |           |     |   |  |
|------------|-----------------|----|--|---|---|-----|----------|-----|----------|-----|-----------|-----|---|--|
|            |                 |    |  |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |     |          |     |           |     |   |  |
|            |                 |    |  |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |     | 3. 思考・判断 |     | 4. 態度・志向性 |     |   |  |
|            |                 |    |  |   | 1-1   | 1-2 | 2-1      | 2-2 | 3-1      | 3-2 | 4-1       | 4-2 |   |  |
| 20UEDK2269 | 道徳教育の理論と実践      | 2  | 道徳教育と「特別の教科道徳」の重要性と特質を理解し、社会的課題や子どもたちの課題に向き合いながら、主体的・創造的に取り組むことができる力量を身につける。   | (1) 我が国における道徳教育の改革動向について、基礎的知識を有している。<br>(2) 「特別の教科道徳」の基本理念を理解し、小学校における道徳の授業方法について、他の活動領域と関連づけながら具体的に計画し、実践できる力を身につける。  |   | ○   | ◎        |     |          |     |           |     |   |  |
| 20UEDK4267 | 生徒指導・進路指導の理論と実践 | 4  | 1. 児童生徒の「生きる」力の育成を視点として、教師として必要とするこれからの学校における生徒指導・進路指導実践の理論と具体的な実践のあり方を学ぶ。<br>2. 他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技術や素養を身につけるとともに、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身につける。 | (1) 生徒指導の意義や原理を理解している。<br>(2) すべての児童生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解している。<br>(3) 児童生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解している。<br>(4) 進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解している。<br>(5) すべての児童生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方や指導のあり方を理解している。<br>(6) 児童生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方やあり方を理解している。 |   |     | ◎        | ○   |          |     |           |     |   |  |
| 20UEDK2264 | 特別活動の指導法        | 2  | 学習指導要領に示された「特別活動」について、内容や、その趣旨、指導法について理解する。  | (1) 学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事といった特別活動の各分野の意味づけを理解する。<br>(2) 実際の指導にどう生かしていくか、具体的に探求することができる。   |   | ○   | ◎        |     |          |     |           |     |   |  |
| 20UEDK4273 | 総合的な学習の時間の指導法   | 4  | 総合的な学習の時間における横断的・総合的な学習や児童の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動の展開に必要な基礎的知識を学習し、総合的な学習の展開に必要な資質を身につける。  | (1) 総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標および内容を定める際の考え方を理解している。<br>(2) 総合的な学習の時間の指導計画を立案することができる。<br>(3) 各教科等との関連性を図りながら総合的な学習の時間の年間指導計画を作成することの重要性を理解している。<br>(4) PBLの進め方を理解し、主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元構成ができる。<br>(5) 総合的な学習の時間の指導と評価の考え方や実践上の留意点を理解している。  |   | ○   | ◎        |     |          |     |           |     |   |  |
| 20UEDK4275 | 教育実習事前事後指導Ⅱ（小）  | 4  | 小学校教育に関わる実践的な知識と教育実習の意義の理解を通して、教師としての自覚を持ち、実践的指導力の基礎を養う。<br>教育実習を行う上で必要となる学校教育全般にわたる基本的理解を図る。教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得し、教育者としての自覚を高める。   | (1) 小学校教育に関わる教師の活動と、教育実習の意義について理解する。<br>(2) 理論の理解を通して得た様々な情報を踏まえて、自身の課題を設定することができる。<br>(3) 学校教育全般に関する基本的な知識を理解する。<br>(4) 教職と自己に対する認識を深める。<br>(5) 小学校教諭としての自覚を高め、態度・技能を修得する。   |   |     | ◎        | ○   |          |     |           | ○   |   |  |
| 20UEDK4292 | 教育実習Ⅱ（小）        | 4  | 小学校教育に関わる体験的活動を通して、教師としての自覚を持ち、実践的指導力の基礎を養う。<br>この科目は、教育実習が教職課程の総括的、実践的意義を持つ教育経験の場であることを鑑みて、講義を通して得た専門的知識を活かし、実習に取り組むことにより、教育者としての資質の向上を図ることを目的としている。  | (1) 小学校教育に関わる教師の活動について理解する。<br>(2) 授業およびその他の活動中に、現職教師の援助を受けながら、適切に子どもを指導することができる。<br>(3) 実践を通して得た様々な情報を踏まえて、自身の課題を設定することができる。<br>(4) 小学校教諭を目指すものとして必要な知識・技能、意欲・態度、問題解決能力等の指導力を身につける。  |   |     | ◎        | ○   |          |     |           |     | ○ |  |

| 科目番号       | 科目名        | 学年 | 科目目的   | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |     |          |     |           |     |  |
|------------|------------|----|--|---|---|-----|----------|-----|----------|-----|-----------|-----|--|
|            |            |    |  |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |     |          |     |           |     |  |
|            |            |    |  |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |     | 3. 思考・判断 |     | 4. 態度・志向性 |     |  |
|            |            |    |  |   | 1-1   | 1-2 | 2-1      | 2-2 | 3-1      | 3-2 | 4-1       | 4-2 |  |
| 20UEDK2246 | 世界の子どもたち   | 2  | 異文化間理解教育の視点から、諸外国における移民とその子どもの教育の歴史と現状について学ぶとともに、海外における日本人児童生徒の教育との概要と現状を地域ごとに学ぶ。また、わが国における在留外国人の教育の実態を把握し、課題を探る。                          | (1) 諸外国における移民とその子どもの教育の現状を把握することができる。<br>(2) わが国における在留外国人の教育および海外における日本人児童生徒の教育の歴史と現状について理解することができる。<br>(3) 設定したテーマについて主体的に調査し、分析、発表することができる。   |   | ◎   |          |     | ○        |     |           |     |  |
| 20UEDK2252 | 子どもと数学     | 2  | 算数・数学の探究的活動を通して、初等教育に携わる教師としての資質・能力の基礎を養う。   | (1) 小学校算数科の内容の数学的背景を理解し、数学的に見通しを持って算数科を指導する数学的技能・表現を身につける。<br>(2) 子どもたちの数学的思考力を涵養するための教材を開発することができる。<br>(3) 初等・中等教育段階で求められる数学の基礎的な概念や原理・法則について興味・関心を持ち探究することができる。   |   | ○   | ○        |     |          | ◎   |           |     |  |
| 20UEDK2542 | 地域福祉論      | 2  | 地域福祉の理念と現状を理解し、これからの地域福祉のあり方を考えるとともに、地域福祉を実践するための理論と方法を身につけることを目的とする。  | (1) 地域福祉の現状と課題を理解し、説明することができる。<br>(2) これからの地域福祉のあり方について、自分の意見を持つことができる。   |   | ◎   |          |     |          |     |           |     |  |
| 20UEDK4542 | 施設経営論      | 4  | 福祉制度の原点は生活保護制度と児童福祉であるといわれている。その原点にある、権利擁護・自己実現・自立を支援する福祉を追求し、またその専門職はどうあるべきなのかを考える。また、現下の福祉ニーズの背景について深く理解することを目的とする。                      | 福祉の概念が、生活保障から人権・権利擁護へと変わり、行政措置から利用・契約へと制度改革が進められたことを理解・認識するとともに、それをマネージメントする専門性が求められることを理解する。   |   | ◎   |          |     |          |     |           |     |  |
| 20UEDK4544 | 家庭支援論演習    | 4  | 社会生活で最初にして最期までかかわる最小集団である家族とそれを包含する場である家庭のなかで、こどもの成長・発達過程とのかかりについて探求する。それを行うにあたり、家族成員間での意識・行動や問題発生の機序と、それらに対する制度やこども子育て支援の方策等について理解を深めてゆく。 | 家庭とそこに生じた問題についての知識を修得するとともに、支援にかかわる制度や諸機関あるいは種々の団体・個人が行うこども子育て支援の役割について、情報収集・検索をし、紹介するに至る知識・技術の修得や質疑応答の態度などを養う。   |   | ○   | ◎        |     |          |     |           |     |  |
| 20UEDK2522 | 保育実習指導 I A | 2  | 保育所と施設での現場実習を円滑に実施し、学びを深めるために必要な基礎的な知識、技術、および姿勢・態度を理解し、習得することを目的とする。   | (1) 保育実習の意義と目的を理解する。<br>(2) 保育実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。<br>(3) 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法・内容について具体的に理解する。<br>(4) 保育士の倫理について理解する。<br>(5) 実習生としての心構え、社会人としてのマナーを理解し、習得する。  |   |     | ◎        | ○   |          |     | ○         |     |  |
| 20UEDK3521 | 保育実習指導 I B | 3  | 「保育実習指導 I A」や既習科目も踏まえて、保育所と施設での現場実習を円滑に実施し、学びを深めるために必要な基礎的な知識、技術、および姿勢・態度を理解し、習得することを目的とする。  | (1) 保育実習の意義と目的を理解する。<br>(2) 保育実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。<br>(3) 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法・内容について具体的に理解し、習得に努める。<br>(4) 保育士の倫理について理解する。<br>(5) 保育実習後の課題把握の契機をつくり、学習目標を明確にする。<br>(6) 実習生としての心構え、社会人としてのマナーを理解し、習得する。 |   |     | ◎        | ○   |          |     | ○         |     |  |



| 科目番号       | 科目名        | 学年  | 科目目的  | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |   |          |  |           |   |  |
|------------|------------|-----|---|---|---|-----|----------|---|----------|--|-----------|---|--|
|            |            |     |   |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |   |          |  |           |   |  |
|            |            |     |   |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |   | 3. 思考・判断 |  | 4. 態度・志向性 |   |  |
| 1-1        | 1-2        | 2-1 | 2-2   | 3-1   | 3-2   | 4-1 | 4-2      |   |          |  |           |   |  |
| 20UEDK3591 | 保育実習Ⅰ（保育所） | 3   | 保育所の見学・観察、子どもの生活や遊びへの参加を通して、乳幼児の発達、保育士の職務内容や職業倫理、保育所の役割や機能について具体的に理解する。それによって、保育士として必要な価値・倫理、知識、技術の基礎を修得することを目的とする。                                     | (1) 保育所の役割や機能を具体的に理解する。<br>(2) 観察や関わりを通して、子どもへの理解を深める。<br>(3) 保育および保護者支援について具体的、総合的に学ぶ。<br>(4) 保育の計画、観察、記録および自己評価等について具体的に理解する。<br>(5) 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。   |   |     | ◎        | ○ |          |  |           | ○ |  |
| 20UEDK3593 | 保育実習Ⅰ（施設）  | 3   | 保育所以外の児童福祉施設の見学・観察、生活などへの参加を通して、児童福祉施設などの役割と機能、保育士の職務、児童や成人の発達、保育・養護や援助の方法について理解する。それによって、保育士として必要な価値・倫理、知識、技術の基礎を修得することを目的とする。                         | (1) 児童福祉施設などの役割や機能を具体的に理解する。<br>(2) 観察や関わりを通して児童や成人への理解を深める。<br>(3) 保育や養護、支援、および保護者支援について具体的、総合的に学ぶ。<br>(4) 保育や養護、支援の計画、観察、記録および自己評価等について具体的に理解する。<br>(5) 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。  |   |     | ◎        | ○ |          |  |           | ○ |  |
| 20UEDK4521 | 保育実習指導Ⅱ    | 4   | 「保育実習Ⅰ」での実習経験および既習教科の内容との関連を踏まえ、2度目の保育所実習を円滑に実施し、より実践的で、かつ、よりよい保育の展開のための総合的な学びを深めるために必要な知識、技術、および姿勢・態度を理解し、習得することを目的とする。                                | (1) 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。<br>(2) 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法・内容に対する具体的理解を深め、習得に努める。<br>(3) 自らの実習の目標を明確化する。<br>(4) 保育士の専門性と職業倫理の理解を深める。<br>(5) 実習生としての心構え、社会人としてのマナーに対する理解を深め、習得する。<br>(6) 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。                      |   |     | ◎        | ○ |          |  |           | ○ |  |
| 20UEDK4591 | 保育実習Ⅱ      | 4   | 保育所における参与観察や指導計画の立案と実施などを通して、「保育実習Ⅰ」の学びを深化させると同時に、乳幼児の発達、保育士の職務内容や職業倫理、保育所の役割や機能に対する理解を深める。それらによって、保育士に求められる価値・倫理、知識、技術を修得を目指すとともに、自己の課題を明確にすることを目的とする。 | (1) 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。<br>(2) 子どもの観察や関わりからの視点を明確にすることを通じて保育の理解を深める。<br>(3) 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、保育および保護者支援について総合的に学ぶ。<br>(4) 保育の計画、実践、観察、記録および自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。<br>(5) 保育士の業務内容、専門性および職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。<br>(6) 保育士としての自己の課題を明確にする。 |   |     | ◎        | ○ |          |  |           | ○ |  |
| 20UEDK4523 | 保育実習指導Ⅲ    | 4   | 「保育実習Ⅰ」での実習経験および既習教科の内容との関連を踏まえ、保育所以外の児童福祉施設などでの実習を円滑に実施し、より実践的で、かつ、よりよい保育の展開のための総合的な学びを深めるために必要な知識、技術、および姿勢・態度を理解し、習得することを目的とする。                       | (1) 保育実習の意義と目的を理解し、保育・養護について総合的に学ぶ。<br>(2) 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法・内容に対する具体的理解を深め、習得に努める。<br>(3) 自らの実習の目標を明確化する。<br>(4) 保育士の専門性と職業倫理の理解を深める。<br>(5) 実習生としての心構え、社会人としてのマナーに対する理解を深め、習得する。<br>(6) 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。                   |   |     | ◎        | ○ |          |  |           | ○ |  |

| 科目番号       | 科目名         | 学年  | 科目目的   | 到達目標   | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |   |          |  |           |  |
|------------|-------------|-----|--|--|---|-----|----------|---|----------|--|-----------|--|
|            |             |     |  |  | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |   |          |  |           |  |
|            |             |     |  |  | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |   | 3. 思考・判断 |  | 4. 態度・志向性 |  |
| 1-1        | 1-2         | 2-1 | 2-2  | 3-1  | 3-2   | 4-1 | 4-2      |   |          |  |           |  |
| 20UEDK4593 | 保 育 実 習 III | 4   | 保育所以外の児童福祉施設における参与観察や指導計画の立案と実施などを通して、「保育実習Ⅰ」の学びを深化させると同時に、児童の発達や特性および障害、保育士の職務内容や職業倫理、児童福祉施設の役割や機能に対する理解を深める。それらによって、保育士に求められる価値・倫理、知識、技術の修得を目指すとともに、自己の課題を明確にすることを目的とする。 | (1) 保育所以外の児童福祉施設の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。<br>(2) 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることで保育の理解を深める。<br>(3) 既習の教科や「保育実習Ⅰ」の経験を踏まえ、保育や養護、支援および保護者支援について総合的に学ぶ。<br>(4) 保育や養護、支援の計画、実践、観察、記録および自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。<br>(5) 保育士の業務内容、専門性および職業倫理について具体的実践に結びつけて理解する。<br>(6) 保育士としての自己の課題を明確にする。 |   |     | ◎        | ○ |          |  | ○         |  |

# 令和2年度入学生用カリキュラムマップ

【教育学科】

【国際教育コース】

| 科目番号       | 科目名           | 学年  | 科目目的   | 到達目標   | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |   |          |   |           |   |
|------------|---------------|-----|--|--|---|-----|----------|---|----------|---|-----------|---|
|            |               |     |  |  | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |   |          |   |           |   |
|            |               |     |  |  | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |   | 3. 思考・判断 |   | 4. 態度・志向性 |   |
| 1-1        | 1-2           | 2-1 | 2-2  | 3-1  | 3-2   | 4-1 | 4-2      |   |          |   |           |   |
| 20UED12181 | 外国語コミュニケーションⅠ | 2   | 「英語Ⅰ・Ⅱ」で身につけた4技能の総合的な力を基礎にして、社会で使えるオーラル・コミュニケーション能力をさらに発展させる。また、多様な題材や教材を用いて、教育現場で使える英語を学習し、幼児・児童英語教育のための実践的英語能力を身につける。  | (1) 日常な話題について英語で会話することができる。<br>(2) 教室英語の様々な表現を学習する。<br>(3) 英語の発音、リズムやイントネーションに慣れる。   |   |     | ◎        | ○ |          |   |           |   |
| 20UED12182 | 外国語コミュニケーションⅡ | 2   | 「英語Ⅰ・Ⅱ」で身につけた4技能の総合的な力を基礎にして、社会で使えるオーラル・コミュニケーション能力をさらに発展させる。また、多様な題材や教材を用いて、教育現場で使える英語を学習し、幼児・児童英語教育のための実践的英語能力を身につける。  | (1) 日常な話題について英語でプレゼンテーションやディスカッションができるようになる。<br>(2) 教室英語表現を場面に応じて使えるようになる。<br>(3) 幼児・児童向けの英語の歌を歌ったり、物語を朗読したりできるようになる。  |   |     | ◎        | ○ |          |   |           |   |
| 20UED12101 | 理科内容論         | 2   | 小学校理科「B生命・地球」領域の理論的内容の理解と実験等の体験的活動を通して、初等教育に携わる教師としての資質・能力の基礎を養う。  | (1) 「B生命・地球」領域の教材について理解する。<br>(2) 「B生命・地球」領域の実験や観察を行うことができる。   |   |     | ◎        |   |          |   |           | ○ |
| 20UED12102 | 音楽科内容論        | 2   | ソルフェージュ（リズム・音程関連）と音楽理論（楽典）の理解と歌唱の基礎的な技術や表現方法の練習を通して、小学校音楽科に携わる教師としての資質・能力の基礎を養う。   | (1) 基礎的なソルフェージュと音楽理論の知識を理解する。<br>(2) 基本的な発声を行うことができる。<br>(3) 基本的な譜読ができる。   |   |     | ◎        | ○ |          | ○ |           |   |
| 20UED12103 | 体育科内容論        | 2   | 運動の特性の理解と各種運動の体験的活動を通して、初等教育に携わる教師としての資質・能力の基礎を養う。   | (1) 各種運動の特性を理解している。<br>(2) 体育科の教材研究を行うことができる。  |   |     | ◎        |   |          |   |           |   |
| 20UED12183 | 外国語科内容論       | 2   | 小学校における外国語活動・外国語科の授業実践に必要な実践的な英語運用力と、英語に関する背景的な知識を身につける。   | (1) 日本における小学校外国語教育の意義や現状を理解している。<br>(2) 小学校における外国語活動・外国語の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力が身につけている。<br>(3) 小・中学校の接続も踏まえながら、小学校における外国語活動・外国語の授業を担当するために必要な背景的な知識が身につけている。  |   |     | ◎        | ○ |          |   |           |   |
| 20UED13121 | 国語科教育法        | 3   | 小学校国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、基礎的な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。 | (1) 学習指導要領における小学校国語科の目標、内容および教育方法と評価について理解している。<br>(2) 背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できる。<br>(3) 児童の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。<br>(4) 小学校国語科の特性に応じた情報機器および教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できる。<br>(5) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。<br>(6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して授業改善の視点を身につけている。 |   |     |          | ◎ |          |   |           |   |

| 科目番号       | 科目名    | 学年  | 科目目的   | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |  |          |  |           |  |  |
|------------|--------|-----|--|---|---|-----|----------|--|----------|--|-----------|--|--|
|            |        |     |  |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |  |          |  |           |  |  |
|            |        |     |  |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |  | 3. 思考・判断 |  | 4. 態度・志向性 |  |  |
| 1-1        | 1-2    | 2-1 | 2-2  | 3-1   | 3-2   | 4-1 | 4-2      |  |          |  |           |  |  |
| 20UED13125 | 算数科教育法 | 3   | 小学校算数科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、基礎的な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。 | (1) 学習指導要領における小学校算数科の目標・内容および教育方法と評価について理解している。<br>(2) 背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できる。<br>(3) 児童の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。<br>(4) 小学校算数科の特性に応じた情報機器および教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できる。<br>(5) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。<br>(6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。 |   |     | ◎        |  |          |  |           |  |  |
| 20UED13123 | 社会科教育法 | 3   | 小学校社会科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、基礎的な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。 | (1) 学習指導要領における小学校社会科の目標・内容および教育方法と評価について理解している。<br>(2) 背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できる。<br>(3) 児童の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。<br>(4) 小学校社会科の特性に応じた情報機器および教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できる。<br>(5) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。<br>(6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。 |   | ○   | ◎        |  |          |  |           |  |  |
| 20UED13127 | 理科教育法  | 3   | 小学校理科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、基礎的な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。  | (1) 学習指導要領における小学校理科の目標・内容および教育方法と評価について理解している。<br>(2) 背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できる。<br>(3) 児童の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。<br>(4) 小学校理科の特性に応じた情報機器および教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できる。<br>(5) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。<br>(6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。   |   |     | ◎        |  |          |  |           |  |  |
| 20UED13129 | 生活科教育法 | 3   | 小学校生活科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、基礎的な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。 | (1) 学習指導要領における小学校生活科の目標・内容および教育方法と評価について理解している。<br>(2) 背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できる。<br>(3) 児童の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。<br>(4) 小学校生活科の特性に応じた情報機器および教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できる。<br>(5) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。<br>(6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。 |   |     | ◎        |  |          |  |           |  |  |



| 科目番号       | 科目名      | 学年  | 科目目的   | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |  |          |   |           |   |  |
|------------|----------|-----|--|---|---|-----|----------|--|----------|---|-----------|---|--|
|            |          |     |  |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |  |          |   |           |   |  |
|            |          |     |  |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |  | 3. 思考・判断 |   | 4. 態度・志向性 |   |  |
| 1-1        | 1-2      | 2-1 | 2-2  | 3-1   | 3-2   | 4-1 | 4-2      |  |          |   |           |   |  |
| 20UED13122 | 音楽科教育法   | 3   | 小学校音楽科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、基礎的な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。   | (1) 学習指導要領における小学校音楽科の目標・内容および教育方法と評価について理解している。<br>(2) 背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できる。<br>(3) 児童の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。<br>(4) 小学校音楽科の特性に応じた情報機器および教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できる。<br>(5) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。<br>(6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。     |   |     | ◎        |  |          | ○ | ○         |   |  |
| 20UED13124 | 図画工作科教育法 | 3   | 小学校図画工作科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、基礎的な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。 | (1) 学習指導要領における小学校図画工作科の目標・内容および教育方法と評価について理解している。<br>(2) 背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できる。<br>(3) 児童の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。<br>(4) 小学校図画工作科の特性に応じた情報機器および教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できる。<br>(5) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。<br>(6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。 |   |     | ◎        |  |          | ○ |           | ○ |  |
| 20UED13126 | 家庭科教育法   | 3   | 小学校家庭科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、基礎的な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。   | (1) 学習指導要領における小学校家庭科の目標・内容および教育方法と評価について理解している。<br>(2) 背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できる。<br>(3) 児童の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。<br>(4) 小学校家庭科の特性に応じた情報機器および教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できる。<br>(5) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。<br>(6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。     |   | ○   | ◎        |  |          | ○ |           |   |  |
| 20UED12122 | 体育科教育法   | 2   | 小学校体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、基礎的な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。   | (1) 学習指導要領における小学校体育科の目標・内容および教育方法と評価について理解している。<br>(2) 背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できる。<br>(3) 児童の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。<br>(4) 小学校体育科の特性に応じた情報機器および教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できる。<br>(5) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。<br>(6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。     |   |     | ◎        |  |          |   |           |   |  |

| 科目番号       | 科目名             | 学年  | 科目目的   | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |   |          |  |           |  |  |
|------------|-----------------|-----|--|---|---|-----|----------|---|----------|--|-----------|--|--|
|            |                 |     |  |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |   |          |  |           |  |  |
|            |                 |     |  |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |   | 3. 思考・判断 |  | 4. 態度・志向性 |  |  |
| 1-1        | 1-2             | 2-1 | 2-2  | 3-1   | 3-2   | 4-1 | 4-2      |   |          |  |           |  |  |
| 20UED13181 | 外国語科教育法         | 3   | 小学校における外国語活動（中学年）・外国語（高学年）の教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、基礎的な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。  | (1) 学習指導要領における外国語活動および外国語科の目標・内容および教育方法と評価について理解している。<br>(2) 背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できる。<br>(3) 児童期の第二言語習得の特徴について理解し、実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。<br>(4) 小学校における外国語活動および外国語科の特性に応じた情報機器および教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できる。<br>(5) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。<br>(6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。 |   | ○   | ◎        |   |          |  |           |  |  |
| 20UED12131 | 教育課程論           | 2   | 教育課程の意義・編成・実施・評価について知識と理解を得ることにより、教職を担うために必要とされる基礎的な素養を養う。また、教育課程の基準として定められている学習指導要領の変遷や、現行学習指導要領の特徴について学ぶとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。  | (1) 現代日本の学校における教育課程について、それを支える考え方や法制、実際の編成・実施・評価の方法を、歴史と国際比較の二つの視点から説明できる。<br>(2) カリキュラムおよび教育課程という概念の成立と発展について理解している。<br>(3) 我が国の教育課程をめぐる制度について歴史的に概観できる。<br>(4) 現在の教育課程の基準（学習指導要領など）とそれに基づくカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解している。<br>(5) カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解している。  |   |     | ◎        |   |          |  |           |  |  |
| 20UED12133 | 道徳教育の理論と実践      | 2   | 道徳教育と「特別の教科道徳」の重要性と特質を理解し、社会的課題や子どもたちの課題に向き合いながら、主体的・創造的に取り組むことができる力量を身につける。   | (1) 我が国における道徳教育の改革動向について、基礎的な知識を有している。<br>(2) 「特別の教科道徳」の基本理念を理解し、小学校における道徳の授業方法について、他の活動領域と関連づけながら具体的に計画し、実践できる力を身につける。   |   | ○   | ◎        |   |          |  |           |  |  |
| 20UED12135 | 教育方法の理論と実践      | 2   | 1. 教育方法学の概要を学び、教授・学習に焦点をあて理論と実践の乖離を超克し、理論を教育実践に活用するための「方法・技術」に関する基礎的な知識を習得する。<br>2. 「教育方法学」の領域は、授業の技術的原理に関する問題だけではなく、教室における子どもの学習の経験の問題、カリキュラム構成と評価に関する問題、教室における教師と子どものコミュニケーションの問題、教師と教師教育に関する問題などを包摂して成立していることを学ぶ。           | (1) 教育方法学の歴史や日本の授業と授業研究の概観などに関する基礎的な知識を修得することを通して、より豊かな教育観、授業観を持つことができる。<br>(2) 授業づくりの諸理論に関する基礎的な知識を修得し、それらの理論を学習指導法と関連付けて説明することができる。   |   | ◎   | ○        |   |          |  |           |  |  |
| 20UED13132 | 生徒指導・進路指導の理論と実践 | 3   | 1. 児童生徒の「生きる」力の育成を視点として、教師として必要とするこれからの学校における生徒指導・進路指導実践の理論と具体的な実践のあり方を学ぶ。<br>2. 他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技術や素養を身につけるとともに、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身につける。 | (1) 生徒指導の意義や原理を理解している。<br>(2) すべての児童生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解している。<br>(3) 児童生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解している。<br>(4) 進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解している。<br>(5) すべての児童生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方や指導のあり方を理解している。<br>(6) 児童生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方やあり方を理解している。           |   |     | ◎        | ○ |          |  |           |  |  |

| 科目番号       | 科目名             | 学年 | 科目目的  | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |     |          |     |           |     |  |  |
|------------|-----------------|----|---|---|---|-----|----------|-----|----------|-----|-----------|-----|--|--|
|            |                 |    |   |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |     |          |     |           |     |  |  |
|            |                 |    |   |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |     | 3. 思考・判断 |     | 4. 態度・志向性 |     |  |  |
|            |                 |    |   |   | 1-1   | 1-2 | 2-1      | 2-2 | 3-1      | 3-2 | 4-1       | 4-2 |  |  |
| 20UED13130 | 教育相談の理論と実践      | 3  | 子どもの発達に関する心理学知識をもとに、幼児児童生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）および技術を身につける。  | (1) 学校園における教育相談の意義とそれに関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解している。<br>(2) 教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解している。<br>(3) 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解している。<br>(4) いじめ、不登校・不登園、虐待、非行等の課題に対する、幼児、児童および生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解している。<br>(5) 教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備など、組織的な取組みの必要性および地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解している。 |   |     | ◎        | ○   |          |     |           |     |  |  |
| 20UED12130 | 特別活動の指導法        | 2  | 学習指導要領に示された「特別活動」について、内容や、その趣旨、指導法について理解する。   | (1) 学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事といった特別活動の各分野の意味づけを理解する。<br>(2) 実際の指導にどう生かしていくか、具体的に探求することができる。   |   | ○   | ◎        |     |          |     |           |     |  |  |
| 20UED14131 | 総合的な学習の時間の指導法   | 4  | 総合的な学習の時間における横断的・総合的な学習や児童の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動の展開に必要な基礎的知識を学習し、総合的な学習の展開に必要な資質を身につける。   | (1) 総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標および内容を定める際の考え方を理解している。<br>(2) 総合的な学習の時間の指導計画を立案することができる。<br>(3) 各教科等との関連性を図りながら総合的な学習の時間の年間指導計画を作成することの重要性を理解している。<br>(4) PBLの進め方を理解し、主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元構成ができる。<br>(5) 総合的な学習の時間の指導と評価の考え方や実践上の留意点を理解している。  |   | ○   | ◎        |     |          |     |           |     |  |  |
| 20UED12166 | 異文化理解とコミュニケーション | 2  | 小学校・幼稚園の教員として、地域や職場のグローバル化に対応し、様々な文化背景や価値観を持つ人々と良好なコミュニケーションを行うことのできる能力の養成を目的とする。   | (1) 文化の違いによる言語・非言語コミュニケーションスタイルの多様性を理解している。<br>(2) 文化背景や価値観の異なる人々の考えに敬意を持って耳を傾けるとともに、自分の考えもきちんと主張できる技術を身につけている。   | ○   |     |          | ○   | ◎        |     |           |     |  |  |
| 20UED12192 | 学校教育参加実習        | 2  | 幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校教育に関わる理論的知識と実践的な知識を関連させながら理解することにより、教職についての理解を深め、教育活動を客観的にとらえる能力を身につける。   | (1) 専門教育科目の講義や演習で学んだ知識を踏まえて、教育現場の状況を解釈できる。<br>(2) 教育現場の観察と体験的活動を踏まえて、自身の課題を設定することができる。  |   |     |          |     |          |     | ◎         |     |  |  |
| 20UED13131 | 教育実習事前事後指導Ⅰ（小幼） | 3  | 小学校教育に関わる実践的な知識と教育実習の意義の理解を通して、教師としての自覚を持ち、実践的指導力の基礎を養う。「教育実習Ⅰ（小）」に向けて、教育実習を行う上で必要となる学校教育全般にわたる基本的理解を図る。教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を修得し、教育者としての自覚を高める。教育実習を振り返り、教職への認識を確かなものとする。 | (1) 小学校教育に関わる教師の活動と、教育実習の意義について理解する。<br>(2) 理論の理解を通して得た様々な情報を踏まえて、自身の課題を設定することができる。<br>(3) 学校教育全般に関する基本的な知識を理解する。<br>(4) 教職と自己に対する認識を深める。<br>(5) 小学校教諭としての自覚を高め、態度・技能を修得する。   |   |     | ◎        | ○   |          |     |           | ○   |  |  |





| 科目番号       | 科目名           | 学年  | 科目目的  | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |   |          |  |           |   |  |
|------------|---------------|-----|---|---|---|-----|----------|---|----------|--|-----------|---|--|
|            |               |     |   |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |   |          |  |           |   |  |
|            |               |     |   |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |   | 3. 思考・判断 |  | 4. 態度・志向性 |   |  |
| 1-1        | 1-2           | 2-1 | 2-2   | 3-1   | 3-2   | 4-1 | 4-2      |   |          |  |           |   |  |
| 20UED12761 | 国際教育フィールドワークⅠ | 2   | 国際教育の意義を理解するため、フィールドワーク、とりわけ「観察と記録」の具体的な方法論を身につけることを目的とする。幼稚園、小学校、中学校など、実際に国際教育が行われている「現場」を観察・記録し、国際教育の目的、方法、効果などについて考察を深める。そのために、フィールドワークにおける観察・記録という方法論の意義や具体的な方法を学び、国際教育を理解して実践するための「視点」を身につける。                    | (1) 国際教育の意義を理解する。<br>(2) フィールドワークの中でも「観察と記録」の方法論を身につける。<br>(3) フィールドワークで観察した国際教育実践を考察し、発表することができる。                | ◎   |     |          | ○ |          |  |           |   |  |
| 20UED12762 | 国際教育フィールドワークⅡ | 2   | 「教育」という営みにおいては、国家、民族、文化、社会のあり方ごとに異なる事情が存在する。日本の教育と海外の教育とを比較することにより、教育改善の方策を考察し、さらには教育の本質を探ることが目的である。幼稚園、小学校、中学校など様々な場所において海外と日本の子どもの交流活動を調査し支援することを通じて、国際教育の実践活動を学ぶ。  | (1) 実際の国際交流に携わることで、子どもたちの異文化理解や友好意識を高める方法を学ぶ。<br>(2) 交流に必要な様々な資源の活用法について学ぶ。<br>(3) それぞれの地域での国際交流に携わっている機関との連携を学ぶ。 |   |     |          | ◎ |          |  |           | ○ |  |
| 20UED13762 | 国際教育フィールドワークⅣ | 3   | 国際的な視野を持って将来、教育活動に従事することを目指す上で、様々な現場に出てそこで調べたり、経験をとらえて考えたりすることは不可欠な資質である。国内国外の教育施設などにおいて調査や野外実習、実務的経験などによって実践的な知をたくわむ。そうしたフィールドワークにより、学生は調査や野外実習などの企画・実施・振り返りの全体をひととおり実際に経験することで、自立したフィールドワーカーとして活動するための基礎的な素養を身につける。 | (1) 開発途上国でのフィールドワークなどを通して今後の日本の教育における国際貢献の課題を学ぶ。<br>(2) 様々な文化的背景を持つ子どもたちを支援する上で必要な知識・慣習を実践的に学ぶ。                   |   | ○   |          |   | ◎        |  |           |   |  |
| 20UED13761 | 国際教育フィールドワークⅢ | 3   | 「教育」という営みにおいては、国家、民族、文化、社会のあり方ごとに異なる事情が存在する。そのためには、海外で学ぶことも重要だが、国内での在日外国人の子どもたちの教育について学ぶことも重要である。在日外国人の子どもたちを取り巻く諸事情について事前に学習し、在日外国人学校での2週間程度のインターンシップを行うことで現場での課題について学ぶ。   | (1) 日本国内の在日外国人の子どもたちを取り巻く生活実態と課題について実践的に学ぶ。<br>(2) 今後の日本における外国人の子どもたちへの教育のあり方を考えながら、実践的に教育支援の場に参加する。              | ○   |     |          |   | ◎        |  |           |   |  |

| 科目番号       | 科目名           | 学年  | 科目目的   | 到達目標   | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |   |          |   |           |  |
|------------|---------------|-----|--|--|---|-----|----------|---|----------|---|-----------|--|
|            |               |     |  |  | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |   |          |   |           |  |
|            |               |     |  |  | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |   | 3. 思考・判断 |   | 4. 態度・志向性 |  |
| 1-1        | 1-2           | 2-1 | 2-2  | 3-1  | 3-2   | 4-1 | 4-2      |   |          |   |           |  |
| 20UED14762 | 国際教育フィールドワークV | 4   | 国際的な視野を持って将来、教育活動に従事することをめざすうえで、様々な現場に出てそこで調べたり、経験をとおして考えたりすることは不可欠な学習経験である。これまでのフィールドワーク等で身につけ、卒業研究のテーマとして取り上げたことを追求するために、国内国外の様々な地域において存在する多文化的な状況に注目し、それをフィールドとして問題の設定、調査や実習の計画の企画立案に始まり、調査や実習の全体を自ら計画し実施することを経験し、自立したフィールドワーカーとして活動するための、より高い資質を身につける。 | (1) 自分で設定した国際的な視野を持つテーマに基づいてフィールドワークを企画・実践する。<br>(2) そのテーマを発展させて社会に還元できるような活動の目標を立てる。  |   |     |          |   | ◎        | ○ |           |  |
| 20UED12764 | 社会調査法II       | 2   | 教育者・保育者として、社会に関する様々な情報を活用してそこから有用な情報を読み解くための「質」的な調査手法として、因子分析とノンパラメトリック統計の技法を身につける。教師・保育者として自らの実践を検証するため、簡単なアンケート調査を作成・実施して自らデータを収集し、一般的な統計ソフトを用いて質的な分析を行ったうえで、教育実践への示唆を考察できるところまで習得する。  | (1) 仮説を立てて検証するためのアンケートを作成することができる。<br>(2) 調査のための手続き、倫理的配慮、データ収集の方法を学び、実施できる。<br>(3) 調査データ分析のための様々な分析手法について理解し、適切な分析方法を用いることができる。<br>(4) 分析結果に基づいた結果と考察をまとめて、プレゼンテーションができる。 | ○   |     | ○        |   |          | ◎ |           |  |
| 20UED12763 | 共生社会論         | 2   | 多様な個人や社会集団がお互いを認め、尊重し合い、協働することにより、社会的諸課題を解決し、共生社会を構築するための理論と方法論を、諸外国や日本のこれまでの事例を参照しつつ学ぶことを目的とする。共生社会の実現のためには、ジェンダー、民族、宗教、文化、障がいなどによる社会的排除を克服し、人々のインクルーシブで相互に寛容な関係性を築くことが必要であり、共生の価値観を共有することが不可欠である。授業では、そうした価値観の共有をどのように展望すればよいのかについてともに考える。               | (1) 多様な他の個人や集団が相互に認め、尊重し合い、協働することにより、社会的諸課題を解決し、共生社会を構築するための理論と方法論について理解し、説明できる、および自分の考えを述べることができる。<br>(2) ジェンダー、民族、宗教、文化、障がいに関連する諸問題について理解し、説明できる、および自分の考えを述べることができる。     | ◎   |     |          | ○ | ○        |   |           |  |

| 科目番号       | 科目名        | 学年  | 科目目的   | 到達目標   | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |   |          |   |           |  |  |
|------------|------------|-----|--|--|---|-----|----------|---|----------|---|-----------|--|--|
|            |            |     |  |  | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |   |          |   |           |  |  |
|            |            |     |  |  | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |   | 3. 思考・判断 |   | 4. 態度・志向性 |  |  |
| 1-1        | 1-2        | 2-1 | 2-2  | 3-1  | 3-2   | 4-1 | 4-2      |   |          |   |           |  |  |
| 20UED12765 | シティズンシップ教育 | 2   | 諸外国と日本におけるシティズンシップ教育の動向について学び、わが国におけるシティズンシップ教育のこれからのあり方を考える。シティズンシップ教育は、イギリスの学校ではすでに中等学校で必修とされているほか、諸外国で学校教育に取り入れられている。それは国民国家の維持に重要な役割を果たす教科としての性格を持つものであるが、同時に国民国家を超えたシティズンシップのあり方も模索されてきた。授業では、能動的で責任ある市民の育成をめざすシティズンシップ教育の実践を事例として取り上げ、市民の政治参加につながるシティズンシップ教育の課題について学ぶ。                             | (1) 国内外におけるシティズンシップ教育の動向について理解し、説明することができる。<br>(2) 国民国家を超えたシティズンシップのあり方について考察し、自分の考えを述べるができる。<br>(3) シティズンシップ教育の課題について理解し、自分の考えを述べるができる。   | ◎   |     |          | ○ | ○        |   |           |  |  |
| 20UED12703 | 異文化間教育 I   | 2   | 教育・保育の実践のための基礎的な素養として、主として外国に目を向けて異文化間教育の基本的な考え方やその実際について学ぶ。その中で、世界の主要国における多文化社会の形成過程や現状について知り、そこで行われる学校教育がどのような社会の現実に対応し、課題に取り組んできたのかを知る。さらに、社会や世界との関わりの中で、他者とのコミュニケーションを行う力を育成する観点から、外国語やその背景にある文化の多様性および異文化コミュニケーションの現状と課題について学び、併せて、英語が使われている国・地域の文化を通じて、英語による表現力への理解を深め、中学校における外国語科の授業に資する知見を身につける。 | (1) 世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解することができる。<br>(2) 様々な国や地域における多文化社会の形成過程と現状を理解することができる。<br>(3) 設定したテーマについて主体的に調査し、分析、発表することができる。  | ◎   |     |          |   | ○        | ○ |           |  |  |
| 20UED13763 | グローバル社会論   | 3   | グローバル化に伴い現代社会がどのように変化し、どのような新しい課題を抱えることになっているのかを、日本を含む先進諸国はもとより、開発途上国や低開発国の今の現実に学びながら理解する。この科目では、グローバル化とは何かを理解したうえで、それがもたらす光の部分と陰の部分の両方に目を向けるとともに、課題解決のために何が行われているか、また何が可能なかを考え、国際的な協力のために必要な資質を身につけることをめざす。   | (1) グローバル化とは何か理解する。<br>(2) グローバル化が、日本を含む先進国、および開発途上国や低開発国にどのようなプラスとマイナスの影響を及ぼし、どのような新しい課題を生んでいるかを理解する。<br>(3) グローバル化によって生じた課題を解決するために、どのような取組が行われてきているかを知って、今後何をすることが可能かを考察し、意見を述べることができる。 | ◎   |     |          |   | ○        | ○ |           |  |  |
| 20UED12742 | 教育社会学      | 2   | 教育社会学の観点から、「近代教育」や「学校」の歴史的な位置づけを確認した上で、今日における問題や課題を捉え、教員の役割や職務内容の理解を深め、小学校・幼稚園教員として必要な資質・能力を修得する。  | (1) 我が国および諸外国における近年の教育事情および教育政策の動向を理解している。<br>(2) 子どもの生活の変化を踏まえた指導上の課題を理解し、教育現象を歴史的側面や社会的側面を結び付けて捉えられる。<br>(3) 現在の学校および教育に関する社会的期待や批判等について客観的に考えられる。教師や学校に対する社会的期待を理解し、それに答える方法について考えられる。  |   | ◎   |          |   | ○        |   |           |  |  |

| 科目番号       | 科目名           | 学年  | 科目目的  | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |  |          |  |           |  |  |
|------------|---------------|-----|---|---|---|-----|----------|--|----------|--|-----------|--|--|
|            |               |     |   |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |  |          |  |           |  |  |
|            |               |     |   |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |  | 3. 思考・判断 |  | 4. 態度・志向性 |  |  |
| 1-1        | 1-2           | 2-1 | 2-2   | 3-1   | 3-2   | 4-1 | 4-2      |  |          |  |           |  |  |
| 20UED12766 | メディアリテラシーと教育  | 2   | 新聞、テレビ、インターネット、SNSなど、国際化した現代の「メディア社会」で主体的に生きていくためには、メディアと批判的・創造的にかかわっていく力「メディア・リテラシー」が不可欠である。教師として、教育に関わる情報をメディアを通じて主体的に読み解く力や、メディアを用いて発信する力を身につけること、児童生徒がメディアからの情報に惑わされず、適切に読み解き、行動に移すことができるメディア教育のあり方を学ぶことが目的である。 | (1) メディアの特性を正しく理解し、自らの目的に適合したメディアや情報を選択することができる。<br>(2) 教育に関わるメディアから発信される内容を批判的に吟味し、主体的に判断・選択する力を身につける。<br>(3) メディアを教育に効果的に活用する力を身につける。                       | ○   |     | ○        |  |          |  | ◎         |  |  |
| 20UED13701 | 英語文学と日本       | 3   | 将来、英語教育を担う者の基礎的な素養として、英語文学を日本との関連で考える。明治以降、イギリス文学およびアメリカ文学がどのように日本に紹介され、日本における文学や日本人のものの考え方に影響を与えたのかについて学ぶ。また、日本文学や言語をはじめとした日本文化が英語文学に与えた影響について学ぶことにより、英語文学と日本の関係の多面的な理解を深める。                                       | (1) 文学作品において使用されている様々な英語表現について理解している。<br>(2) 英語文学作品で描かれている、日本文化について理解している。<br>(3) 英語で書かれた代表的な文学のうち日本における英語教育に関連する作品について知識を得ることができる。                           | ○   | ◎   |          |  |          |  |           |  |  |
| 20UED13702 | 英語文学と世界       | 3   | 将来、英語教育を担う者の基礎的な素養として、英語文学を近現代の世界との関連で考える。今日、広く英語圏の地域で展開されている英語文学の特性を踏まえて、世界の文学や言語文化にもたらした英語文学の影響や、逆に英語が世界共通語としての地歩を得る中で世界から受けた影響について理解を深める。  | (1) 文学作品において使用されている様々な英語表現の世界的バリエーションについて理解している。<br>(2) 英語文学作品で描かれている、世界各国の文化について理解している。<br>(3) 英語で書かれた代表的な文学作品のうち英米以外の国々に関連するものについて知識を得ることができる。              | ○   | ◎   |          |  |          |  |           |  |  |
| 20UED13703 | 外国語コミュニケーションⅢ | 3   | 中学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語運用能力を身につける。また、生徒に対して理解可能な言語インプットを与え、生徒の理解を確かめながら英語でインタラクションすることができる。   | (1) ナチュラル・スピードに近い速さとリズムの英語に適応し、ネイティブ・スピーカーの問いに即座に答えられる。<br>(2) 日常生活だけではなく、特に教育問題を扱った題材を聞き取ったり読んだりして理解し、英語でディスカッションできる。<br>(3) 授業での指導で用いる英語表現を理解し、正しい発音で使用できる。 | ◎   |     | ○        |  |          |  |           |  |  |
| 20UED13704 | 外国語コミュニケーションⅣ | 3   | 中学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語運用能力を身につける。また、生徒に対して理解可能な言語インプットを与え、生徒の理解を確かめながら英語でインタラクションを進めていく柔軟な調整能力を身につける。  | (1) CEFR B2レベル以上の英語運用能力を身につける。<br>(2) 教育問題を扱った題材を聞き取ったり読んだりして、自分の考えを英語でまとめてプレゼンテーションできる。<br>(3) 複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。                                    | ◎   |     | ○        |  |          |  |           |  |  |



| 科目番号       | 科目名           | 学年  | 科目目的   | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |  |          |  |           |  |  |
|------------|---------------|-----|--|---|---|-----|----------|--|----------|--|-----------|--|--|
|            |               |     |  |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |  |          |  |           |  |  |
|            |               |     |  |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |  | 3. 思考・判断 |  | 4. 態度・志向性 |  |  |
| 1-1        | 1-2           | 2-1 | 2-2  | 3-1   | 3-2   | 4-1 | 4-2      |  |          |  |           |  |  |
| 20UED14761 | 外国語コミュニケーションV | 4   | 1年時の「英語Ⅰ・Ⅱ」および2年時の「外国語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」で学習した日常生活で使われる英語会話の力を基礎にして、ナチュラル・スピードに近い速さとリズムの英語に慣れて、ネイティブ・スピーカーの問いに即座に答えられるように練習する。「外国語コミュニケーションⅣ」に引き続き、教育問題を扱った題材を聞き取ったり読んだりして、自分の考えを英語でまとめてプレゼンテーションする練習を行う。  | (1) ナチュラル・スピードに近い速さとリズムの英語を聞き取ることができる。<br>(2) 会話において、ネイティブ・スピーカーの問いに即座に答えられるようになる。<br>(3) 教育問題について、英語でプレゼンテーションやディスカッションができるようになる。  | ◎   |     | ○        |  |          |  |           |  |  |
| 20UENG1121 | リーディングⅠA      | 2   | 中学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための正確な読解力を身につける。英文を読む前の内容の予想、スキミングやスキミングなどの多角的なアプローチによって、文章の概要を素早く把握したり、パラグラフにおける主題文と支持文の見極めや関係性を理解して細部を正しく読み取ったりする訓練を行う。  | (1) 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。<br>(2) 中学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語読解能力が身につけている。<br>(3) パラグラフにおける主題文と支持文の見極めや関係性を理解できる。                                      | ◎   |     | ○        |  |          |  |           |  |  |
| 20UENG1221 | リーディングⅠB      | 2   | 中学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための正確な読解力を身につける。文章の概要を素早く把握したり、パラグラフにおける主題文と支持文の見極めや関係性を理解して細部を正しく読み取ったりする訓練を行い、特に教育問題を扱った論説、新聞、雑誌の記事を教材として取り上げ、必要な情報を得たり、概要や要点をまとめることを学ぶ。                               | (1) 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。<br>(2) 中学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語読解能力が身につけている。<br>(3) 教育問題を扱った論説、新聞、雑誌の英文記事を教材として活用できる。                                    | ◎   |     | ○        |  |          |  |           |  |  |
| 20UED13764 | 異文化間教育Ⅱ       | 3   | 教育・保育の実践のための基礎的な素養として、主としてわが国のこれまでと現在の取組に目を向けて異文化間教育の基本的な考え方やその実際について学ぶ。その中で、海外子女教育の歴史と現状、およびわが国の現在の多文化状況とそれに対応した教育の取組や課題について、理念と実際の両面から学ぶ。そうした学習を踏まえて、これからわが国にも到来する多文化社会における教育のあり方を異文化間教育の問題として考える。 | (1) 日本における異文化間教育の基本的な考え方および現在までの取組について理解する。<br>(2) 海外子女教育の歴史と現状、および日本の現在の多文化状況とそれに対応した教育の取組や課題について、理念と現状の両面から理解する。<br>(3) 日本にも到来しつつある多文化社会における教育のあり方を異文化間教育の視点から考察し、意見を述べることができる。 |   | ◎   |          |  |          |  | ○         |  |  |

| 科目番号       | 科目名         | 学年  | 科目目的  | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |   |          |   |           |   |  |
|------------|-------------|-----|---|---|---|-----|----------|---|----------|---|-----------|---|--|
|            |             |     |   |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |   |          |   |           |   |  |
|            |             |     |   |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |   | 3. 思考・判断 |   | 4. 態度・志向性 |   |  |
| 1-1        | 1-2         | 2-1 | 2-2   | 3-1   | 3-2   | 4-1 | 4-2      |   |          |   |           |   |  |
| 20UED13765 | 環境教育論       | 3   | 環境問題は、地球規模で進む温暖化、開発に伴う資源の枯渇や公害問題、生活に必要なエネルギーをいかに調達するのかという問題、我々の身の回りのゴミとその処理の問題、リサイクルやリユースといった人間の生き方の問題など、多岐にわたる。この科目では、これらの問題のうちのいくつかを概観し、現代社会に生きる人間として求められる環境リテラシーの重要性を理解するとともに、主として学校教育がこれまでどのようにこれらの問題に取り組んできたのか、また今後どのように進むべきなのかを考える。 | (1) 現代社会に生きる人間として求められる環境リテラシーの重要性を理解する。<br>(2) 学校教育における環境教育の具体的な実践事例の分析を通して、環境教育の指導方法を身につける。  |   | ◎   |          | ○ |          |   |           |   |  |
| 20UED14763 | 地域問題研究      | 4   | 少子化、高齢化が進み、人口減少社会が到来している現代日本において、地域社会には産業だけでなく、生活基盤そのものにも大きな変化が押し寄せている。この科目では、そうした現代日本が直面する現実のなかで地域社会が抱える問題を取り上げ、その様相を理解するとともに、解決のために行われている取り組みや施策についても学ぶ。また、地域社会に暮らす者として、地域が抱える問題にどのように関わる必要があるか、可能なかについても考えつつ学ぶ。                        | (1) 現代の日本が直面する地域社会が抱える問題に気づき、主体的に取り組む意欲を持てる。<br>(2) これらの問題に対処するために、国・地方自治体・民間組織などが取り組んでいる様々な施策・試みについて調査・検討することができる。<br>(3) これらの課題に対して、自分たちで主体的に解決の方法を探り、現場への応用について探ることができる。 |   |     |          | ◎ | ○        | ○ |           |   |  |
| 20UED14765 | データリテラシーと教育 | 4   | データを読み解き、そこからの有用な情報を取り出す能力は、情報技術が高度に発達し、グローバル化した現代社会では、必須ともいえる素養である。データ分析の有効性と留意点を踏まえた上で、教師として、自らデータを構成し、そこから豊かな知見を適切に導く知識を、コンピュータを用いて実践的に学ぶ。また、児童生徒が、図や数値によってデータの情報を要約できるようになるための授業を、教材や指導案を通じて計画できる能力を養成する。                             | (1) 教師として、教育におけるデータを目的に応じて収集、分析、活用する力を身につける。<br>これを基礎として、<br>(2) 児童生徒にデータリテラシーの基礎を身につけさせるためのコンピュータ等を活用した授業展開を考え、授業をデザインする力を身につける。   | ○   |     | ○        |   |          |   |           | ◎ |  |
| 20UED12744 | 人権教育と福祉     | 2   | 現代社会の諸課題についての探究的活動を通して、初等教育に携わる教師としての資質・能力の基礎を養う。   | (1) 現代社会の諸課題に基づいた授業計画と立案することができる。<br>(2) 学習した内容を踏まえて、自分の意見を持つとともに、各自で工夫した活動を行うことができる。<br>(3) 小学校社会科における授業内容を通して、エネルギーや環境問題、貧困問題といった社会問題への関心を高めることができる。                      |   | ◎   |          |   |          |   |           |   |  |
| 20UED12705 | ライティング I A  | 2   | 中学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語ライティング能力を身につけるため、語彙と表現の増強を図り、短い手紙や日常生活の描写、説明などが正確な英語で書けるようにする。また、英語と日本語の発想の違いや、文化的背景が言葉に与える影響なども解説し理解を深める。   | (1) 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。<br>(2) 中学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語ライティング能力が身につけている。<br>(3) 英語と日本語の発想の違いや、文化的背景が言葉に与える影響などを理解している。                             | ◎   |     | ○        |   |          |   |           |   |  |

| 科目番号       | 科目名        | 学年  | 科目目的  | 到達目標   | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |  |          |   |           |  |  |
|------------|------------|-----|---|--|---|-----|----------|--|----------|---|-----------|--|--|
|            |            |     |   |  | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |  |          |   |           |  |  |
|            |            |     |   |  | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |  | 3. 思考・判断 |   | 4. 態度・志向性 |  |  |
| 1-1        | 1-2        | 2-1 | 2-2   | 3-1  | 3-2   | 4-1 | 4-2      |  |          |   |           |  |  |
| 20UED12704 | ライティング I B | 2   | 中学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語ライティング能力を身につけるため、語彙と表現の増強を図り、リーディングでも学習する基本的なパラグラフの構成を理解し、論理的思考に基づいてパラグラフを展開させる練習を行い、論理的で説得力のある、より高度な内容の英語の文章が書けるようにする。  | (1) 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。<br>(2) 中学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語ライティング能力が身につけている。<br>(3) 論理的思考に基づいてパラグラフを展開させることができる。                                      | ◎   |     | ○        |  |          |   |           |  |  |
| 20UED12241 | 教育史        | 2   | 教育の歴史は、社会・文化の歴史と同様に人類の起源にまでさかのぼることができる。その中で近代以降の教育は、子どもの教育として自立し、学校という場を中心に固有の任務を担うようになり、教育思想に導かれるようになった。本授業科目では、現代の教育について省察し、未来の教育を展望することを視野に入れながら、教育思想史の見方を中心に教育の歴史について考える。   | (1) 教育についての考え方の歴史の変遷を、時代背景や社会構造の変化と照らし合わせながら説明できる。<br>(2) 近代学校の特徴と歴史について、適切な概念の用語を用いて解説することができる。<br>(3) 教育・教育学の理論的基盤がどのような思想によって形成されたかを理解し、教育史上で重要な教育思想家の思想的特徴を説明することができる。 |   |     | ◎        |  |          |   |           |  |  |
| 20UED12242 | 教育哲学       | 2   | 「教育哲学」を組み入れる歴史的社会的文脈を学ぶ。さらに「子どもの発達」や「子どもへの教育」を、大人や老人を含めた「ライフサイクル」の全体、そしてライフサイクルの各段階での異なった世代どうしの「相互生成」から見直すことによって、「教育」を根本から考え直す。   | (1) 「教育哲学」を組み入れる歴史的社会的文脈を理解する。<br>(2) さらに「子どもの発達」や「子どもへの教育」を、大人や老人を含めた「ライフサイクル」の全体、そしてライフサイクルの各段階での異なった世代どうしの「相互生成」から見直すことによって、「教育」を根本から考えることができる。                         |   |     | ◎        |  |          |   |           |  |  |
| 20UED12246 | 子ども理解と教育   | 2   | 教師にとって不可欠な、児童・生徒を理解する力を持つことの重要性を知り、意欲と熱意を持って教師に必要な知識や技能を学ぶ姿勢を身につける。教師としての幅広い教養とともに自分の得意分野を見つけ、児童・生徒の「生きる力」を培える基礎的な力を身につける。  | (1) 児童・生徒を理解することが教育に大きな関わりを持つことを理解する。<br>(2) 教師にとって必要な幅広い教養的知識を得る。   | ◎   |     |          |  |          |   |           |  |  |
| 20UED12248 | 学校教材としての文学 | 2   | 文学教材の鑑賞と探究的活動を通して、初等教育に携わる教師としての資質・能力の基礎を養う。  | (1) 文学教材の教材研究を行い、学習活動案を立案することができる。<br>(2) 学習した内容を踏まえて、自分の意見を持つとともに、各自で工夫した活動を行うことができる。   |   |     | ◎        |  |          |   |           |  |  |
| 20UED14260 | 児童文学論      | 4   | 近代日本の児童文学史においては、巖谷小波『こがね丸』（叢書少年文学、明治24年）をもって嚆矢とするのが通例である。その出版・刊行に伴って、我が国の児童文学もスタートしたといえよう。本授業においては、日本の近代児童文学の成立以後、現代にいたるまでどのような作品が生み出されてきたのか、その歩みを概観するとともに、個々の作品の精読・分析を通してその時代の児童文学観および子ども観を探り、社会が子どもに注いだまなざしについて考える。加えて、日本の児童文学の史的展開についても詳述し、児童文学の本質に迫ることを目標とする。 | (1) 児童文学というジャンルの歴史的発生と変遷について理解できる。<br>(2) 児童文学の代表的な作家および作品にふれ、その読み方や楽しみ方を習得できる。  |   |     | ◎        |  |          | ○ |           |  |  |

| 科目番号       | 科目名       | 学年  | 科目目的   | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |   |          |   |           |  |   |
|------------|-----------|-----|--|---|---|-----|----------|---|----------|---|-----------|--|---|
|            |           |     |  |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |   |          |   |           |  |   |
|            |           |     |  |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |   | 3. 思考・判断 |   | 4. 態度・志向性 |  |   |
| 1-1        | 1-2       | 2-1 | 2-2  | 3-1   | 3-2   | 4-1 | 4-2      |   |          |   |           |  |   |
| 20UED14262 | 日本現代文学の探究 | 4   | 中学校国語科に携わる者として必要な現代文学についての知識をより深く習得することを目的とする。具体的には、昭和、平成の時代の主な文学作品を取り上げ、個々の様々なジャンルの代表作品について読解を進め、それぞれの作品を鑑賞・読解し、学習者個人の生き方を見つめ直す。  | (1) 日本の現代文学作品に興味を持ち、作品を読み進めることができる。<br>(2) 文学作品の分析および解釈のしかたについて理解できる。   |   |     |          | ○ |          |   |           |  | ◎ |
| 20UED13260 | 言語学概論     | 3   | 国語科を指導する際に必要な言語学の知識を日本語の側面から解説する。具体的には、音声を扱う音韻論、単語の構造について学ぶ形態論、意味を考える意味論、文と場面の関係を見る語用論、国語史に絡む歴史言語学や通時言語学、方言から学ぶ言語地理学、「じゃんけん」の掛け声の地域差などを考える社会言語学という各方面からのアプローチにより、日本語とはどのような言語なのかを知り、国語を尊重する精神を養う講義を行う。   | (1) 言語のいろいろな事象について興味を持ち、体系的にとらえることの意義を理解できる。<br>(2) 日本語についての知識を通して国語を尊重する気持ちを持つことができる。  |   | ○   |          |   |          | ○ |           |  |   |
| 20UED12280 | 英語文法論 I   | 2   | 学校文法を批判的に観察・考察することによって、英語の文法に関してより深い理解と洞察を得ることを目的とする。具体的活動としては、学生および教員から出たトピックについて、その時間の授業担当者が事前に調べたり考えたりしたことを発表し、その内容について全員で議論していくという形態をとる。単に規則を暗記するのではなく、その規則が現代における実際の言語使用と合致しているのか、また、歴史上その規則はどのような変遷を経てきたのか等を調べたり考えたりすることを通して、「文法」とは「覚える」ものではなく「自分で考え、理解し、記述・分析する」ものであるという認識へと転換していきたい。このことにより、将来、中高の英語教員として授業を行う際にも「文法」に関して、より深く、柔軟で、実際の言語使用に即した取り扱いができるようになることが期待される。 | (1) 英語文法の基礎的知識を身につけ、規則について、明確に説明できるようになる。<br>(2) 英語文法の歴史についての知識を身につけ、その内容について、明確に説明できるようになる。<br>(3) 様々なテキストの中の文法の扱われ方を理解することができる。 |   | ◎   | ○        |   |          |   |           |  |   |



| 科目番号       | 科目名     | 学年  | 科目目的   | 到達目標   | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |  |          |  |           |  |  |
|------------|---------|-----|--|--|---|-----|----------|--|----------|--|-----------|--|--|
|            |         |     |  |  | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |  |          |  |           |  |  |
|            |         |     |  |  | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |  | 3. 思考・判断 |  | 4. 態度・志向性 |  |  |
| 1-1        | 1-2     | 2-1 | 2-2  | 3-1  | 3-2   | 4-1 | 4-2      |  |          |  |           |  |  |
| 20UED14266 | 英語文法論Ⅱ  | 4   | 学校文法を批判的に観察・考察することによって、英語の文法に関してより深い理解と洞察を得ることを目的とする。具体的活動としては、「英語文法論Ⅰ」で学習したことを土台に、学生および教員から出たトピックについて、その時間の授業担当者が事前に調べたり考えたりしたことを発表し、その内容について全員で議論していくという形態をとる。単に規則を暗記するのではなく、その規則が現代における実際の言語使用と合致しているのか、また、歴史上その規則はどのような変遷を経てきたのか等を調べたり考えたりすることを通して、「文法」とは「覚える」ものではなく「自分で考え、理解し、記述・分析する」ものであるという認識へと転換していきたい。このことにより、将来、中高の英語教員として授業を行う際にも「文法」に関して、より深く、柔軟で、実際の言語使用に即した取り扱いができるようになることが期待される。 | (1) 英語文法の発展的知識を身につけ、規則について、明確に説明できるようになる。<br>(2) 英語文法の歴史についての知識を深め、その内容について、明確に説明できるようになる。<br>(3) 様々なテキストの中の文法の扱われ方を分析し、明確に説明できる。                |   | ◎   | ○        |  |          |  |           |  |  |
| 20UED14270 | 英語文学の探究 | 4   | この科目では、英語文学の様々な作品を、小学校および中学校における外国語科の授業で活用するために必要な知識と実践的な活用方法を学ぶ。具体的活動としては、これまでの英語文学関連科目での学習内容を土台に、さらに探求した作品を選び、それぞれがその作品について分析するとともに、その内容を発表し、他の学生と意見を共有する。   | (1) 英語文学作品の特徴をとらえながら、内容を分析し、明確に説明できる。<br>(2) 英語文学作品について、プレゼンテーションを行い、自分の分析を明確に説明できる。<br>(3) 授業内ディスカッションにおいて、他の学生と積極的に意見を交換し、文学作品の分析力を高めることができる。  | ○   | ◎   |          |  |          |  |           |  |  |
| 20UED12286 | 英語児童文学  | 2   | この科目では、英語で書かれた絵本や童謡、詩、また童話などの児童文学を、小学校および中学校における外国語科の授業で活用するために必要な知識と実践的な活用方法を学ぶ。子どものために書かれた易しく美しい英語の言葉遣いを繰り返し聞いたり読んだりして、英語の音やリズムを体得し、物語や詩の中で使われている様々な英語表現を学習する。また、子ども向けの文学がどのような時代背景の中から生まれてきたかを理解するために、英語圏の文学、特に英米の文学の中でどのような位置にあり、どのような歴史を辿ってきたのかを概観し、代表的な英語児童文学の作品に触れる。英語児童文学の作品を通して、英語表現や発話などの具体的な英語指導ができるようになることや、作品で描かれている国や地域の文化について理解できるようになることが目標である。                                  | (1) 児童文学に含まれる英語の言葉遣いを繰り返し聞いたり読んだりして、英語の音やリズムを体得することができる。<br>(2) 物語の中で使用されている様々な英語表現を理解し、発話できるようになる。<br>(3) 児童英語文学の歴史を理解し、作家や作品の特徴を明確に説明することができる。 | ○   | ◎   |          |  |          |  |           |  |  |

| 科目番号       | 科目名         | 学年  | 科目目的   | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |   |          |   |           |   |   |   |   |
|------------|-------------|-----|--|---|---|-----|----------|---|----------|---|-----------|---|---|---|---|
|            |             |     |  |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |   |          |   |           |   |   |   |   |
|            |             |     |  |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |   | 3. 思考・判断 |   | 4. 態度・志向性 |   |   |   |   |
| 1-1        | 1-2         | 2-1 | 2-2  | 3-1   | 3-2   | 4-1 | 4-2      |   |          |   |           |   |   |   |   |
| 20UED12288 | 時事問題と英語表現   | 2   | 情報通信技術の発達によって、ますます世界が複雑に関係する現代において、多様な英語ニュースを通じて、世界に目を向け視野を広げる。同時にニュースで使われる英語を利用して、総合的な英語運用能力を高める。具体的な到達目標は、(1) 英語ニュースを通じて、世界の多様な事象・出来事等に関心を持つこと、(2) ニュースで使われる英語を利用して、総合的な英語運用能力を高めること、(3) 英語ニュースで得た情報について、自分の考え・感想、解決法を表現できることである。授業では、比較的易しい英語が使われているニュース英語を通じて、聴く・読む・話す・書くの4技能、語彙、文法の力を高める。 | (1) 英語ニュースを通じて、世界の多様な事象・出来事等に関心を持つ。<br>(2) ニュースで使われる英語を利用して、総合的な英語運用能力を高める。<br>(3) 英語ニュースで得た情報について、自分の考え・感想、解決法を表現できる。  | ○   |     |          |   |          | ◎ |           |   |   |   |   |
| 20UED12279 | 海外教育参加実習指導  | 2   | アメリカの教育現場を観察するために必要な視点を学び、コミュニケーション能力を身につける。   | (1) 留学に対する確たる目的意識を持つ。<br>(2) アメリカの教育現場を観察するための視点を持つ。  |   |     |          |   |          |   | ○         | ◎ |   |   |   |
| 20UED12292 | 海外教育参加実習    | 2   | アメリカの教育現場を観察することによって、アメリカの教育制度、学校教育、教育文化を学ぶ。   | (1) アメリカの教育の特徴を説明できる。<br>(2) 日米の教育を比較し、日本の教育について意見を持つ。<br>(3) アメリカの幼児・児童と英語でコミュニケーションがとれる。  |   |     |          |   |          |   | ○         | ◎ |   |   |   |
| 20UED12252 | 子どもと数学      | 2   | 算数・数学の探究的活動を通して、初等教育に携わる教師としての資質・能力の基礎を養う。   | (1) 小学校算数科の内容の数学的背景を理解し、数学的に見通しをもって算数科を指導する数学的技能・表現を身につける。<br>(2) 子どもたちの数学的思考力を涵養するための教材を開発することができる。<br>(3) 初等・中等教育段階で求められる数学の基礎的な概念や原理・法則について興味・関心を持ち探究することができる。 |   |     |          |   |          |   | ○         |   | ◎ |   |   |
| 20UED13244 | 理科教育実践      | 3   | 初等理科教育における実験・観察等の体験的・探究的活動を通して、初等教育に携わる教師としての資質・能力の基礎を養う。  | (1) 初等理科教育において教材となっている実験・観察について実験教材を開発することができる。<br>(2) 学習した内容を踏まえて、自分の意見を持つとともに、各自で工夫した活動を行うことができる。<br>(3) 小学校理科の内容を理解し、教材に関する基礎的な知識および技能を習得することができる。             |   |     |          |   |          |   | ◎         |   | ○ | ○ |   |
| 20UED14241 | 音楽科教育実践     | 4   | 合唱・合奏において、発声法や楽器の使い方についての基本的な技術を学び、それらの曲を指揮・指導できる能力を養う。また、音楽理論も深め、同時に指揮法も学ぶことによって、授業実践に活用できる技能や知識を身につける。   | (1) 音・楽器・形式などを工夫し、自身の持つ音楽的イメージを表現できる。<br>(2) 音楽理論や指揮法を授業実践に活用できる。   |   |     |          |   |          |   | ◎         |   |   | ○ | ○ |
| 20UED12258 | 調理と裁縫の生活スキル | 2   | 調理と裁縫などの生活スキルの体験的・探究的活動を通して、幼児・児童の「生きる力」育成に携わる教師としての資質・能力の基礎を養う。   | (1) 手縫い・ミシン縫いによって作品を製作することができる。<br>(2) 調理実習の指導計画を立案することができる。<br>(3) 学習した内容を踏まえて、自分の意見を持つとともに、各自で工夫した活動を行うことができる。  |   |     | ○        | ◎ |          |   |           |   | ○ |   |   |

| 科目番号       | 科目名             | 学年 | 科目目的   | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |     |          |     |           |     |   |   |  |
|------------|-----------------|----|--|---|---|-----|----------|-----|----------|-----|-----------|-----|---|---|--|
|            |                 |    |  |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |     |          |     |           |     |   |   |  |
|            |                 |    |  |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |     | 3. 思考・判断 |     | 4. 態度・志向性 |     |   |   |  |
|            |                 |    |  |   | 1-1   | 1-2 | 2-1      | 2-2 | 3-1      | 3-2 | 4-1       | 4-2 |   |   |  |
| 20UED14243 | 体育・スポーツ演習       | 4  | 多様な運動・スポーツおよび保健の体験的・探究的活動を通して、小学校教師としての資質・能力の基礎を養う。小学校運動領域で取り扱う各種運動を実施するとともに、保健領域で取り扱う内容について教材研究を行う。                         | (1) 器械運動、ボール運動等において、小学校体育科の授業において見本を見せるための実技力を身につけている。<br>(2) 保健領域の教材研究において、学習指導要領に示される内容について探求し、その成果を発表できる。  |   |     | ◎        |     |          |     |           |     |   | ○ |  |
| 20UED12282 | 教室で使う英語表現       | 2  | アメリカの小学校および幼稚園での「海外教育参加実習」に必要な英語表現を学ぶ。   | (1) アメリカの幼児・児童と英語でコミュニケーションがとれる。<br>(2) 英語で教室内での説明、指示ができる。  |   |     | ◎        | ○   |          |     |           |     |   |   |  |
| 20UED12256 | 教育プログラミング       | 2  | 学校教育において重視されつつある「プログラミング的思考」を理解し、子どもたちに、コンピュータに意図した処理を行うように指示することができるということを体験させながら、課題解決能力を養う技法を学ぶ。                           | (1) 身近な生活でコンピュータが活用されていることや、問題の解決には必要な手順があることを理解している。<br>(2) 発達の段階に即して「プログラミング的思考」を育成する能力、コンピュータの働きをよりよい人生や社会づくりに生かそうとする態度を涵養することができる。  |   |     | ◎        |     |          |     | ○         |     |   |   |  |
| 20UED13241 | 学級担任論           | 3  | 小・中学校教育における学級担任の役割と仕事の理解を通して、教師としての資質・能力の基礎を養う。  | (1) 学級担任の役割について理解する。<br>(2) 学級の運営計画を立案することができる。   |   |     | ◎        |     |          |     |           |     |   | ○ |  |
| 20UED14241 | 教科指導演習          | 4  | 小学校の授業に必要な教授技術に関わる体験的活動を通して、教授技術について理解し、小学校教師としての資質・能力の基礎を養う。そのために、授業づくりの基本的な枠組みについての知識および実践的能力、授業づくりの基本的な技術、姿勢を身につける。       | (1) 授業づくりの基本的な枠組みについての知識および実践的能力、授業づくりの基本的な技術、姿勢を理解している。<br>(2) 授業の三要素（教師、子ども、教材）について分析的にとらえ、小学校全科の教材研究、教材づくりに活用できる。  |   |     | ◎        |     |          |     |           |     | ○ |   |  |
| 20UED14243 | 教職総合実践          | 4  | この期までの開講科目である各教科の内容と教育法についての学び、クラス経営や生徒指導などの授業科目を通じた学び、そして3年次後期の教育実習や自らのボランティア活動における実体験を通じた学び等を総合的に振り返り、後期開講の教職実践演習へと学びを繋げる。 | (1) 教師に求められる使命感・責任感・教育的愛情を身につけている。<br>(2) 教師に求められる社会的対人関係能力を身につけている。<br>(3) 児童・生徒等への理解力と学級経営力を身につけている。<br>(4) 教科内容の指導力の各観点に関して、自身の意見を確固たるものにしていく。                                   |   | ○   | ◎        |     |          |     |           |     | ○ |   |  |
| 20UED12263 | 知的障害者の心理・生理・病理  | 2  | 知的障害児・者の心理・生理・病理の特徴を学び、特別支援教育のための基礎的知識を習得する。   | (1) 知的障害児・者の教育や支援に必要な最低限の知識を習得する。<br>(2) 特別支援教育に携わるために必要な発展的科目習得の準備をする。<br>(3) 特別支援教育だけでなく、保育・初等教育に携わる者として必要な最低限の知識を習得する。   |   |     | ◎        |     |          |     |           |     |   |   |  |
| 20UED13261 | 肢体不自由者の心理・生理・病理 | 3  | 将来「特別支援教育」に携わる教諭および保育士だけでなく、広く「肢体不自由児・者」の理解への糸口となる。  | (1) 体が動く仕組みを理解する。<br>(2) 肢体不自由児・者の心理・生理・病理特徴を理解する。  |   |     | ◎        |     |          |     |           |     |   |   |  |
| 20UED12265 | 病弱者の心理・生理・病理    | 2  | 病弱者教育の基盤として、病弱者の心理、生理、病理の知識を学ぶ。慢性疾患を患ったことから発生する、身体と生理的側面、心理的側面、社会的側面にわたる影響を学び、病弱者とその家族にあった適切な支援ができる教員としての資質を培う。              | (1) 病気の基礎知識（生理と病理など）、そして心理状態について学び、教育上の指導や教育的配慮を理解する。<br>(2) 病気、病弱の子どもの個別性を理解し、個別学習指導計画を立案できる基礎を学ぶ。<br>(3) 病気のある子どもに対する特別支援学校教諭の教育の役割を考える。<br>(4) 病弱者とその家族が暮らしやすい社会の実現について考えを深化させる。 |   |     | ◎        |     |          |     |           |     |   |   |  |

| 科目番号       | 科目名       | 学年  | 科目目的   | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |  |          |  |           |  |  |
|------------|-----------|-----|--|---|---|-----|----------|--|----------|--|-----------|--|--|
|            |           |     |  |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |  |          |  |           |  |  |
|            |           |     |  |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |  | 3. 思考・判断 |  | 4. 態度・志向性 |  |  |
| 1-1        | 1-2       | 2-1 | 2-2  | 3-1   | 3-2   | 4-1 | 4-2      |  |          |  |           |  |  |
| 20UED14261 | L D 等教育総論 | 4   | 学習障害 (LD)、注意欠如・多動症 (ADHD) 等の自閉症スペクトラム、言語障害、情緒障害、重複障害について理解し、その指導について学ぶ。  | (1) 学習障害 (LD)、注意・欠如多動症 (ADHD) 等の自閉症スペクトラム、言語障害、情緒障害、重複障害について理解する。<br>(2) 上記の障害がある子どもへの指導について学ぶ。   |   | ○   | ◎        |  |          |  |           |  |  |
| 20UED12602 | 英語文学入門    | 2   | 英語で書かれた文学を学ぶ中で、英語による表現力への理解を深めるとともに、英語が使われている国・地域の文化について学ぶ。中学校における外国語科の授業に生かすため、英米を中心とした英語圏の文学の諸相を概観し、文学とその背景にある文化・社会との関係性を理解する。 | (1) 文学作品において使用されている様々な英語表現について理解している。<br>(2) 文学作品で描かれている、英語が使われている国・地域の文化について理解している。<br>(3) 英語で書かれた代表的な文学について理解している。  | ○   | ◎   |          |  |          |  |           |  |  |
| 20UED13621 | 中等英語科教育法Ⅰ | 3   | 中学校英語科における教育目標と育成したい資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について理解を深める。さらに、背景となる「教科に関する専門的事項」について、指導法という観点から理解する。                               | (1) 学習指導要領における中学校英語科の目標および主な内容並びに全体構造を理解している。<br>(2) 英語科の個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。<br>(3) 英語科の学習評価の考え方を理解している。<br>(4) 英語科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。<br>(5) 英語科の授業を構想する能力を身につけている。 |   | ◎   | ○        |  |          |  |           |  |  |
| 20UED13623 | 中等英語科教育法Ⅱ | 3   | 様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行い、中学校英語科の授業を構築する力を身につける。さらに、中学校英語科を教授する際に必要となる教材活用の理論と方法について学ぶ。                                 | (1) 生徒の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。<br>(2) 英語科の特性に応じた教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。<br>(3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。  | ◎   | ○   |          |  |          |  |           |  |  |
| 20UED13622 | 中等英語科教育法Ⅲ | 3   | 中学校英語科の授業を実施するための教科指導力・授業実践力を修得し、授業を行うに当たって必要な「教師としての振る舞い」とコミュニケーションを学ぶ。   | (1) 模擬授業において授業を実施できる。授業改善の視点を身につけている。<br>(2) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。<br>(3) 発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置づけを考察することができる。<br>(4) 授業での授業者としての立ち居振る舞いとコミュニケーション能力を身につけている。               | ○   | ◎   |          |  |          |  |           |  |  |
| 20UED13624 | 中等英語科教育法Ⅳ | 3   | これまでの歴史と現在の課題を学び、中学校英語科の教員としての資質を身につけ、英語科における教育の実践的課題を引き受け、授業を構想する教師としての実践力を探求する。  | (1) 英語科教育における教育の歴史を学び、自身の指導に取り入れることができる。<br>(2) 英語科における教育の現代的課題を知り、対応する力を身につけている。<br>(3) 英語科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。<br>(4) 英語科の特性に応じた情報機器の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。           | ○   | ◎   |          |  |          |  |           |  |  |



| 科目番号       | 科目名           | 学年  | 科目目的  | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |   |          |  |           |  |   |
|------------|---------------|-----|---|---|---|-----|----------|---|----------|--|-----------|--|---|
|            |               |     |   |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |   |          |  |           |  |   |
|            |               |     |   |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |   | 3. 思考・判断 |  | 4. 態度・志向性 |  |   |
| 1-1        | 1-2           | 2-1 | 2-2   | 3-1   | 3-2   | 4-1 | 4-2      |   |          |  |           |  |   |
| 20UED14631 | 教育実習事前事後指導（中） | 4   | 教育実習を行う上で必要となる中学校教育全般にわたる基本的理解を図る。中学校教育に関わる実践的知識と教育実習の意義の理解を通して、教育者としての自覚を持ち実践的指導力の基礎を養う。事前指導では、講義を通して実習生として遵守すべき義務等や望ましい態度・技能を理解し、実習生として教育活動に参画する意識を高める。事後指導では、教育実習を振り返り、教職への認識を確かなものとするとともに、グループ・ディスカッションなど具体的な活動を通して今後さらに習得すべき知識・技能等を理解する。 | (1) 中学校教育に関わる教師の活動と、教育実習の意義について理解する。<br>(2) 理論の理解を通して得た様々な情報を踏まえて、自身の課題を設定することができる。<br>(3) 学校教育全般に関する基本的な知識を理解する。<br>(4) 教職と自己に対する認識を深める。<br>(5) 中学校教諭としての自覚を高め、態度・技能を修得する。           |   |     | ◎        | ○ |          |  |           |  | ○ |
| 20UED14691 | 教育実習（中）       | 4   | 中学校教育に関わる実習という体験的活動を通して、教育者としての愛情と使命感を深め、自覚を持ち、実践的指導力の基礎を習得する。教育実習は教職課程の総合的、実践的意義を持つ教育体験の場である。講義で得た専門的知識を各教科や教科外活動の指導場面で実践することにより、教育者としての資質の向上を図る。中学校の教育活動の場に臨み、生徒と直接ふれ合い、指導教員の指導を受けながら教育者に求められる基礎的な知識、技能、態度を習得する。                            | (1) 中学校教育に関わる教師の活動について理解する。<br>(2) 授業およびその他の活動中に、現職教師の援助を受けながら、適切に子どもを指導することができる。<br>(3) 実践を通して得た様々な情報を踏まえて、自身の課題を設定することができる。<br>(4) 中学校教諭を目指すものとして必要な、知識・技能、意欲・態度、問題解決能力等の指導力を身につける。 |   |     | ◎        | ○ |          |  |           |  | ○ |